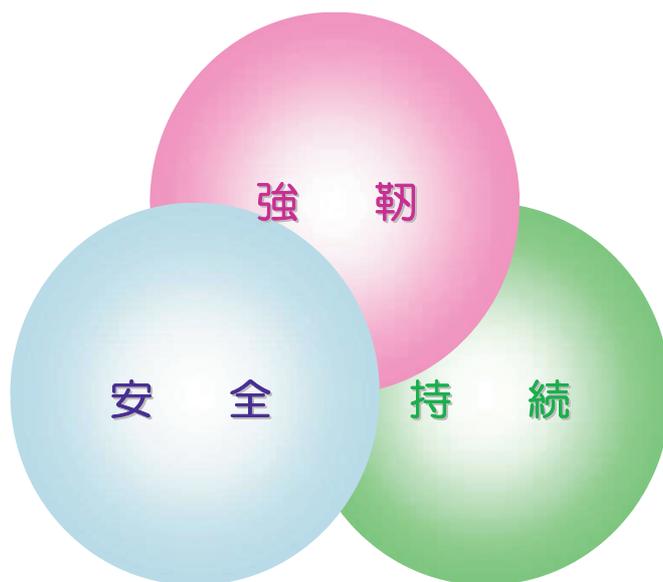


新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～

前期実施計画（平成28年度）の取り組み状況

概要版



平成29年9月

新潟市水道局

目次

趣旨、事業評価概要・・・P2

事業・取り組み担当課1次評価結果一覧・・・P3

1次評価結果概要・・・P4～P5

2次評価結果概要・・・P6

事業・取り組みの実施状況・・・P7～P10

重点目標の推移・・・P11～13



平成28年度の評価結果、
取り組み状況を報告します。

水太郎

趣旨

本市では、平成27年3月に将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とした、「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」(平成27年度～平成36年度)を策定し、事業を推進しています。また、目指す方向性実現のため、具体的な事業・取り組みと、財政計画などを定めた「新・マスタープラン実施計画」(計画期間：前期3年、中期3年、後期4年)を策定し、毎年度行う事業評価の結果を踏まえ、今後の事業に活用していくこととしています。

事業評価の概要

「新・マスタープラン前期実施計画」は、3つの方向性「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの施策を設け、31の「事業取り組み」を行っています。評価については、1次評価は所管課で「事業取り組み」ごとに、効率性、有効性の評価をし、2次評価は外部機関の水道事業経営審議会で次年度以降の方向性を評価します。

1次評価

効率性総合評価

効率性 A	・・・ 非常に高い
効率性 B	・・・ 高い
効率性 C	・・・ 普通
効率性 D	・・・ 低い
効率性 E	・・・ 非常に低い

有効性総合評価

有効性 A	・・・ 非常に高い
有効性 B	・・・ 高い
有効性 C	・・・ 普通
有効性 D	・・・ 低い
有効性 E	・・・ 非常に低い

2次評価

方向性総合評価

拡充	・・・ 今まで以上に力を入れて事業に取り組むことが適当
維持	・・・ 今までどおり事業に取り組むことが適当
終了(完了)	・・・ 事業・取り組みは終了した
改善・見直し	・・・ 事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当
縮小	・・・ 事業の取り組み規模を縮小することが適当

事業・取り組み担当課・1次評価結果一覧

方向性	施策	事業・取り組み	担当課	効率性	有効性	
安全でおいしい水道水の供給 《安全》	I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	水質管理課	C	C	
		I-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	C	C	
		I-3 水質管理体制の強化	水質管理課	C	C	
		I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	B	C	
		I-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	B	A	
	II 給水装置における 水質保持	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	C	C	
		II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	C	B	
		II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	管路課	C	C	
強靱な施設・体制による給水確保 《強靱》	III 水道施設の計画的更新	III-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	C	C	
		III-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	D	C	
		III-3 鉛給水管の計画的更新	管路課	B	A	
	IV 災害対策・体制の強化	IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	C	C	
		IV-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	D	C	
		IV-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	B	A	
		IV-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	C	C	
		IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	A	A	
		IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	B	C	
	環境の変化に柔軟に対応した 健全な事業運営の持続 《持続》	V 経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	C	C
			V-2 定員・給与の適正化	総務課	C	B
			V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課	C	C
V-4 遊休資産の有効活用			経営管理課	C	E	
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施			経営管理課	C	C	
V-6 水道事業経営審議会の効果的運用			経営管理課	C	C	
VI 積極的な情報提供と お客さまニーズの把握		VI-1 戦略的な広報の実施	総務課	C	B	
		VI-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	B	C	
		VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	B	C	
		VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	B	C	
VII 技術・知識を有する 人材の確保と育成		VII-1 人材育成と専門性の強化	総務課	B	B	
		VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	C	B	
VIII 環境に配慮した事業運営		VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	C	B	
		VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課	C	C	

1次評価結果の概要

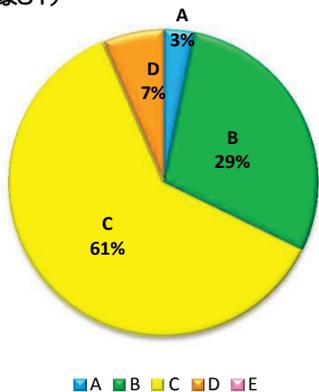
1. 1次評価結果の集計

(1) 効率性評価

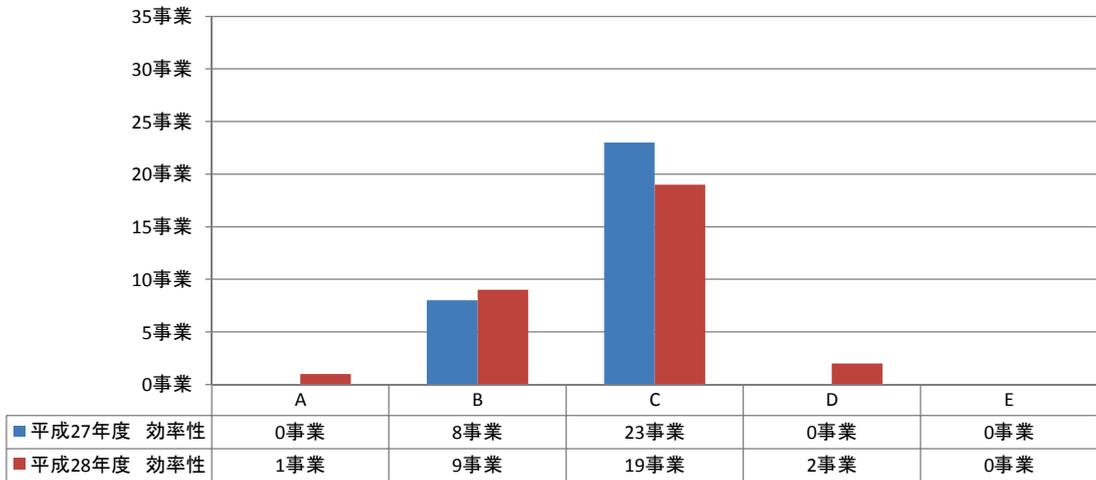
評価値	事業数	備考
A	1事業	Ⅳ-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	9事業	
C	19事業	
D	2事業	Ⅲ-2管路施設の計画的更新 Ⅳ-2管路施設の計画的耐震化
E	0事業	
計	31事業	

効率性評価は、当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか評価するものです。評価全体では、評価点9～10点の「A非常に高い」評価事業は1事業、3%、7～8点の「B高い」評価事業は9事業、29%、評価点5～6点の「C普通」評価事業は19事業、61%、3～4点の「D低い」評価事業は2事業、7%でした。外的要因などによる「D低い」評価があるものの、31事業中28事業、90%の事業が効率性の目標を達成しました。

効率性評価結果割合
(評価対象31)



効率性評価結果の経年変化

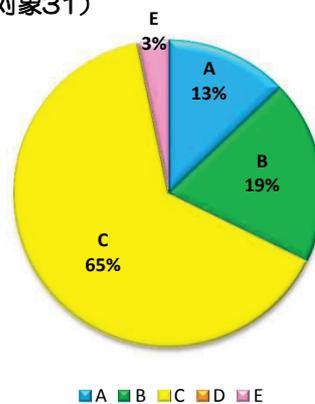


(2)有効性評価

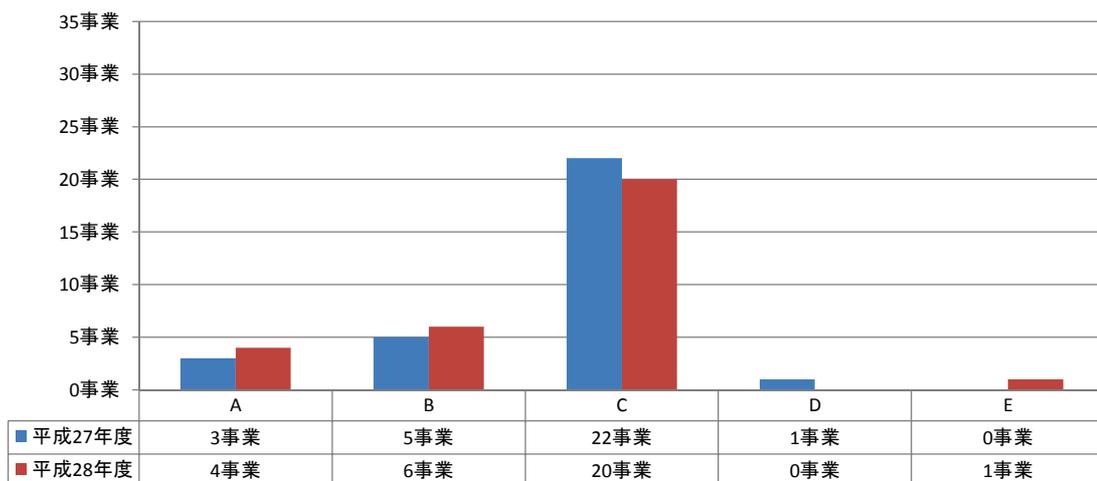
評価値	事業数	備考
A	4事業	I-5分かりやすい水質情報の提供 III-3鉛給水管の計画的更新 IV-3重要施設向け配水管の耐震化 IV-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	6事業	
C	20事業	
D	0事業	
E	1事業	V-4遊休資産の有効活用
計	31事業	

有効性評価は、重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか評価するものです。有効性総合評価の結果は、評価9～10点の「A非常に高い」評価事業は4事業、7～8点の「B高い」評価事業は6事業を合わせると10事業、32%でした。5～6点の「C普通」評価事業は20事業、65%、3～4点の「E非常に低い」評価事業は1事業、3%でした。31事業中30事業、97%の事業が有効性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合
(評価対象31)



有効性評価結果の経年変化



2次評価結果の概要

1. 2次評価結果の目的

「すべてのお客さまに信頼される水道」であるためには、お客さまの視点として、外部機関である水道事業経営審議会
で、各事業取り組みの実施状況、目標の達成度などを確認したうえで、効率性、有効性、についての評価を受け、今後
の方向性を明確にしていくことを目的としています。

2. 2次評価結果の集計

評価値	拡充	維持	終了（完了）	改善・見直し	縮小	計
事業数						〇事業

3. 改善・見直しとした事業

事業・取組み		効率性 評価	有効性 評価	経営審議会総評	所管課

事業・取り組みの実施状況

安全でおいしい水道水の供給

すべてのお客さまに、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を供給する水道を目指します。

施策Ⅰ 水質管理の充実・強化

主な取り組み

- I-1 水源水質の監視
 ・水源の監視及び調査の実施
 I-2 水安全計画の充実・適切な運用
 ・水安全計画の評価・見直しの実施
 I-3 水質管理体制の強化
 ・水道GLPの維持・更新
 ・人材育成及び技術継承

- I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理
 ・独自管理目標値による水質管理
 I-5 分かりやすい水質情報の提供
 ・啓発活動の継続
 ・分かりやすい情報提供

I-1 水源水質の監視	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
河川水質事故による水道水の影響		0%	0%
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
水道原水の水質調査		2回・4回	2回・4回
浄水施設での対応が困難な物質の監視		4回・8回	4回・8回

I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
農業濃度管理目標達成率		100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率		100%	100%
残留塩素管理目標達成率		91%	90%
臭気強度管理目標達成率		100%	100%

I-2 水安全計画の充実・適切な運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
浄水場「水安全計画」の評価実施率		100%	100%

I-5 分かりやすい水質情報の提供	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
さわやかトーク宅配便等年間実施数		10回・20回	14回・32回

I-3 水質管理体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
検査機器の保守点検実施率		100%	100%
教育訓練実施率		100%	100%
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
水質検査の公表回数		12回・24回	12回・24回



施策Ⅱ 給水装置における水質保持

主な取り組み

- II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化
 ・教育委員会との協議
 II-2 受水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施
 ・貯水槽清掃強化月間の設定のための協議
 ・民間清掃会社との協体制構築に向けた関係機関との協議
 ・貯水槽施設衛生管理指導業務の委託

- II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上
 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を要請
 ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施
 ・指定給水装置工事事業者の表彰実施
 ・熊本地震への復旧支援に対し、特別表彰を実施

II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率		63.7%・63.7%	63.7%・63.7%

II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
給水装置に係る事故件数		0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率		74.2%	80.1%
指定給水装置工事事業者の表彰実施		実施	実施

II-2 受水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
貯水槽清掃実施率（簡易専用水道）		92.9%	96.9%
貯水槽清掃実施率（小規模貯水槽水道）		65.6%	72.1%
貯水槽清掃実施率（全体清掃率）		76.6%	82.3%

強靱な施設・体制による給水の確保

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

施策Ⅲ 水道施設の計画的更新

主な取組み

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新

- 阿賀野川浄水場整備事業
 - ポンプ場築造工事の実施（平成29年度完了予定）
 - 電気設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
 - 自家発電設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
 - 監視制御設備更新工事の実施（平成31年度完了予定）
 - ポンプ設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
- 配水場整備事業
 - 内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成29年度完了予定）
 - 竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施（平成30年度完了予定）
 - 経年劣化した設備の個別整備

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新

- 基幹管路更新
- 配水支管更新

Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新

- 小口径老朽管更新（ガス工事競合）
- 小口径老朽管更新（局単独工事）
- 他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等）
- 連合鉛給水管更新
- 鉛給水管更新（戸別）

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
阿賀野川浄水場整備事業		実施	実施
配水場整備事業		実施	実施

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	評価結果	効率性 D	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
基幹管路更新延長		4,900m	4,190m（見込み）
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		9,800m	9,060m（見込み）
配水支管更新延長		26,500m	16,941m（見込み）
※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		49,200m	34,983m（見込み）

Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
鉛給水管率		7.0%・7.0%	6.3%・6.3%



施策Ⅳ 震災対策・体制の強化

主な取組み

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化

- 耐震補強実施【土木構造物】
 - 阿賀野川浄水場構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（平成31年度完了予定）
 - 阿賀野川沈砂池耐震補強の実施（平成29年度完了予定）
 - 青山向け導水管サージタンク転倒対策工事実施設計業務の実施

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化

- 基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せ管路施設の耐震化を実施

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化

- 計画に基づき重要施設向け配水管の耐震化を実施（行政機関：2施設 医療機関1施設）

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進

- 基幹管路整備に併せた小ブロックの構築（小ブロック構築数1ブロック）

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備

- 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化

- 各種災害マニュアル類の見直し
- 戸頭浄水場の住民用応急給水設備の整備完了
- 災害時の協力体制および連携体制の拡充
 - 他団体との災害時応援協定の締結（地方公共団体等1件、民間団体等2件）
 - 応急給水訓練実施（南区2箇所、江南区1箇所）

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
【建築物】（完了数／全計画数）		—	—
【土木構造物】（完了数／全計画数）		1／13 2施設	2／13 2施設

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
小ブロック構築率		84.4%・84.4%	82.2%・82.2%

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 D	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
管路耐震適合率		67.7%	67.6%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		67.7%	67.6%（見込み）
基幹管路耐震適合率		61.0%	61.2%（見込み）
※算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用		61.0%	61.2%（見込み）

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	評価結果	効率性 A	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
相互連絡管整備延長		450m・1,560m	530m・1,604.8m

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	評価結果	効率性 B	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
重要施設向け配水管の耐震化		2施設	3施設（見込み）
※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		5施設	6施設（見込み）

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
給水車用常設注水設備の整備		—	—
住民用応急給水設備の整備		1箇所（戸頭） 2箇所	1箇所（戸頭） 2箇所

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

施策V 経営基盤の強化

主な取組み

- V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理
- ・中長期的な更新需要の見直し
 - ・施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備
- V-2 定員・給与の適正化
- ・定員の適正化・・・平成29年度より委託する水道料金等収納業務について業務分析を実施。新設調査業務を委託化し、適正な人員を削減
 - ・給与の適正化・・・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施
- V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施
- ・公募型プロポーザル方式により業者を選定し委託契約、29年度からの運用に向けた、委託契約業者との業務引き継ぎ準備

- V-4 遊休資産の有効活用
- ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の実施
- V-5 時代に即した料金制度の検討・実施
- ・料金体系の調査研究、料金制度等の現状と課題の整理
- V-6 水道事業経営審議会の効果的運用
- ・水道事業経営審議会開催（2回/年）
 - ・新・マスタープランの事務事業に対する2次評価の実施



V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
更新計画の見直し		—	一部実施
施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備		実施	実施

V-4 遊休資産の有効活用	評価結果	効率性 C	有効性 E
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
有効活用の実施・協議・調整等累計施設数		1施設 4施設以上	0施設 4施設以上

V-2 定員・給与の適正化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
職員数（年度末職員数≦職員定数）		346人	337人

V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
「水道料金算定要領」に基づく料金シミュレーション（調査研究）		実施	実施

V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道料金等収納業務委託の実施（準備・業者選定）		実施	実施

V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施

施策VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

主な取組み

- VI-1 戦略的な広報の実施
- ・独自イベント・・・施設見学など
 - ・お客さまに直接働きかける広報・・・災害パネル展示、出前講座など
 - ・デジタルメディアを活用する広報・・・ホームページなど
 - ・紙媒体による広報・・・広報紙、検針票裏面など
 - ・漫画を活用する広報・・・小学生向けパンフレット、工事看板など
- VI-2 お客さまの意見・要望の把握
- ・一般家庭向けのお客さまアンケートを実施
 - ・水道モニター制度の運用

- VI-3 分かりやすい経営情報の開示
- ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供・・・ホームページで公表
 - ・経営効率化に関する取り組み情報の提供・・・広報紙「水先案内」に掲載
- VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供
- ・保管管理、検査、有効利用、情報提供を継続的に実施

VI-1 戦略的な広報の実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度		64%	72%
「新潟市水道局広報戦略」に基づく効果的な広報の実施※		実施	実施

VI-3 分かりやすい経営情報の開示	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上
経営効率化に関する取り組み情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	1回/年以上

VI-2 お客さまの意見・要望の把握	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケート調査の実施		実施	実施
水道モニター活動回数（モニター会議、施設見学会等開催数）		5回	4回

VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続		開示	実施
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続		開示	実施

施策Ⅶ 技術・知識を有する人材の確保と育成

主な取組み

- Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化
- ・技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施
 - ・職員研修基本計画の見直し実施
 - ・各種研修は研修計画に基づき継続的に実施
 - ・水道研修センターの効果的運用

- Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流
- ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	評価結果	効率性 B	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度末職員数)		15.2時間	15.6時間

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
国際研修等への参加人数		2人・4人	2人・9人

施策Ⅷ 環境に配慮した事業運営

主な取組み

- Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進
- ・改良土の利用促進
 - 建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化（再生率100%）
 - 建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用（再生率17.4%）

- Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進
- ・環境計画の運用
 - ・環境会計の作成・公表
 - ・省エネルギー対策の推進・・・満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業完了、戸頭浄水場LED照明導入

Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
建設副産物のリサイクル率		37.7%	37.9%

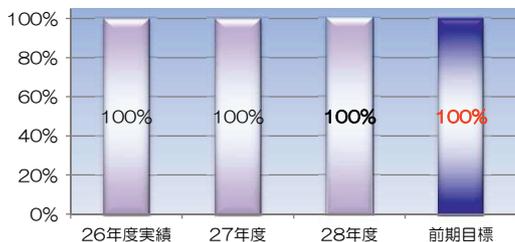
Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道局環境計画の策定・運用		実施	実施
環境会計の作成・公表		実施	実施



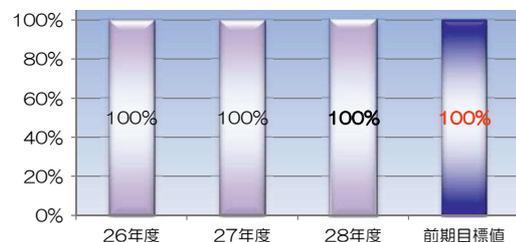
重点目標の推移

■安全でおいしい水道水の供給

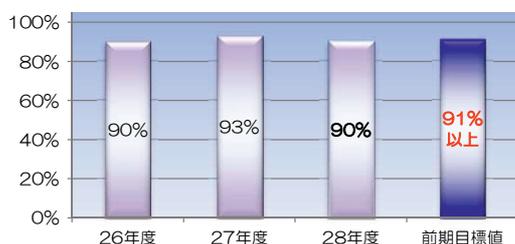
・農薬濃度管理目標達成率



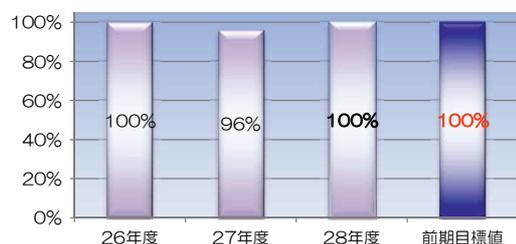
・総トリハロメタン濃度管理目標達成率



・残留塩素管理目標達成率



・臭気強度管理目標達成率



・学校施設水飲み水栓の直結給水化率

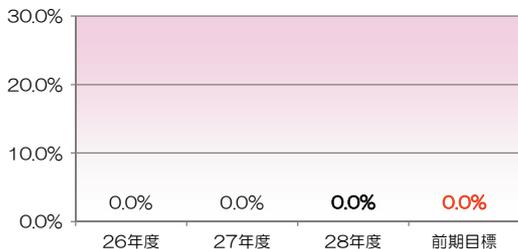


・貯水槽清掃実施率

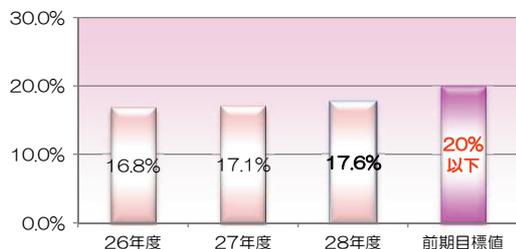


■強靱な施設・体制による給水の確保

・老朽化浄水施設率



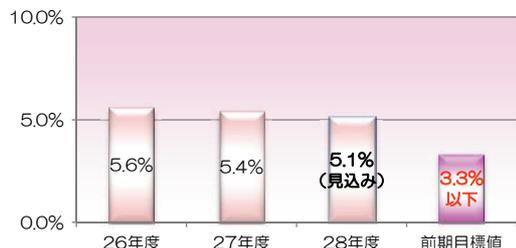
・老朽化設備率



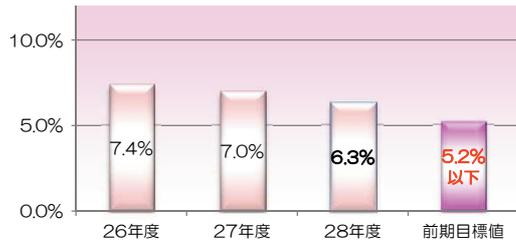
・老朽化管路率 ※1



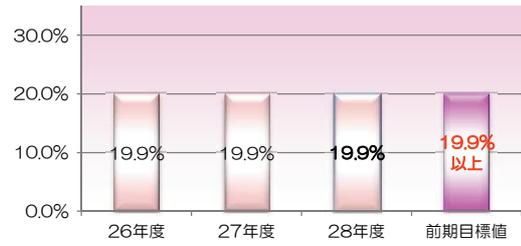
・老朽化基幹管路率 ※1



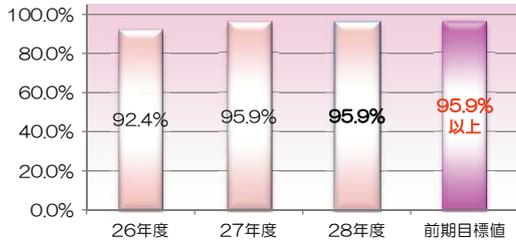
・鉛製給水管率



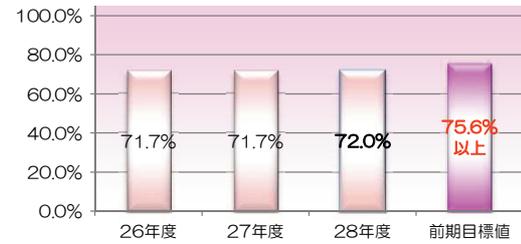
・浄水施設耐震率



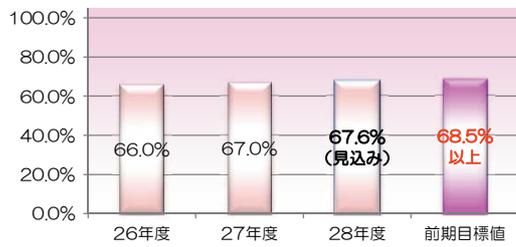
・ポンプ所耐震施設率



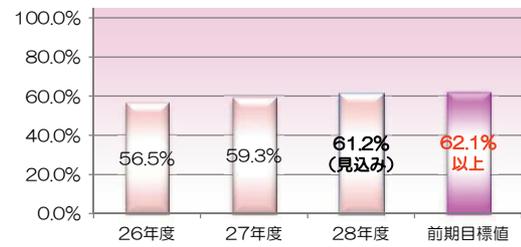
・配水池耐震施設率



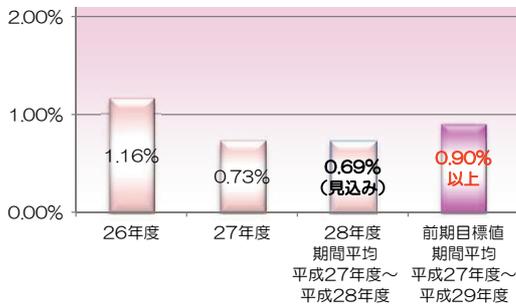
・管路耐震適合率 ※1



・基幹管路耐震適合率 ※1



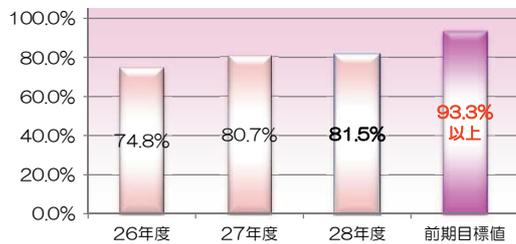
・管路更新率（期間平均） ※1 ※2



・基幹管路更新率（期間平均） ※1 ※2



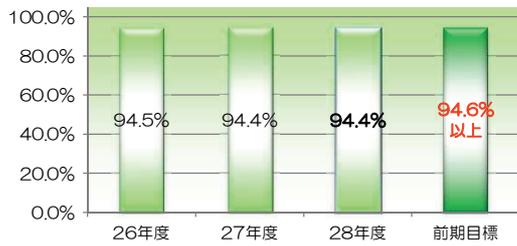
・小ブロック構築率



※1 算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用
 ※2 27年度以降は、27年度から各期末までの管路更新率(管路更新延長/管路総延長)平均値。

■環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

・有収率



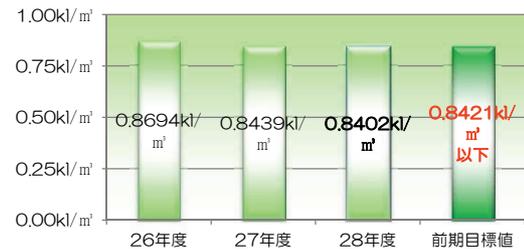
・施設利用率



・施設最大稼働率



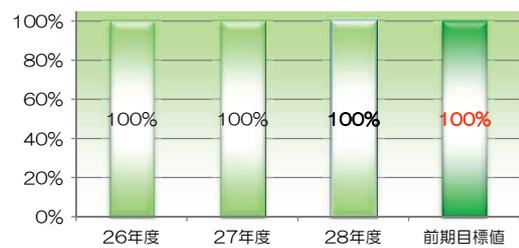
・エネルギー原単位



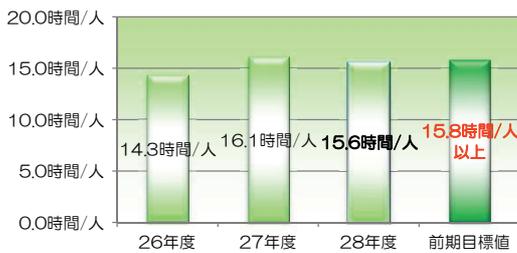
・再生可能エネルギー利用率



・浄水発生土の有効利用率



・内部研修実施時間



新・マスタープラン事業評価管理シート

平成28年度評価結果

平成29年9月

新潟市水道局

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-1	水源水質の監視	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	---------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	同一の水源を利用する水道事業体や関係機関と連携し、情報共有体制の構築や河川の水質調査を行うことにより、浄水処理への影響を未然に防ぎます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度		28年度
	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。		水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。
	29年度		29年度
	水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。		水源の監視・調査 ・信濃川・阿賀野川両水系水質協議会(両水協)および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施する。 ・灯油流出などの水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施する(365日24時間)。 ・水道原水の共同調査を実施する(信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業体の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査)。 ・浄水施設での対応が困難な物質を監視する。特に、水質基準外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査する。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	960,000		741,100		878,000				
	執行額(b)	931,400		741,100						
	執行率(%) (b) / (a)	97%		100%		0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	144時間		120時間	120時間		120時間		
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	120%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月		
	単位あたりの 作業量(c/d)	10時間	12時間		10時間	10時間		10時間		
	(月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・水質事故通報は例年油流出事故が多い。協議会の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・重油流出事故等の大規模な水質事故に際して適切に対応し、水道水への影響を防ぐことができました。	・県内13水道事業体を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成27年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・平成28年1月末より発生した阿賀野川水系の異常臭気の際に、両水協として河川水の臭気確認を強化しながら原因究明を進め、河川管理者等と連携し対応を進めました。本市においては、阿賀野川より取水する全ての浄水場において適切に粉末活性炭処理を行うことにより、違和感の無い水道水を供給しお客さまへの負の影響を回避しました。			・県内13水道事業体を会員として構成される両水協では、水道水の原料となる河川の水質を保全するために連絡通報網の整備や啓発活動に取り組んでいます。平成28年度は両水協の取組みの一つである水質事故時の緊急連絡体制の活用により、水質事故による水道水への被害を未然に防止することができました。 ・両水協として平成28年11月に水質技術研修会を開催し、平成28年1月末に阿賀野川水系で発生した異常臭気に係る事業体の対応事例の紹介と水源水質事故に対する基本的な考え方に関して、協力頂いた国立保健医療科学院の先生より講演いただき、会員および関係者間で情報共有を図りました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水源の監視及び調査	2点			水源の監視及び調査	1点						
	平均(A)	2.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
河川水質事故による 水道水の影響	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	0	0	0	0%	100%	3点	0%	100%	3点	0%	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点
水道原水の水質調査	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	2回	2回	2回	2回	100%	3点	2回	100%	3点	2回	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	2回	4回	6回	2回	100%	3点	4回	100%	3点	4回	100%	3点
浄水施設での対応が 困難な物質の監視	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4回	4回	4回	4回	100%	3点	4回	100%	3点	4回	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	4回	8回	12回	4回	100%	3点	8回	100%	3点	8回	100%	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>本事業の活動予算については、両水協負担金として運営会費等を新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会(毎年6月実施)で承認される事業であり、平成27年度予算については概ね予定通りの執行であったと評価しています。</p>			<p>本事業の活動予算については、両水協負担金として運営会費等を新潟県内13水道事業体の有収水量に応じて案分された額が充てられています。共同調査、上流調査、技術研修会の開催など、同協議会の事業計画および年間予算については、両水協総会(毎年6月実施)で承認される事業です。平成28年度予算の執行状況については、総会に先立ち開催される幹事会において、概ね予定通りの執行であったと評価されました。</p>					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件以上発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体のお客さまへの影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、水道水に影響するおそれのある臭気物質や未規制物質の調査結果より会員事業体の共益となる情報が得られました。</p> <p>なお、本市に直接影響する事業としては、本市取水地点の近くで発生した油流出事故については、主体的な情報収集と関係機関への確実な周知を行い浄水処理への影響を未然に防止できました。また、阿賀野川で発生した異常臭気対応については、関係機関と密接に連携しお客さまへの影響を防止し発生原因を特定することができました。</p>			<p>両水協の活動を通して、信濃川水系および阿賀野川水系で年間100件以上発生している水質事故について、事故発生時の迅速な連絡通報と関係機関との情報共有に努めることにより、水系全体のお客さまへの影響を未然に防ぎました。加えて、年次計画にある共同調査や特別調査を実施し、水道水に影響するおそれのある臭気物質や未規制物質の調査結果より会員事業体の共益となる情報が得られました。また、幹事会や技術研修会等を通して、会員相互の連携がより強化され、本事業の目的である水源に内在するリスクの顕在化を未然に防止する取組みに対して十分な有効性があったと評価できます。</p>					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持 経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
【方向性】	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-2	水安全計画の充実・適切な運用	所管課	水質管理課
-----	---	------------	--------	-----	----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	安全で良質な水道水を継続的に供給するために、水源からじゃ口までのすべての過程における一元的な水質管理を行う「水安全計画」を評価し、必要に応じて見直すことで計画の充実を図っていきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度		28年度
	水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。		水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。
	29年度		水安全計画の運用・評価 ・PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	60時間	60時間		60時間	60時間		60時間		
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月		
	単位あたり の作業量(c/d)	5時間	5時間		5時間	5時間		5時間		
	(ひと月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・平成22年に新潟市内のすべての浄水場における水安全計画を策定し運用しています。	・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況の評価する妥当性の確認を行っています。 ・平成27年度は各浄水場別の水安全計画の見直しを行い、より実効性のある計画の改定を行いました。具体的には、各浄水場における管理基準値を見直し、異常時・緊急時対応マニュアルを最新のものに改めました。			・毎年度末に水安全計画の運用について、事故等への対応状況の評価する妥当性の確認を行っています。平成28年度については、昨年度設定した新たな管理基準値による運用の評価を行っています。 ・昨年度発生した異常臭気等、特異的な事故事例の対応状況を計画に反映させることで、より柔軟なものに改めました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水安全計画の評価・見直し		1点		水安全計画の評価・見直し		1点					
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
浄水場「水安全計画」 の 評価実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。			水安全計画の評価については、平成21年度の策定以来、運用状況を振り返りながら適宜見直しを進めるPDCAサイクルを確実に推進しています。なお、水安全計画実施に際しては特別の予算は計上していません。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	新潟市内すべての浄水場において改定作業を行いました。今後とも水安全計画については適宜見直しを実施し、実効性のある内容に改める必要があります。			新潟市内すべての浄水場において改定作業を行いました。水安全計画を着実に実行することによって、水源から給水栓に至るまでのリスクの顕在化を未然に防止することができ、安全な水道水の安定供給が可能となっています。今後も、水安全計画については事故対応から得られた知見等から、適宜見直しを実施し実効性のある内容に改めます。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-3	水質管理体制の強化	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	-----------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道GLP(水道水質検査優良試験所規範を維持し、水質検査結果の精度と信頼性を確保します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画の策定、検査計画及び検査結果の公表。 ・試験方法等の調査研究の実施。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)。	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画を策定し、検査計画及び検査結果を公表します。 ・試験方法等の調査研究を実施します。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)を行います。	水道GLPの維持・更新 ・水質検査機器の計画的な更新と更新計画の見直しを行います。 ・水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 ・水質検査計画を策定し、検査計画及び検査結果を公表します。 ・試験方法等の調査研究を実施します。 ・水道GLPの更新(4年毎)、サーベイランスの実施(更新中間期)を行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	80,858,650		71,790,840		64,140,250				
	執行額(b)	76,166,988		64,653,638						
	執行率(%) (b) / (a)	94%		90%		0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間		
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月		
	単位あたりの 作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間		
	(ひと月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・平成26年度に2度目の認定更新を行っており平成27年度は認定維持。 ・教育訓練や水質検査機器の保守点検は毎年度当初に実施計画表を作成し、計画的に実施しています。	・平成27年度はGLPサーベイランス(GLP認定委員会による定期的な立入監査)を実施しました。サーベイランスの結果としては、良好にGLPに基づいた水質検査が実施されていると評価を受けました。なお、サーベイランスの際に指摘された軽微な改善事項については、直ちに直し改善を行いました。 ・水質管理技術の継承については、平成26年度より課内ワーキンググループにより検討を行っています。平成27年度については、水質管理技術の分類と習得に係る目標年次を明らかにしました。また、水質管理技術を計画的に習得できるよう、OJT(On the Job Training)が確実に実施される環境整備を進めています。			・教育訓練や水質検査機器の保守点検は毎年度当初に実施計画表を作成し、計画的に実施しており、平成29年度には認定更新を予定しています。 ・水質管理技術の継承については、平成26年度より実施している理想的な水質管理体制構築に向けた取組みのなかで着実に実施しています。平成28年度については、OJT(On the Job Training)の確実な実施に効果が期待される業務ローテーションなどのこれまで実施した取組みについて評価を行い、より実効性の高い取組みとなるようブラッシュアップを行いました。あわせて、平成29年度水質管理計画を検討し、今後求められる水道水質管理の考え方を取り入れた新たな管理計画を策定しました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・水道GLPの維持・更新		1点	・水道GLPの維持・更新		1点					
		・人材育成及び技術継承	2点		・人材育成及び技術継承	2点						
	平均(A)	1.5点			平均(A)	1.5点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
検査機器の 保守点検実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
教育訓練実施率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点	100%	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
水質検査の公表回数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	12	12	12	12	100%	3点	12	100%	3点	12	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	12	24	36	12	100%	3点	24	100%	3点	36	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	12	24	36	12	100%	3点	24	100%	3点	36	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 ・水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 			<ul style="list-style-type: none"> ・GLP認定維持に係る予算については当初計画通りに適切に施行され、また、その評価についても満足するものでした。 ・水質管理における人材育成・技術の継承については、主にOJTにより進めていることから特別の予算は計上していません。 					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査レベルが一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について必要にして十分であると、第3者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実にすることは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 ・水質管理技術の継承については、OJTが確実に実施される環境は徐々に整備されつつあることから、一定の評価ができます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・GLP認定を維持しているということは、本市の水質検査レベルが一定水準以上の技術力を確保し、その検査精度について必要にして十分であると、第3者機関により客観的に保証されるということです。水道水の安全性保証を確実にすることは、本市新・マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。 ・水質管理技術の継承については、水質管理技術向上に寄与する取組みがブラッシュアップされ完成形に近づきつつあると評価しています。 					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-4	新潟市独自の管理目標による水質管理	所管課	水質管理課(浄水課)
----	---	------------	--------	-----	-------------------	-----	------------

①事業概要

【事業の目的】	国が定める水質基準値等より厳しい、本市独自の「安全性とおいしさの基準」である管理目標値を設定し、より安全でおいしい水道水の供給に取り組んでいきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。	独自管理目標による水質管理 ・安全な水道水を提供するために、農薬類と総トリハロメタンについては、国が定める水質基準値等より厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・おいしい水道水を提供するために、残留塩素と臭気強度に関しては、国が定める目標値よりも厳しい本市独自の管理目標値を定め、これを超えない管理を行います。 ・必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	55,528,200		55,728,000		29,581,200				
	執行額(b)	83,086,128		29,029,320						
	執行率(%) (b) / (a)	150%		52%		0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間		
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月		
	単位あたりの 作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間		
	(ひと月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	・独自管理目標による水質管理、見直しを行いました。	・平成27年度については、1項目が目標達成率100%に達しませんでした。概ね目標を達成できました。なお、目標達成率100%に達しなかった臭気強度については浄水場との連携を強化することにより、平成28年度における目標達成率100%を目指します。			・平成28年度については、1項目が目標達成率に達しませんでした。概ね目標を達成できました。なお、目標達成率に達しなかった残留塩素については、各浄水場の給水区域の特性を評価し、管網末端における消毒効果を確保しつつ浄水場出口の残留塩素濃度を低く抑える取組みについて、必要な施設整備を視野に入れた検討を行います。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・独自管理目標による水質管理		1点		・独自管理目標による水質管理		1点					
		平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
農薬濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
総トリハロメタン濃度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	100%	100%	3点	100%	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
残留塩素 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	91%	91%	91%	93%	102%	4点	90%	99%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
臭気強度 管理目標達成率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	100%	100%	100%	96%	96%	3点	100%	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
<p>【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。</p>	<p>本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、当初計画した目標値を概ね達成できました。なお、粉末活性炭処理については、通常処理へのプラスアルファの処理であることから活性炭添加量については調査研究を進め、効率的な注入率となるよう注入指針値を見直し、費用対効果が最大となるような水質管理に努める必要があります。 *平成27年度の粉末活性炭の執行額については、阿賀野川異常臭気に伴い使用量が増加したものです。</p>			<p>本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給するために、浄水場と連携し粉末活性炭処理を実施することにより、当初計画した目標値を概ね達成できました。調査研究は特別な予算を計上しておらず、業務に関連する項目について計画的に実施しています。なお、粉末活性炭処理については、調査結果から一定の知見が得られたことから、成果を実地へ活用する取組みを進めます。今後は引き続き調査を進めると共に、費用対効果の検証も行き、より適切な水質管理ができるよう努めます。 *平成28年度の粉末活性炭の執行額については、当初予算より使用量及び、契約単価の大幅減によるものです。</p>					
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	点	点/10点
<p>【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。</p>	<p>本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みである。ただし、活性炭の注入率と注入手法については、浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を進めます。</p>			<p>本市独自の管理目標値により、安全でおいしい水道水を供給する取組みは、本市マスタープランに掲げる「すべてのお客さまに信頼される水道」を目指すには不可欠の取組みです。ただし、活性炭の注入率と注入手法については浄水費の増加と関連することから、今後とも調査研究を積極的に進めます。</p>					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
<p>【方向性】</p>	<p>経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。</p>	<p>経営審議会総評</p>	<p>経営審議会総評</p>

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	I	水質管理の充実・強化	事業・取組名	I-5	分かりやすい水質情報の提供	所管課	水質管理課
----	---	------------	--------	-----	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	安全でおいしい水や災害時での水の安定供給など、多様化するお客さまのニーズに対し、水道水をおいしく飲める啓発活動やニーズにあった情報提供などを行い、水道水に対する信頼性を高めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。	啓発活動の継続・充実 ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 ・分かりやすい情報提供 ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成する。水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	119,448		98,280		98,280				
	執行額(b)	85,428		85,428						
	執行率(%) (b) / (a)	72%		87%		0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		120時間		
	期間(d) (従事期間)	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月	12ヶ月	100%	12ヶ月		
	単位あたりの 作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間		
	(ひと月あたりの実働時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・水質保全に関するパンフレットを作成し見学者に配布するなどPRに活用しました。	・市政さわやかトーク宅配便(出前授業の一つ)時に使用するパワーポイントについて、イラストや写真等の多用したビジュアル的に分かりやすい構成となるよう改めた。 ・本市ホームページにおいて、マンガやイラストを活用した水質検査結果の解説ページを加えた。 ・広報人材育成室と連携し、水質管理センターへの市民見学の機会を増加し、「簡易ろ過実験」「臭気検査」「きき水体験」など体験型広報に接する機会を増やした。			・広報人材育成室と連携し、水質管理センターへの市民見学の機会が増えるよう努め、「簡易ろ過実験」「臭気検査」「きき水体験」など体験型広報に接する機会を増加させました。 ・本市ホームページにおいて、マンガやイラストを活用した水質検査結果の解説ページを充実させました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
			1点			1点						
			1点			1点						
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
さわやかトーク 宅配便等年間実施数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	10回	10回	12回	18回	180%	5点	14回	140%	5点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	10回	20回	32回	18回	180%	5点	32回	160%	5点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施していることから、当課における予算措置は計上していません。</p>			<p>・本事業についてはいずれも当初予定通りに実施されています。また、広報業務については、水道局広報人材育成室と連携することにより実施しています。</p>					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、多くのお客さまが漠然と抱えている水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができると評価しています。今後とも当課における広報活動は拡充させていく必要があります。</p>			<p>・広報の充実については、今後当局として取組んでいくべき重要課題です。水質管理に精通した職員が水道水の安全性を分かりやすく広報することにより、多くのお客さまが漠然と抱えている水質的な不安感を払拭し、本市新・マスタープランの理念を実現することができると評価しています。今後とも当課における広報活動は拡充させていく必要があります。</p>					
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	5点	A	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	<p>経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。</p>	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-1	学校施設の水飲み水栓の直結給水化	所管課	管路課
----	----	--------------	--------	------	------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	じゃ口から水を飲むという水道の文化を引き継ぎ、次世代を担う子供たちが水道水のおいしさをより実感できるよう、小中学校の水飲み水栓の直結給水化に取り組みます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>	<p>28年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>	<p>29年度</p> <p>新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。</p> <p>教育委員会との協議 大規模改修計画に基づき協議を実施 学校施設の水飲み水栓の直結給水化率:平成29年度に65%</p>

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	0		0		0				
	執行額(b)	0		0		0				
	執行率(%) (b) / (a)	-		-		-				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	1回	1回		1回	1回		1回		
	(協議回数)									
	期間(d)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	(従事期間)									
単位あたりの 作業量(c/d)	1回/年	1回/年		1回/年	1回/年		1回/年			
(1年間の協議回数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 61.1%	<p>教育委員会との協議 協議実施回数 1回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか協議を行いました。財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。</p> <p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 63.7% 市立学校施設数 182校 直結化した学校数 116校</p>			<p>教育委員会との協議 協議実施回数 1回 教育委員会との協議及び情報収集から、大規模改修計画に基づく直結化実施予定校の確認を行いました。 また、大規模改修計画以外の工事(貯水槽入替等)で直結給水化が図られるか協議を行いました。財政面から現在の計画に基づき進めることを確認しました。</p> <p>学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 63.7% 市立学校施設数 179校(閉校・統合により3校減) 直結化した学校数 114校(閉校・統合により2校減)</p>							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		教育委員会との協議実施	1点		教育委員会との協議実施	1点						
		平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
学校施設の水飲み水 栓の直結給水化率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	61.1%	63.7%	65.0%	63.7%	104%	4点	63.7%	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	61.1%	63.7%	65.0%	63.7%	104%	4点	63.7%	100%	3点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	教育委員会との協議及び情報共有により実施予定校を確認しました。 その他施設に係る工事(水槽入替、修繕等)での、直結給水化の可否について検討を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を進めることを確認しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			教育委員会との協議及び情報共有により実施予定校を確認しました。 その他施設に係る工事(水槽入替、修繕等)での、直結給水化の可否について検討を進めましたが、財政面から現在の計画に基づく実施を進めることを確認しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	教育委員会との協議及び情報共有を図り、双方共通の認識で取組を進めています。学校施設の直結給水化は、大規模改修計画に基づき計画どおりに進捗しています。			教育委員会との協議及び情報共有を図り、双方共通の認識で取組を進めています。学校施設の直結給水化は、大規模改修計画に基づき計画どおりに進捗しています。					
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	II	給水装置における水質保持	事業・取組名	II-2	貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	所管課	管路課
----	----	--------------	--------	------	---------------------------	-----	-----

①事業概要							
【事業の目的】		貯水槽水道利用者へ安全でおいしい水道水が供給されるよう、訪問指導等の強化により、貯水槽の清掃率向上に向けた積極的な啓発活動を行います。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)		27年度		28年度		29年度	
		貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。		貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。		貯水槽清掃強化月間設定に向けた協議 貯水槽衛生管理における、さらなる清掃率向上を目的に衛生行政や民間清掃業者と連携し強化月間を設定し取組むこととします。	
		民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。		民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。		民間清掃業者との連携 強化月間の取組にあつては民間清掃業者との協力体制の確立に向けた協議を実施します。	
		衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を委託化し、指導実施件数を増やします。		衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を委託化し、指導実施件数を増やします。		衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を実施(委託)し、清掃実施件数を増やします。	

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	65,830			3,844,320			4,120,800		
	執行額(b)	44,198			3,837,288					
	執行率(%) (b) / (a)	67%			100%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.3人	0.3人		0.3人	0.3人		0.3人		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	単位あたりの 作業量(c/d)	0.3人/年	0.3人/年		0.3人/年	0.3人/年		0.3人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価														
■結果・効果														
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績		27年度				28年度				29年度			
	貯水槽清掃実施率 ・簡易専用水道 94.9% ・小規模貯水槽水道 67.1% ・全体清掃率 78.3%		貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議 平成27年度は強化月間の設定及び取組の具体化に向けた協議を行いました。しかし、衛生管理指導業務委託化の検討から、取組内容の調整が必要となり具体化には至りませんでした。平成28年度継続協議としています。				貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議 平成27年度に引き続き、強化月間の設定に向けた協議を行いました。具体化には至りませんでした。平成29年度継続協議とします。							
			民間清掃業者との連携 衛生管理指導業務の取組内容を踏まえ民間清掃業者との協力体制に向けた協議を実施しました。連携の具体化については、継続協議としています。				民間清掃業者との連携 貯水槽清掃強化月間の設定に向けて、民間清掃業者との協議を実施しましたが、連携の具体化には至りませんでした。平成29年度継続協議としています。							
			(新規)衛生管理指導業務の委託化 新たに、(公財)新潟水道サービスへの衛生管理指導業務委託化について検討し、平成28年度予算措置を行いました。				(新規)衛生管理指導業務の委託化 新たに、(公財)新潟水道サービスへ貯水槽施設衛生管理指導業務を委託し、過去1年以上上清掃報告の無い施設300件を対象に、事前確認等の後、164件の訪問・電話指導を実施しました。							
			予定を上回る 101%以上		予定どおり 90%~ 100%以下		予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上		予定どおり 90%~ 100%以下		予定を下回る 90%未満~	
			貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議		1点				貯水槽清掃強化月間の設定に向けた協議		1点			
		民間清掃業者との連携協議		1点				民間清掃業者との連携協議		1点				
		(新規)衛生管理指導業務委託化		2点				(新規)衛生管理指導業務委託化		1点				
		平均(A)		1.3点				平均(A)		1.0点				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
貯水槽清掃実施率 (簡易専用水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	92.8%	92.9%	93.1%	95.1%	103%	4点	96.9%	104%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	4点	—	—	4点	—	—	
貯水槽清掃実施率 (小規模貯水槽水道)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	65.5%	65.6%	65.8%	65.4%	100%	3点	72.1%	110%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	3点	—	—	4点	—	—	
貯水槽清掃実施率 (全体清掃率)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	76.5%	76.6%	76.8%	77.4%	101%	4点	82.3%	107%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	4点	—	—	4点	—	—	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>予算の執行額は、前年度の清掃未実施者への指導文書郵送経費であり、平成26年度は清掃実施率が高かったことから低減しました。 また、所有者所在不明のため、指導が行えない施設も増加していることから、今後は、料金情報等から所有者不明を解消し、適切な指導に努めます。 平成28年度は、関係機関と継続協議としています。</p>			<p>衛生管理指導業務の強化 未清掃の小規模貯水槽施設に対する衛生管理訪問指導を新たに委託化し、限られた人員体制の中で、効率よく指導強化を進めました。 関係機関との連携については、継続協議とします。</p>					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>貯水槽清掃実施率全体では、目標値を0.9ポイント上回り、衛生管理の向上が図られ目標は達成されました。 しかし、小規模貯水槽水道にあっては、目標値より0.1ポイント下回りました。より安心安全な水道水利用のためにも、平成28年度からは一部業務を委託化し、管理指導強化を進め、衛生管理向上を図ることとします。</p>			<p>貯水槽清掃実施率全体では、目標値を5.7ポイント上回りました。 清掃実施率は、全体的に緩やかな上昇傾向にあり、新たに委託化した訪問指導強化による効果も含め、平成28年度は大きく上昇したものと考えます。 しかし、これまでの清掃実施率は毎年上下を繰り返していることから、今後も慎重に推移を確認し、訪問指導強化の有効性を評価する必要があります。</p>					
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	<p>経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。</p>	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	Ⅱ	給水装置における水質保持	事業・取組名	Ⅱ-3	指定給水装置工事事業者の技術力向上	所管課	管路課
-----	---	--------------	--------	-----	-------------------	-----	-----

①事業概要							
【事業の目的】		指定給水装置工事事業者の技術力向上により、工事の品質確保やお客さまとのトラブルの未然防止を図ります。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度		28年度		29年度		
	講習会への積極的な参加要請 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を促します。 講習内容の適宜見直し ・適切な施工確保及び技術力確保のため、適宜講習内容を見直します。 給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を目的とした優良工事店表彰を実施します。		講習会への積極的な参加要請 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を促します。 講習内容の適宜見直し ・適切な施工確保及び技術力確保のため、適宜講習内容を見直します。 給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を目的とした優良工事店表彰を実施します。		講習会への積極的な参加要請 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を促します。 講習内容の適宜見直し ・適切な施工確保及び技術力確保のため、適宜講習内容を見直します。 給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を目的とした優良工事店表彰を実施します。		

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	383,400		423,360		407,160				
	執行額(b)	400,188		421,361						
	執行率(%) (b) / (a)	104%		100%		0.0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	0.2人	0.2人		0.2人	0.2人		0.2人		
	(担当者数)									
	期間(d)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	(従事期間)									
単位あたりの 作業量(c/d)	0.2人/年	0.2人/年		0.2人/年	0.2人/年		0.2人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価							
■結果・効果							
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度		28年度		29年度	
	講習会への積極的な参加要請 ・講習会参加率73.6%	講習会への積極的な参加要請 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を促しました。(参加率:74.2%)		講習会への積極的な参加要請 ・受講未連絡の業者に対し講習会参加を促しました。(参加率:80.1%)			
	講習内容の適宜見直し ①指定業者として何をすべきか ②給水装置の維持管理・事故例	講習内容の適宜見直し ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施しました。 ①適正な給水装置工事の施工 ②適切な安全管理		講習内容の適宜見直し ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施しました。 (公社)日本水道協会発行「指定給水装置工事事業者研修テキスト」の 改定に合わせた内容変更			
	給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・優良工事店表彰(19件:15社)	給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を目的とした優良工事店表彰を実施しました。(21件:18社)		給水装置工事の適切な評価と表彰制度を継続 ・指定給水装置工事事業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を目的とした優良工事店表彰を実施しました。(20件:19社) ・熊本地震への復旧支援に対し、特別表彰を実施しました。(1団体、24社)			
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下
	講習会参加要請	1点		講習会参加要請	1点		
	講習内容の適宜見直し	1点		講習内容の適宜見直し	1点		
	指定給水装置工事事業者表彰の実施	1点		指定給水装置工事事業者表彰の実施	1点		
	平均(A)	1.0点		平均(A)	1.0点		平均(A)

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
給水装置に係る 事故件数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	0件	0件	0件	0件	100%	3点	0件	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
指定給水装置工事 事業者講習会参加率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	73.6%	74.2%	78.0%	74.2%	101%	4点	80.1%	108%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
優良指定給水装置工 事事業者の表彰実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<p>予算の執行については、優良工事店表彰が当初予算数に対し増加したことにより執行額が4.4%上昇しました。 講習内容は、研修テキストによるマンネリ防止から、現場実務的な内容に改めました。 講習会参加率は、前年度比で0.6ポイント上昇し当初目標を達しました。</p>			<p>優良工事店表彰において、熊本地震への復旧支援に対する特別表彰がありました。経費削減に努め、当初予算内で執行しました。 講習内容は、「指定給水装置工事事業者研修テキスト」の改定に合わせて改めました。 講習会参加率は、前年度比で5.9ポイント上昇し当初目標を達しました。</p>					
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<p>講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これら取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。</p>			<p>講習会や表彰制度にあっては、業者の施工技術の向上及び意欲の高揚を図ることを目的に実施しており、これら取り組みは給水装置工事における事故防止にも繋がります。よって当該取組は、今後も継続的に実施していきます。</p>					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	<p>経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。</p>	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-1	浄水施設の計画的更新	所管課	計画整備課
----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を計画的に更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図ります。また、更新に併せて、環境負荷の低減や維持管理性の向上に配慮した整備を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	28年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【配水場整備事業】平成28～32年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施	29年度 浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。 【阿賀野川浄水場整備事業】平成27～31年度 【配水場整備事業】平成28～32年度 【個別整備】各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新及び施設整備を実施

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらいかけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	559,694,000			1,326,776,000			3,434,021,000		
	執行額(b)	516,618,000			1,417,115,000					
	執行率(%) (b)/(a)	92%			107%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)はどれくらいかけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.5人	0.5人		3.9人	3.9人		5.0人		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	単位あたりの作業量(c/d)	0.5人/年	0.5人/年		3.9人/年	3.9人/年		5.0人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績 阿賀野川浄水場施設整備実施設計を実施	27年度 阿賀野川浄水場整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施(平成29年度完了予定) 経年劣化した設備の個別整備			28年度 阿賀野川浄水場整備事業 ・ポンプ場築造工事の実施(平成29年度完了予定) ・電気設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・自家発電設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) ・監視制御設備更新工事の実施(平成31年度完了予定) ・ポンプ設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) 配水場整備事業 ・内野配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成29年度完了予定) ・竹尾配水ポンプ電気設備更新工事の実施(平成30年度完了予定) 経年劣化した設備の個別整備			29年度				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	阿賀野川浄水場整備事業		1点		阿賀野川浄水場整備事業		1点					
					配水場整備事業		1点					
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
阿賀野川浄水場 整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
配水場整備事業	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	実施	実施	—	—	—	実施	実施	3点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
	<p>【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。</p>	<p>ポンプ場築造工事において、安全性確認のため土質調査した結果、地盤支持力や土質の不均一性が判明したため、基礎杭、仮設土留め工法を変更したことにより目標出来形は達成できなかったものの、ほぼ予定通りに工事を実施しました。</p>			<p>阿賀野川浄水場整備事業は、ポンプ場築造工事を予定通り工事を進めるとともに、機械・電気設備更新工事などの各工事を計画通り発注して工事着手しました。 また、平成28年度からは配水場整備事業に着手し、予定通り工事を実施しました。</p>				
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点
<p>【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。</p>	<p>水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため老朽化した設備を計画的に更新する必要があります。 阿賀野川浄水場施設整備事業は、来年度以降も稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理に努めます。</p>			<p>水需要の減少を踏まえた施設規模の適正化を図るとともに、浄配水施設の信頼性と安定性を維持していくため老朽化した設備を計画的に更新する必要があります。 阿賀野川浄水場施設整備事業は、昨年度に引き続き稼働施設の安全確保を最優先として、計画通りの確実な施工管理に努めます。 また、配水場施設整備事業についても、計画通りに工事を進めていきます。</p>					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評		経営審議会総評	
		経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。					

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ—2	管路施設の計画的更新	所管課	計画整備課
-----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れ、更新周期を設定し、老朽化した管路施設(基幹管路・配水支管)を中心に計画的に更新します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成27年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成27年度22,700m	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成28年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成28年度26,500m	基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成29年度5,200m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成29年度26,500m

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	4,042,197,779			4,575,493,647					
	執行額(b)	3,965,809,835			4,431,799,960					
	執行率(%) (b) / (a)	98%			97%			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	30.1人	29.3人		30.4人	30.8人		29.8人		
	(担当者数)									
	期間(d)	1年	1年	97%	1年	1年	101%	1年		
	(従事期間)									
単位あたりの 作業量(c/d)	30.1人/年	29.3人/年		30.4人/年	30.8人/年		29.8人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)		(イ/ア)	(ア)	(イ)		(ア)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度				29年度			
	・基幹管路更新延長 6,700m ・配水支管更新延長 27,500m	今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注をしました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 5,130m※ 4,870m(計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 配水支管更新事業 更新延長 18,042m ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,326m 配水支管更新事業 更新延長 19,538m (注):事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。評価については、この発注延長を基にした耐震適合率によります。			目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通りに概ね発注しました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 4,637m 4,190m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 19,321m 16,941m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,628m 配水支管更新事業 更新延長 15,711m (注):事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理しています。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		上昇 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	減少 90%未満~		上昇 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	減少 90%未満~
	基幹管路更新事業		1点		基幹管路更新事業			0点				
	配水支管更新事業			0点	配水支管更新事業			0点				
平均(A)		0.5点		平均(A)		0.0点		平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
基幹管路更新延長 ※評価指標の延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	4,900m	4,900m	5,200m	4,870m	99%	3点	4,190m(見込み)	86%	2点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
配水支管更新延長 ※評価指標の延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	22,700m	26,500m	26,500m	18,042m	79%	1点	16,941m(見込み)	64%	1点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
	<p>【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。</p>	<p>・積算基準の変更などから工事単価が大幅に上昇したため、管路事業全体の予算配分の見直しを行いました。 ・これにより、基幹管路更新、配水支管更新それぞれ計画していた工事発注件数の調整を行ない、調整後は予定通り工事発注を行ないました。 ・基幹管路については、既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートにより更新を進めたため延長が増えました。このため、効率性評価として用いるには、馴染まないことから、当初計画延長により評価を行ないます。</p>			<p>・工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分の見直しを行ないました。 ・この見直しに基づき、基幹管路更新、配水支管更新はほぼ予算通りの工事発注を行ないました。 ・マスタープランの更新計画延長に対しては、基幹管路はほぼ目標に達したものの、配水支管更新は事業費の一部を基幹管路更新に充当したことから28%下回りました。</p>				
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	1点	D	作業効率	点	
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点	1点	4点/10点	外的要因加点	点	点/10点
<p>【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。</p>	<p>確実な管路更新により、老朽化管路率・老朽化基幹管路率は減少し、管路耐震適合率・基幹管路耐震適合率は向上しています。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。</p>			<p>工事単価の上昇などにより管路事業費の予算配分を見直した結果、基幹管路更新を優先したことから配水支管更新は計画通り進みませんでした。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。 また、今後も市街地域における特殊工事の追加や工事単価の上昇などによる工事費増加が予想されることから、中期実施計画策定に向けた管路更新計画の見直しを行います。</p>					
評価結果	達成度	2点	総合評価	達成度	2点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	2点	C	進捗度	2点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	Ⅲ	水道施設の計画的更新	事業・取組名	Ⅲ-3	鉛給水管の計画的更新	所管課	管路課
-----	---	------------	--------	-----	------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	鉛給水管を更新し給水管の耐震化および漏水の未然防止を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管, 鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別) 	<p>28年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管, 鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別) 	<p>29年度</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管(小口径老朽管:主に口径50mmのビニル管, 鋼管)の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小口径老朽管更新(ガス工事競合) ・小口径老朽管更新(局単独工事) ・他工事に関連する鉛給水管更新(下水道工事等) ・連合鉛給水管更新 ・鉛給水管更新(戸別)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	770,590,192			643,403,675			661,095,864		
	執行額(b)	738,874,863			625,472,423					
	執行率(%) (b)/(a)	96%			97%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	10.5人	10.0人		10.3人	11.8人		11.0人		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	95%	1年	1年	115%	1年		
	単位あたりの 作業量(c/d)	10.5人/年	10.0人/年		10.3人/年	11.8人/年		11.0人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度				29年度																																																													
	鉛製給水管率 7.3%	更新件数			更新件数																																																																	
		<table border="1"> <tr> <th>施策</th> <th>当初見込</th> <th>更新数</th> <th>実施率</th> </tr> <tr> <td>小口径管鉛給水更新(ガス競合)</td> <td rowspan="3">650</td> <td rowspan="3">681</td> <td rowspan="3">104.8%</td> </tr> <tr> <td>小口径管鉛給水更新(局単独)</td> </tr> <tr> <td>連合給水鉛管更新</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>650</td> <td>681</td> <td></td> </tr> <tr> <td>他工事給水鉛管更新</td> <td rowspan="2">830</td> <td rowspan="2">795</td> <td rowspan="2">95.8%</td> </tr> <tr> <td>給水鉛管更新(局単独)</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>830</td> <td>795</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,480</td> <td>1,476</td> <td>99.7%</td> </tr> </table>			施策	当初見込	更新数	実施率	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	650	681	104.8%	小口径管鉛給水更新(局単独)	連合給水鉛管更新	小計	650	681		他工事給水鉛管更新	830	795	95.8%	給水鉛管更新(局単独)	小計	830	795		計	1,480	1,476	99.7%	<table border="1"> <tr> <th>施策</th> <th>当初見込</th> <th>更新数</th> <th>実施率</th> </tr> <tr> <td>小口径管鉛給水更新(ガス競合)</td> <td rowspan="3">460</td> <td rowspan="3">482</td> <td rowspan="3">104.8%</td> </tr> <tr> <td>小口径管鉛給水更新(局単独)</td> </tr> <tr> <td>連合給水鉛管更新</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>460</td> <td>482</td> <td></td> </tr> <tr> <td>他工事給水鉛管更新</td> <td rowspan="2">790</td> <td rowspan="2">622</td> <td rowspan="2">109.3%</td> </tr> <tr> <td>給水鉛管更新(局単独)</td> </tr> <tr> <td>給水装置工事</td> <td>375</td> <td>651</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>1,165</td> <td>1,273</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,625</td> <td>1,755</td> <td>108.0%</td> </tr> </table>				施策	当初見込	更新数	実施率	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	460	482	104.8%	小口径管鉛給水更新(局単独)	連合給水鉛管更新	小計	460	482		他工事給水鉛管更新	790	622	109.3%	給水鉛管更新(局単独)	給水装置工事	375	651		小計	1,165	1,273		計	1,625	1,755	108.0%				
	施策	当初見込	更新数	実施率																																																																		
	小口径管鉛給水更新(ガス競合)	650	681	104.8%																																																																		
小口径管鉛給水更新(局単独)																																																																						
連合給水鉛管更新																																																																						
小計	650	681																																																																				
他工事給水鉛管更新	830	795	95.8%																																																																			
給水鉛管更新(局単独)																																																																						
小計	830	795																																																																				
計	1,480	1,476	99.7%																																																																			
施策	当初見込	更新数	実施率																																																																			
小口径管鉛給水更新(ガス競合)	460	482	104.8%																																																																			
小口径管鉛給水更新(局単独)																																																																						
連合給水鉛管更新																																																																						
小計	460	482																																																																				
他工事給水鉛管更新	790	622	109.3%																																																																			
給水鉛管更新(局単独)																																																																						
給水装置工事	375	651																																																																				
小計	1,165	1,273																																																																				
計	1,625	1,755	108.0%																																																																			
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~																																																										
		2点				2点																																																																
			1点			2点																																																																
		平均(A)			平均(A)				平均(A)																																																													
		1.5点			2.0点																																																																	

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
鉛給水管率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	7.3%	7.0%	5.2%	7.0%	104%	4点	6.3%	111%	5点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	7.3%	7.0%	5.2%	7.0%	104%	4点	6.3%	111%	5点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	鉛製給水管の更新は、他工事と併せた工事による費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っています。今年度は予算執行・更新件数とも概ね当初目標どおりに達成することができました。			鉛給水管の更新は、他工事と併せ実施することによる費用の縮減や、鉛管密度の高い地域から更新を進めることで効率化を図っています。今年度も効率的な予算執行により、目標を超える更新を行うことができました。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施する必要があります。小口径老朽管(主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新に併せて解消するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消をすすめていきます。			鉛給水管の更新は漏水事故の未然防止や有収率向上の観点から継続して実施する必要があります。小口径老朽管(主に口径50mmのビニル管、鋼管)の更新に併せて解消するとともに、戸別の鉛給水管は鉛管密度の高い地域から解消を進めていきます。					
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	5点	A	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		維持		維持	
	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。					

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-1	浄配水施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	--------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	大規模地震が発生した場合でも、影響を最小限にとどめ、水道システムとして機能を損なうことのないよう、浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】1施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成27年度】2施設実施 ・青山浄水場(洗浄水槽)、阿賀浄水場(洗浄水槽)	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟、1系配水ポンプ場) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成28年度】2施設に着手 ・阿賀浄水場(配水池、沈砂池)耐震化工事に着手(構内水管含む)	耐震補強実施予定施設 平成27～36年度 【建築物】2施設 ・戸頭浄水場(脱水機棟、1系配水ポンプ場) 【土木構造物】13施設 ・青山浄水場(配水池、洗浄水槽)・阿賀浄水場(配水池、洗浄水槽、沈砂池) ・満願寺浄水場(沈砂池)・戸頭浄水場(1系配水場)・巻浄水場(ろ過池) ・その他(取水場、配水場等5施設) 【構内水管】 ・取水場、浄水場、配水場 【平成29年度】2施設実施 ・阿賀浄水場(配水池、沈砂池)耐震化工事(構内水管含む)

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	100,874,000			311,148,000			427,680,000		
	執行額(b)	98,458,040			154,300,000					
	執行率(%) (b)/(a)	98%			50%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.5人	0.5人		1.5人	1.5人		2.0人		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	単位あたり の作業量(c/d)	0.5人/年	0.5人/年		1.5人/年	1.5人/年		2.0人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・青山浄水場1系沈殿池の耐震補強完了	・青山浄水場洗浄水槽の耐震補強完了 ・阿賀野川浄水場洗浄水槽の耐震補強完了			今年度計画していた工事は予定通り発注しましたが、構内水管耐震化工事において、既設配管の試掘調査に時間を要し配管計画の策定が遅れたことから、予定出来高が達成できずに予算執行率が低下しました。 阿賀野川浄水場 ・構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施(平成31年度完了予定) ・沈砂池耐震補強の実施(平成29年度完了予定) その他 ・青山向け導水管サージタンク(鳥屋野小学校脇)転倒対策工事実施設計業務の実施							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	耐震補強実施施設(土木構造物)		1点		耐震補強実施施設(土木構造物)		0点					
	平均(A)		1.0点		平均(A)		0.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
【建築物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	2/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	2/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
【土木構造物】 (完了数/全計画数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1/13	2/13	3/13	2/13	200% 5点	0点	2/13	100% 3点	0点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	1	2	3	2	200% 5点	0点	2	100% 3点	0点	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	浄配水施設の耐震化は、予定通り2施設完了しました。			浄配水施設の耐震化は、予定していた1施設(阿賀野川洗浄水槽)は27年度に前倒して完了するとともに、阿賀野川浄水場の構内水管耐震化、配水池と沈砂池の補強工事に着手しました。ただし、阿賀野川浄水場の構内水管耐震化工事は、既設配管の試掘調査に時間を要し配管計画の策定が遅れたことから、予定出来高が達成できませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備に併せ効率的に耐震補強を実施します。			大規模地震が発生した場合でも、水道システムとして機能を損なうことのないように浄配水施設の耐震化を進めていく必要があります。来年度以降も継続して、浄配水施設の施設整備に併せ効率的に耐震補強を実施します。					
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	3点	C	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-2	管路施設の計画的耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	-------------	-----	-------

①事業概要							
【事業の目的】		大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、老朽化管路を地震に強い耐震管へ入れ替え、管路施設の耐震化を進めます。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)		27年度		28年度		29年度	
		Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成27年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成27年度22,700m		Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成28年度4,900m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成28年度26,500m		Ⅲ-2管路施設の計画的更新に併せ実施 基幹管路更新事業 基幹管路更新計画に基づく管路の更新 平成27年度～36年度 59.7km 平成29年度5,200m 配水支管更新事業 年度別に更新路線を選定し更新 平成27年度～36年度 239.7km 平成29年度26,500m	

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	4,042,197,779			4,575,493,647					
	執行額(b)	3,965,809,835			4,431,799,960					
	執行率(%) (b) / (a)	98%			97%			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	30.1人	29.3人		30.4人	30.8人		29.8人		
	(担当者数)									
	期間(d)	1年	1年	97%	1年	1年	101%	1年		
	(従事期間)									
単位あたりの 作業量(c/d)	30.1人/年	29.3人/年			30.4人/年	30.8人/年			29.8人/年	
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)		(イ/ア)	(ア)	(イ)		(イ/ア)	(ア)	(イ)

③所管課分析評価												
■結果・効果												
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・基幹管路更新延長 6,700m ・配水支管更新延長 27,500m	今年度計画していた工事は、予定通り概ね発注をしました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 5,130m※ 4,870m(計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 配水支管更新事業 更新延長 18,042m ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,326m 配水支管更新事業 更新延長 19,538m (注): 事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理している。評価については、この発注延長を基にした耐震適合率による。			目標には達しませんでした。今年度計画していた工事は、予定通り概ね発注をしました。 ◆工事発注延長(注) 基幹管路更新事業 更新延長 4,637m 4,190m(予算時計画長) 配水支管更新事業 更新延長 19,321m 16,941m(予算時計画長) ※既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートによる更新を行った結果、延長が増えています。 ◆工事竣工延長(前年度からの繰越延長含む) 基幹管路更新事業 更新延長 2,628m 配水支管更新事業 更新延長 15,711m (注): 事業の進捗は、工事の発注延長により計画管理していることから、この発注延長を基にした耐震適合率により評価します。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		基幹管路更新事業	1点			基幹管路更新事業	0点					
		配水支管更新事業	0点			配水支管更新事業	0点					
	平均(A)	0.5点			平均(A)	0.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
管路耐震適合率 ※ 基となる延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	66.9%	67.7%	68.5%	67.0%(見込み)	100%	3点	67.6%(見込み)	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
基幹管路耐震適合率 ※ 基となる延長は 発注延長(計画値)を使用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	59.4%	61.0%	62.1%	59.3%(見込み)	100%	3点	61.2%(見込み)	100%	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・積算基準の変更などから工事単価が大幅に上昇したため、管路事業全体の予算配分の見直しを行ないました。 ・このため、基幹管路更新、配水支管更新それぞれ計画していた工事発注件数の調整を行ない、調整後は予定通り工事発注を行なった結果、耐震適合率は概ね目標通りとなりました。 ・基幹管路については、既設管路ルートでの更新が困難なため、別ルートにより更新を進めたため延長が増えた。このため、効率性評価として用いるには、馴染まないことから、当初計画延長により評価を行ないます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分の見直しを行ないました。 ・この見直しに基づき、基幹管路更新、配水支管更新はほぼ予定通り工事発注を行ない、管路耐震適合率・基幹管路耐震適合率は計画通り向上しました。 			<ul style="list-style-type: none"> (Ⅲ-2 管路施設の計画的更新)の評価シートにおいて、基幹管路と配水支管の更新延長実績が目標を下回っているにも拘らず、本シートの管路耐震適合率が目標を達成した理由) 管路耐震適合率の算出においてⅢ-2の各更新延長だけでなく、新規給水要望や他事業関連工事などによる布設延長が含まれており、これらの延長が増加したことにより。 		
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	1点	D	作業効率	点	
	外的要因加点	1点	5点/10点	外的要因加点	1点	4点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	確実な管路更新により、老朽化管路率・老朽化基幹管路率は減少し、管路耐震適合率・基幹管路耐震適合率は向上しています。 漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するために、今後も計画的な更新を進めていきます。			管路施設の耐震化については、今後も効率的に進めるため老朽化管路の更新に併せて計画的に進めていきます。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評		経営審議会総評	
	引き継ぎ、計画に沿って事業を推進すること。					

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	災害対策・体制の強化	事業・取組名	IV—3	重要施設向け配水管の耐震化	所管課	計画整備課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要							
【事業の目的】		災害時に早急な対策・復旧計画の策定が求められる行政機関や、被災した市民の生命に係る救急医療施設などの重要施設向け配水管の耐震化を優先的に進め、被災対応の充実に努めます。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)		27年度 重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給 ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成27年度 医療機関3施設(累計:行政機関6施設 医療機関19施設)	28年度 重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給 ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成28年度 行政機関2施設(累計:行政機関8施設 医療機関19施設)	29年度 重要施設に位置づけた市内の行政機関および救急医療機関への供給 ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 平成27年度～36年度において 行政機関6施設 医療機関26施設に向けた配水管を耐震化 (累計:行政機関12施設 医療機関42施設) 平成29年度 医療機関4施設(累計:行政機関8施設 医療機関23施設)			

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	263,015,034			415,045,240					
	執行額(b)	255,096,365			399,835,052					
	執行率(%) (b) / (a)	97%			96%			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	2.7人	2.7人		4.0人	4.0人		3.0人		
	(担当者数)									
	期間(d)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	(従事期間)									
単位あたりの 作業量(c/d)	2.7人/年	2.7人/年		4.0人/年	4.0人/年		3.0人/年			
(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価												
■結果・効果												
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	耐震化完了重要施設数(累計) ・行政機関 6施設 ・医療機関 16施設	◆耐震化完了重要施設数(累計) ・行政機関 6施設 ・医療機関 18施設注 ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 0施設 ・医療機関 3施設:新潟西蒲メディカルセンター病院、 新潟脳外科病院、木戸病院 (年度内完了施設:新潟西蒲メディカルセンター病院) ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数 値により行います。 注:本事業である「重要施設向け耐震化工事」以外の支管更新工事によ り、医療機関向け配水管の耐震化が完了した施設が今年度1施設あり ました。(大森内科医院)			◆耐震化完了重要施設数(実際に工事が完了した施設数の累計) ・行政機関 8施設(H28年度 江南区役所、秋葉区役所完了) ・医療機関 20施設(H28年度 新潟脳外科病院、木戸病院完了) ◆重要施設向け配水管更新工事発注施設数※ ・行政機関 2施設:江南区役所、秋葉区役所 ・医療機関 1施設:県立がんセンター新潟病院(H29年度完了予定) ※事業の進捗は、工事の発注により計画管理しています。評価はこの数 値により行います。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	重要施設向け配水管の耐震化		1点		重要施設向け配水管の耐震化	2.0点						
	平均(A)		1.0点		平均(A)	2.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
重要施設向け 配水管の耐震化 ※評価指標の進捗は、 工事の発注により行う	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	3施設	2施設	4施設	3施設(見込み)	100%	3点	3施設(見込み)	150%	5点	3施設(見込み)	120%	5点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	3施設	5施設	9施設	3施設(見込み)	100%	3点	6施設(見込み)	120%	5点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行、人員体制については概ね目標通りに事業を進めることができました。 ・今年度は入札不調などの理由により繰り越した工事があり、年度内で完了しない施設がありました。しかし予定された工事については、全て発注を行いませんでした。 			<ul style="list-style-type: none"> ・予定された施設数以上に工事発注を行ない、目標通りに事業を進めることができました。 					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の繰越により、年度内で完了しない施設がありました。今後は、早期の工事発注に取り組み、繰越が無いように取り組む必要があります。 ・計画的な事業実施により、着実に配水管の耐震化が完了した重要施設が増えています。重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 			<ul style="list-style-type: none"> ・重要施設向け配水管の耐震化は、災害時の対策として重要な取り組みであることから、今後も計画的に事業を進めます。 					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	5点	A	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-4	配水管網のブロック化の推進	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故、災害時の被害範囲の極小化や復旧の迅速化を図るため、配水幹線の更新や関連事業との整合を図りながら、小ブロック(135ブロック)の構築を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成27年度:10小ブロックの構築	34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成28年度:5小ブロックの構築	34年度末までに135の小ブロック構築を完了する ・平成29年度:12小ブロックの構築

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	0.6人	0.5人		0.7人	0.1人		0.3人		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	83%	1年	1年	14%	1年		
	単位あたり の作業量(c/d)	0.6人/年	0.5人/年		0.7人/年	0.1人/年		0.3人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	小ブロック構築率 74.8%(101/135)	小ブロック構築数 8ブロック ・小ブロック構築率 80.7%(109/135)			小ブロック構築数 1ブロック ・小ブロック構築率 81.5%(110/135)								
		平成26年度の管路整備において、平成27年度実施予定の2小ブロックを先行して構築したことから、平成27年度は8小ブロックの構築となりました。			他事業工事の遅延や、予定外に発生した大口需要者の工場移転に伴う配水管布設替えを優先したことなどから、必要な管網整備を行うことができず、平成28年度は1小ブロックの構築にとどまりました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		小ブロック構築数		1点		小ブロック構築数		0点					
	平均(A)	1点			平均(A)			0.0点			平均(A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
小ブロック構築率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	80.7%	84.4%	93.3%	80.7%	100%	3点	82.2%	97%	3点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	80.7%	84.4%	93.3%	80.7%	100%	3点	82.2%	97%	3点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
	<p>【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。</p>	<p>小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 また平成27年度は、北営業所所管区域において、平成26年度のJO3ブロック構築作業に伴い、隣接するJO6ブロックの構築がほぼ完了したことから、管路整備を行うことなく区域設定仕切弁覆の設置により、効率的に1カ所の小ブロックを構築することができました。</p>			<p>小ブロック構築のための管路整備は、他の管路整備事業に併せて効率的に実施されるため、事業の性質上、予算の計上及び執行はありませんでした。 また平成28年度は、他事業工事の遅延や、予定外に発生した大口需要者の工場移転に対応するための配水管布設替えを優先したことなどから、必要な管網整備を行うことができず、1小ブロックの構築にとどまりました。</p>				
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	4点	B	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点
<p>【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。</p>	<p>ブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 今後も計画的にブロック構築を進めていきます。</p>			<p>配水管網のブロック化は、事故・災害時における被害範囲の極小化や、迅速な復旧を行うために有効な手段です。 平成28年度の結果を踏まえ、計画の見直しを行いながら小ブロック構築を進めていきます。</p>					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評		経営審議会総評	
		経営審議会総評	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-5	大ブロック間の相互連絡管の整備	所管課	管路課
----	----	------------	--------	------	-----------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時のバックアップを目的とし、大ブロック(各浄水場給水区域)間に相互連絡管を整備し、安定給水の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成27年度1,110m	28年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成28年度450m	29年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成32年度 平成29年度1,040m

②過程

【予算・決算】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	261,360,000			199,368,000					
	執行額(b)	243,752,760			135,932,040					
	執行率(%) (b) / (a)	93%			68%			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (担当者数)	1.2人	1.2人		1.2人	1.2人		1		
	期間(d) (従事期間)	1年	1年	100%	1年	1年	100%	1年		
	単位あたりの 作業量(c/d)	1.2人/年	1.2人/年		1.2人/年	1.2人/年		1人/年		
	(1年間の従事職員数)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=761.1m	27年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=1,074.8m 目標値の1,110mは概算値であり、工事としては予定路線を全て実施できました。 またこの他、債務負担行為として平成28年度竣工予定の1路線、約539mの工事に着手しました。			28年度 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 ・国道460号線 φ500mm L=530m 目標値の450mは概算値であり、工事としては予定路線を全て実施できました。 またこの他、繰越工事として平成29年度竣工予定の1路線、約475mの工事に着手しました。			29年度				
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%～ 100%以下	予定を下回る 90%未満～
	連絡管整備延長		1点		連絡管整備延長	2点						
	平均(A)		1点		平均(A)	2.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
相互連絡管整備延長	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1,110m	450m	1,040m	1,074.8m	97%	3点	530m	118%	5点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	1,110m	1,560m	2,600m	1,074.8m	97%	3点	1,604.8m	103%	4点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	現場環境が良好(地方部)で作業効率が高く、予定通りの予算執行及び作業量により事業を実施できました。			現場環境が良好(地方部)で作業効率が高く、予定通りの予算執行及び作業量により事業を実施できました。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	5点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	A	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	9点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	平成20年度から36年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から32年度までの工事の約16%が終了した。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿った施工を図ります。			平成20年度から36年度までの17年間を整備期間として設定した連絡管整備事業の内、平成27年度から32年度までの工事の約23%が終了しました。 事故・災害発生時のバックアップ機能を向上させるため、今後も計画に沿って事業を実施していきます。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	5点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	A	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	9点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	IV	震災対策・体制の強化	事業・取組名	IV-6	事故・災害時における復旧体制の強化	所管課	経営管理課
----	----	------------	--------	------	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確に応急給水する体制や、水道施設を早期に復旧する体制の強化を図るとともに、応急給水設備の整備や、給水や復旧に係る各種災害協定や関係団体・地域住民との連携の強化などを図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・満願寺浄水場の給水車用常設注水設備、住民用応急給水設備の整備を行います。 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・お客さまコールセンターとの災害時連携体制強化のため協力体制の検討・構築をします。 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備の整備を行います。 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。	各種災害時マニュアルの更新 ・各種災害時マニュアル・計画等の見直し、拡充および訓練の実施をします。 応急給水設備の整備 ・巻浄水場においては、隣接する既存施設を活用することで、整備済となっています。→事業中止 災害時の協力体制および連携体制の充実 ・協力体制構築に向けた市長部局との協議をします。 ・災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	12,560,460			3,749,571			451,006		
	執行額(b)	9,426,560			1,447,334					
	執行率(%) (b) / (a)	75%			39%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	398.4	398.4		368.8	368.8		26.8		
	時間(h)									
	人員(d)	4人	4人	100%	4人	4人	100%	4人		
	作業従事職員数									
	単位あたりの作業量(c/d)	99.6	99.6		92.2	92.2		6.7		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・各マニュアルの見直しを行いました。 ・応急給水設備の整備、更新(青山浄水場、秋葉配水場、金津配水場)を行いました。 ・岡山市水道局と災害時燃料供給の相互協力に関する覚書を締結しました。／公益財団法人新下水道サービスと災害時等における応急対策委託業務に関する協定書を締結しました。	・各マニュアル等の見直しを行い充実を図りました。(危機事象対応マニュアル、地域防災計画) ・BCPに基づく各対策部の応急対策マニュアルを作成し、災害対応の強化を図りました。 ・満願寺浄水場の給水車用常設注水設備、住民用応急給水設備が完了し体制強化が図られました。 ・お客さまコールセンターとの災害時連携体制強化のため他事業体の調査及び検討を行いました。 ・応急給水訓練実施(南区2箇所、江南区、1箇所)			・危機管理マニュアル類の見直しを行い充実を図りました。 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備が完了し、応急給水体制の強化が図られました。(なお、巻浄水場(当初、平成29年度に整備予定)においては隣接する既存施設を活用することで、整備を行わないこととしました。) ・他団体との災害時応援協定の締結(地方公共団体等1件、民間団体等2件) ・応急給水訓練実施(南区2箇所、江南区1箇所)							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	各種災害時マニュアルの更新		1点		各種災害時マニュアルの更新		1点					
	応急給水設備の整備		1点		応急給水設備の整備		1点					
災害時の協力体制および連携体制の充実		1点		災害時の協力体制および連携体制の充実		1点						
平均(A)		1点		平均(A)		1点		平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
各種マニュアルの 作成・見直し	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
給水車用常設注水設備 の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1箇所	—	—	1箇所(満願寺)	100%	3点	—	—	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
住民用応急給水設備 の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1箇所(満願寺)	1箇所(戸頭)	1箇所(巻)	1箇所(満願寺)	100%	3点	1箇所(戸頭)	100%	3点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点

■評価結果

所管評価	27年度	28年度	29年度
<p>【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。</p>	<p>・災害対応の強化のため、満願寺浄水場に常設型の給水車注水設備及び応急給水設備を整備しました。 ・事業に対する執行額は、予算額とほぼ同等程度となりました。今年度予定されていた事業は、計画通り実施され、予算に対する執行額も予定の範囲内に収まる金額となりました。</p>	<p>・災害対応の強化のため、戸頭浄水場に住民用応急給水設備を整備しました。(なお、巻浄水場(当初、平成29年度に整備予定)においては隣接する既存施設を活用することで、整備を行わないこととしました。) ・事業に対する執行額は、戸頭浄水場の整備において地下障害物の移設により管路延長の工事費が抑えられたため、予算額の約4割程度となりました。今年度予定されていた事業は、計画通り実施され、予算に対する執行額も予定の範囲内に収まる金額となりました。</p>	
<p>評価結果</p>	<p>予算効率 4点 作業効率 3点 外的要因加点 0点</p>	<p>予算効率 4点 作業効率 3点 外的要因加点 0点</p>	<p>予算効率 点 作業効率 点 外的要因加点 点</p>
<p>評価の観点・結果</p>	<p>総合評価 B 7点/10点</p>	<p>総合評価 B 7点/10点</p>	<p>総合評価 点/10点</p>
<p>【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。</p>	<p>・危機事象対応マニュアル及び地域防災計画の見直しを行ったことに加えて、BOPに基づく各対策班の応急対策マニュアルを作成し、災害時対応の充実化を行いました。 ・満願寺浄水場に給水車用の常設型注水設備及び住民用の応急給水設備を整備し、注水設備については今年度で完了しました。 ・災害時における電話受付体制の強化のため、お客さまコールセンターとの連携手法について、他事業体での取り組み状況の調査を行うとともに、局内における電話受付体制の検討を行いました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、南区及び江南区の自治会と応急給水訓練を実施しました。</p>	<p>・策定済み全ての危機管理マニュアル類の見直しを行い、災害時対応力の強化が図れました。 ・戸頭浄水場の住民用応急給水設備について、今年度で完了しました。 ・災害時における他団体との連携強化として、①名古屋市上下水道局、②敦井産業株式会社・株式会社クボタ東京本社、③豊工業株式会社との各種応援協定の締結を行いました。 ・地域住民との災害時における連携を図るため、南区及び江南区の自治会と応急給水訓練を実施しました。</p>	
<p>評価結果</p>	<p>達成度 3点 進捗度 3点 外的要因加点 0点</p>	<p>達成度 3点 進捗度 3点 外的要因加点 0点</p>	<p>達成度 点 進捗度 点 外的要因加点 点</p>
<p>評価の観点・結果</p>	<p>総合評価 C 6点/10点</p>	<p>総合評価 C 6点/10点</p>	<p>総合評価 点/10点</p>

④2次評価結果

	維持		
<p>【方向性】</p>	<p>経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。</p>	<p>経営審議会総評</p>	<p>経営審議会総評</p>

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-1	アセットマネジメントによる適正な資産管理	所管課	計画整備課
----	---	---------	--------	-----	----------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	人口減少に伴い給水収益の大幅な減少が見込まれる中、水道事業を安定して持続していくために、中長期的な視点に立って、施設更新需要の見直しについて検討し、着実な更新投資を行う必要があります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報を電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一的管理 方針の調査・検討(平成27年度～継続的に実施) 平成27年度:各浄水場の修繕・更新台帳及び竣工図等保管状況調査	28年度 中長期的な更新需要の見直し 平成28年度:水道施設の中長期的解決課題の再整理、更新需要の見直しとア セットマネジメントによる健全度評価および財政収支見通しの再検証(平成29年度 からの継続実施計画を前倒しする) 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報を電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一的管理方針の 調査・検討(平成27年度～継続的に実施) 平成28年度 ・汎用データベースソフトの利用可能性と導入・維持管理コスト調査 ・工事竣工図面等の電子化(PDF化など)と供用サーバへの保管ルールの検討	29年度 中長期的な更新需要の見直し 更新需要の見直しと財政収支見通しの検討を継続的に行うため、アセット マネジメントワーキンググループで健全度評価の在り方を検討 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設情報の電子化、施設・設備の修繕履歴等の統一の 管理方針の調査・検討について、アセットマネジメントワーキンググルー プで継続的に実施

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0					
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働人数)	0.6人	0.6人		2.4人	2.4人		4.4人		
	期間(d) (実働期間)	6カ月	6カ月	100%	8カ月	8カ月	100%	12カ月		
	単位あたり の作業量(c/d) (月あたりの作業人数)	0.1人/月	0.1人/月	(イ/ア)	0.3人/月	0.3人/月	(イ/ア)	0.4人/月	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	-	施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 浄水場単位の施設・設備の更新・修繕履歴と竣工図等の保管・利用状況 を調査しました。また、新マスタープラン整備工事竣工図等の電子化と統 一的利用化に向け、データ保管用の現有共用サーバ容量の調査、増設 もしくは専用等の必要性とその可否について調査しました。			中長期的な更新需要の見直し 中長期的な水道施設設備の課題を整理するとともに、更新需要の見直し や施設の健全度評価等に継続的に取り組んでいくため、アセットマネジ メントワーキンググループにおいて、施設評価方法の検証に着手しまし た。 施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備 施設修繕履歴等の整備・活用には、組織的な活動による調査・検討が必 要なことから、組織横断的なアセットマネジメントワーキンググループを 立ち上げ、施設情報や修繕履歴等の統一的管理に向けて、必要となる 情報やその管理方法についての検討を開始しました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備		1点		中長期的な更新需要の見直し		1点					
					施設情報の電子化・施設修繕履歴の整備		1点					
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
中長期的な更新需要の見直し	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	実施	—	—	—	一部実施	一部実施	2点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	2点	—	—	—
施設情報の電子化 ・ 施設修繕履歴の整備	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	—	実施	実施	3点	実施	実施	3点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	現況の調査にあたり必要とする人数通りで調査・検討の実施できました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			今年度の取り組みにあたり、調査・検討を一部実施しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	実施方法	0点	0点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	浄水場単位の施設・設備の更新・修繕履歴と竣工図等の保管・利用状況を調査した結果、浄水場毎に修繕履歴等の台帳が異なっていること、竣工図面等について一部紙ベースで保管・管理されている実態が把握でき、今後のアセットマネジメント(資産管理)の継続的改善に向けて統一の必要性を確認できました。また、共有サーバの容量を調査した結果、増設や専用サーバを設けることなく現状利用が適切との検討結果を得ることができ、電子データ保管の方向性を得ることができました。			アセットマネジメントによる適正な資産管理を図っていくため、計画部門・管路部門・浄水部門の担当で構成するアセットマネジメントワーキンググループを立ち上げ、アセットマネジメントの継続的改善(PDCA)を見据えた施設情報整備に関する取り組みの道筋を付けることができました。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点	6点/10点	実施方法	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-2	定員・給与の適正化	所管課	総務課
----	---	---------	--------	-----	-----------	-----	-----

①事業概要							
【事業の目的】		独立採算で運営する水道事業は、最小のコストで最大の効果を得るよう努める必要があります。健全な運営のために求められる人的資源の最適化を常に追求しつつ、事業運営の効率化を推進します。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)		27年度		28年度		29年度	
		定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。		定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。		定員の適正化 ・業務の見直しや民間委託などにより、定員の適正化を進めます。 ・職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施します。 給与の適正化 ・職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。	

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	0		0		0				
	執行額(b)	0		0		0				
	執行率(%) (b) / (a)	-		-		#DIV/0!				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	480時間	480時間		480時間	480時間		480時間		
	人員(d) 作業従事職員数	2人	2人	100%	2人	2人	100%	2人		
	単位あたり の作業量(c/d)	240時間	240時間		240時間	240時間		240時間		
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価												
■結果・効果												
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	定員の適正化 ・再任用職員を含めた定員管理を行いました。 年度末職員数 345名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。	定員の適正化 ・平成28年度より委託する新設調査業務について業務分析を行い、適正な人員を削減しました。 ・平成29年度より委託予定の料金徴収部門について調整を進めるとともに、今後増える施設更新等に対応する適正定員について検討を行いました。 ・年度末職員数 342名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。			定員の適正化 ・平成29年度より委託する水道料金等収納業務について業務分析を行いました。 ・新設調査業務を委託化し適正な人員を削減しました。 ・年度末職員数 337名 給与の適正化 ・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施しました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		定員の適正化	2点		定員の適正化	2点						
		給与の適正化		1点	給与の適正化		1点					
	平均(A)	1.5点			平均(A)	1.5点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
職員数(人) (年度末職員数≦職員定数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(B/D)	外的要因 加点
	346人	346人	330人以下	342人	101%	4点	337人	103%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	4点	-	-	4点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度	28年度	29年度
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数については、今後の業務見通しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、時機を逸することなく適正に行うことができました。 給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 (職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数については、今後の業務見通しや再任用職員数の増減等を考慮し、次年度体制を見据えた中で、時機を逸することなく適正に行うことができました。 給与改定については、市長部局の改正に連動して、遅滞なく実施することができました。 (職員定数、給与とも、経費を伴う事業的側面を有しないことから、予算執行率を「予定どおり」とみなして算出します。)	
評価結果	予算効率 3点	予算効率 3点	予算効率 点
評価の観点・結果	作業効率 3点 外的要因加点 0点	作業効率 3点 外的要因加点 0点	作業効率 点 外的要因加点 点
総合評価	C	C	総合評価 点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数346人のところ、年度末職員数342人であったため、定数管理は適正に行うことができました。 給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員定数346人のところ、新設調査業務委託の実施に伴い2人減員するなど、年度末職員数は337人となり、定数管理は適正に行うことができました。 給与は市長部局の改正のタイミングに併せ、同じ水準で見直しを行いました。 	
評価結果	達成度 4点	達成度 4点	達成度 点
評価の観点・結果	進捗度 4点 外的要因加点 0点	進捗度 4点 外的要因加点 0点	進捗度 点 外的要因加点 点
総合評価	B	B	総合評価 点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	V	経営基盤の強化	事業・取組名	V-3	業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	所管課	営業課
-----	---	---------	--------	-----	---------------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向けた検討を進め、効果が見込める業務について委託化に取り組みます。特に、水道料金等収納業務については、平成29年度からの委託化に向けた準備を進めます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 業務委託の実施に向けた検討や準備 ・基本方針を決定します。 ・準備計画の策定をします。	28年度 業務委託の実施に向けた検討や準備 ・業者選定・契約をします。 ・業務引き継ぎ準備をします。	29年度 業務委託実施 委託後の評価と改善

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらいかけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			94,100,000		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)はどれくらいかけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働月数)	12ヶ月	12月		12ヶ月	12月		12ヶ月		
	人員(d) 作業従事職員数	10人	10人	100%	10人	10人	100%	7人		
	単位あたりの作業量(c/d)	1.2ヶ月/人	1.2月/人		1.2ヶ月/人	1.2月/人		1.7ヶ月/人		
	(1人あたりの作業量)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	・水道事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的観点から業務委託の委託範囲について、費用対効果及びお客さまサービス向上を考慮し、決定しました。	業務委託の実施に向けた検討や準備 ・基本方針を決定しました。 ・準備計画の策定をします。			業務委託の実施に向けた検討や準備 ・公募型プロポーザル方式により業者を選定し、委託契約を行いました。 ・29年度からの運用に向けて、委託契約業者との業務引き継ぎ準備を行いました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		基本方針の決定		1点		業者選定・契約		1点					
		準備計画の策定		1点		業務引き継ぎ準備		1点					
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
水道料金等収納業務 委託の実施 H27:基本方針の決定・準備 H28:準備・業者選定 H29:実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	-	-	-	-	-	3点	-	-	3点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	基本方針の決定及び準備計画の策定に加え、課題整理等を行うため、検討委員会及び分科会を設け定期的会議を開催し、目標どおり達成しました。事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			委託化実施計画に沿って、仕様書、実施要領、業務手順書等を醸成策定し、業務移行準備を考慮して早期に公募型プロポーザル方式により業務委託業者を決定しました。事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	基本方針を決定し、平成29年度の委託化実施に向けた計画及び準備(料金関係職員の意見を取込んだ仕様書、実施要領、業務手順書等の策定など具体的準備)を行いました。平成28年度においては、目標とする更なる委託化の準備と委託業者の決定に向けた諸種整備を行っていきます。			委託化実施に向け、受託業者を決定し契約を行い、余裕をもった業務移行準備及び引き継ぎを行いました。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-4	遊休資産の有効活用	所管課	経営管理課
----	---	----------	--------	-----	-----------	-----	-------

①事業概要							
【事業の目的】		施設統廃合計画により廃止となった浄配水場等の遊休資産を有効活用することにより、財政基盤の強化を図ります。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)		27年度		28年度		29年度	
		・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[長戸呂浄水場跡地、亀田 配水場跡地、西川浄水場跡地](平成26年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。		・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[長戸呂浄水場跡地、亀田 配水場跡地、西川浄水場跡地](平成26年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。 →事業中止		・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 引き続き、情報収集・調査・研究をします。 ・太陽光発電用地としての有償貸付(20年間)[小須戸浄水場跡地、岩室 浄水場跡地、月湯配水場跡地、旧新津浄水場跡地](平成28年度現在) 設置工事の開始、発電の開始をします。 →事業中止	

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	91,692			0			0		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b) / (a)	0%			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	177.6	177.6		177.6	177.6		177.6		
	時間(h)									
	人員(d)	2人	2人	100%	2人	2人	100%	2人		
	作業従事職員数									
	単位あたりの 作業量(c/d)	88.8	88.8		88.8	88.8		88.8		
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価													
■結果・効果													
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 ・平成26年度に、当局が所有する廃止浄水場跡地について、太陽光発電の実施を土地利用の条件として有償貸し付けを行う「民間事業者による太陽光発電事業」を公募型プロポーザル方式で募集を行い、発電事業者を決定、基本協定を締結しました。しかし、固定価格買い取り制度の見直しに伴う事業収支計画の変更により、発電事業者側から事業性が見込めないとの申し出があったことから、本事業の中止を判断しました。 ・これまでの取組み内容と課題を整理し、入札参加者確保の可能性の高い遊休資産について、適正な売却価格の算定に着手しました。 ・今後は、遊休資産の有効活用に向けた情報収集や調査・検討を継続して行うとともに、遊休資産の売却も視野に入れて検討を行います。						施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続 ・施設有効活用に向けた情報収集・調査・研究に取組みました。その中で、市が推奨する再生可能エネルギー事業において、4箇所[小須戸浄水場跡地、岩室浄水場跡地、月湯配水場跡地、旧新津浄水場跡地]の遊休資産を太陽光発電用地として検討を進めています。 ・西川浄水場跡地の黒松13本の売却を行いました。 ・今後は、遊休資産の有効活用に向けた情報収集や調査・検討を継続して行うとともに、遊休資産の売却も視野に入れて検討を行います。					
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~				
		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続		1点		施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続		1点					
		太陽光発電用地としての有償貸付			0点								
	平均(A)	0.5点			平均(A)			1点					

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
有効活用の 実施・協議・調整等 累計施設数	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	3施設以上	1施設	1施設	0	0%	1点	0	0%	1点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	1点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	3施設以上	4施設以上	5施設以上	0	0%	1点	0	0%	1点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業の中止により、当初予定されていた予算の執行が不要となったため、予算の執行率は予定以下となり、計画に対する結果も予定以下となりました。 事業中止の判断は、固定価格買い取り制度の変更によるため、効率性が低下したやむ負えない理由に該当すると判断しました。 			<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、事業の性質上、予算計上・執行額はありませんでした。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。 黒松売却については、一定の評価ができるものと判断しました。 					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	2点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	1点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業の中止となったため、期待する結果は得られませんでした。今後は、売却に向けた需要を確認しながら、新たな遊休資産を有効活用する手法等を検討します。 事業中止の判断は、固定価格買い取り制度の変更によるため、有効性が低下したやむ負えない理由に該当すると判断しました。 			<ul style="list-style-type: none"> 当初予定していた物件について、入札を実施するまでには至りませんでした。市が推奨する再生可能エネルギー事業において、数力所の遊休資産を太陽光発電用地として検討を進めています。引き続き、遊休資産活用に向けた調査・検討を行っていきます。 					
評価結果	達成度	1点	総合評価	達成度	1点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	1点	D	進捗度	1点	E	進捗度	点	
	外的要因加点	1点	3点/10点	外的要因加点	0点	2点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	改善・見直し 経営審議会総評	経営審議会総評	経営審議会総評
		太陽光発電事業者への有償貸付は未実施であったが、遊休資産の有効活用は、経営基盤の強化を図るために有効な事業である。 また、遊休資産保有によりコストが発生している場合、早めの売却判断も必要であることから、売却も含め新たな有効活用について、幅広い知見、情報収集、調査・研究を進め、財政基盤の強化に努めること。	

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V経営基盤の強化	事業・取組名	V-5	時代に即した料金制度等の検討・実施	所管課	経営管理課
----	---	----------	--------	-----	-------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水需要や財政収支の状況を踏まえ、将来にわたり安全な水の安定供給の持続が可能となるよう、維持管理・更新の時代に即した料金制度の検討を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。	28年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。	29年度 ・料金体系の調査研究、見直し案の検討 他事業体の料金体系の調査・研究をします。 ・料金改定の必要性、時期、水準の検討 調査・研究をします。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	0		0		0				
	執行額(b)	0		0						
	執行率(%) (b) / (a)	-		-		#DIV/0!				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	22.2時間	22.2時間		22.2時間	37.0時間		22.2時間		
	人員(d)	2人	2人	100%	2人	2人	167%	2人		
	作業従事職員数									
	単位あたり の作業量(c/d)	11.1時間	11.1時間		11.1時間	18.5時間		11.1時間		
(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	他政令市と県内市町村の料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)を行いました。	・料金水準等の調査研究のための基礎資料とするため、他政令市と県内市町村の料金体系、料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)等を行いました。			・料金水準等の調査研究のための基礎資料とするため、他政令市と県内市町村の料金体系、料金改定状況を調査し、口径別料金比較供給単価比較(政令市)等を行いました。また、新潟市の料金制度について現状と課題の整理を行いました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		料金体系の調査研究、見直し案の検討		1点		料金体系の調査研究、見直し案の検討		1点					
		料金改定の必要性、時期、水準の検討		1点		料金改定の必要性、時期、水準の検討		1点					
	平均(A)	1.0点		平均(A)	1.0点		平均(A)						

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
「水道料金算定要領」 に基づく 料金シミュレーション	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	調査研究	調査研究	見直し案作成	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証を行いました。また、予算効率は、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			他政令市と県内市町村の料金改定状況等を調査し、比較検証及び、新潟市の料金制度について現状と課題の整理を行いました。また、予算効率は、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたが、料金制度の現状と課題の整理が必要であったため作業効率は下がりました。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	2点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。また、重要な事業・取り組みであることから、持続可能な経営を構築することを目的に社会経済情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。			時代に即した料金制度等の検討のための、基礎資料の収集を行いました。また、重要な事業・取り組みであることから、持続可能な経営を構築することを目的に社会経済情勢や財政収支などを見据えながら、引き続き調査研究を行います。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	V	V 経営基盤の強化	事業・取組名	V-6	水道事業経営審議会の効果的運用	所管課	経営管理課
----	---	-----------	--------	-----	-----------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道事業経営審議会を継続し、有識者や水道利用者などの第三者の意見や助言を事業運営に効果的に反映させます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。	28年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。	29年度 ・水道事業経営審議会の継続運営 継続運用と委員の選考を行います。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	737,337			360,320			438,236		
	執行額(b)	539,460			342,531					
	執行率(%) (b) / (a)	73%			95%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	99.9時間	99.9時間	100%	99.9時間	99.9時間	100%	99.9時間		
	人員(d)	3人	3人		3人	3人				
	作業従事職員数									
	単位あたりの 作業量(c/d)	33.3時間	33.3時間	(イ/ア)	33.3時間	33.3時間	(イ/ア)	33.3時間	(イ)	(イ/ア)
(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(ア)		(イ)	(ア)		(イ)		

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	審議会を11月と3月の2回開催しました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。	水道事業経営審議会(2回/年)を開催し、意見、提言、助言をいただきました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。また平成27年10月に公募委員2名の改選があり、新たに2名就任いただきました。			水道事業経営審議会(2回/年)を開催し、意見、提言、助言をいただきました。また、新しい取組みとして平成27年度の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。審議会の議事録は、会議資料と合わせ、局ホームページに掲載しました。また、平成28年9月及び平成29年度3月に委員の退任・新任があり、新たに2名就任いただきました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		水道事業経営審議会の継続運営	1点		水道事業経営審議会の継続運営	1点						
		平均(A)	1.0点		平均(A)	1.0点		平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
新・マスタープラン 事業実施状況に対する 意見・提言の聴取と反映	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	—	—	—	—	—	3点	—	—	3点	—	—	3点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	水道事業経営審議会を2回開催し、委員の改選も予定どおり実施できました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。			水道事業経営審議会を2回開催し、委員の新任依頼、欠員補充も滞りなく実施しました。予算効率・作業効率も予定枠内となり、目標どおり達成しています。					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	今年度は、水道事業経営審議会を2回開催し予算・決算及び旧マスタープランへの意見・提言をいただきました。また、新・マスタープランの評価方法について、意見・提言をいただき評価表及び評価方法などへ反映しました。引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。			今年度は、水道事業経営審議会を2回開催し予算・決算及び、平成28年度「水道に関するアンケート調査」結果への意見・提言をいただきました。また、新しい取組みとして、平成27年度の新・マスタープランの事務事業に対する二次評価をしていただきました。引き続き、水道事業経営審議会を開催し、意見や助言を事業運営に反映し、信頼される水道事業を目指します。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持	
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評 経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-1	戦略的な広報の実施	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	-----------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	新潟市水道局広報戦略]~広報活動の考え方~に基づき、継続的に広報計画を策定し、効果的な広報活動を展開します。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	独自イベント ・施設見学など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出前講座など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備	独自イベント ・施設見学など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出前講座など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備	独自イベント ・施設見学、各種体験など お客さまに直接働きかける広報 ・災害パネル展示、出張授業など デジタルメディアを活用する広報 ・ホームページなど 紙媒体による広報 ・広報紙、検針票裏面など 漫画を活用する広報 ・小学生向けパンフレット、工事看板など 浄水場見学のための施設改修、整備

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	39,113,701		39,343,250		39,517,000				
	執行額(b)	39,073,959		37,898,475						
	執行率(%) (b) / (a)	100%		96%		0.0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	1920時間	1920時間		1920時間	1920時間		2880時間		
	(実働時間)									
	期間(d)	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%	12カ月		
	(実働月数)									
単位あたりの 作業量(c/d)	160時間	160時間		160時間	160時間		240時間			
(1月あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	・広報紙(水先案内)の紙面構成をこれまで以上に『読み手』を意識した内容に改めるとともに、配布方法を変更することにより、認知度を高めることができました。また、配布のための経費削減も図れました。	・水道週間行事を見直したり、他団体のイベントに積極的に参加し、水道水の魅力をアピールしました。また、お客さまアンケートで出された質問に対し、優先順位を付け広報紙で回答をすることで、お客さまの知りたい情報も提供しました。 施設見学者やイベントへの参加者が増加していることから、水道局の魅力を発信できていると考えられます。			・水道週間行事を見直したり、他団体のイベントに積極的に参加し、水道水の魅力をアピールしました。さらに、出張授業の回数を増やすなど幅広い層へ水道局の魅力を発信できていると考えています。また、広報紙(水先案内)へ有料広告を掲載し、水道料金以外の収入も確保できました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		独自イベント		1点		独自イベント		1点					
		防災パネルの展示、出前講座		1点		防災パネルの展示、出前講座		1点					
		ホームページ		1点		ホームページ		1点					
		広報紙、検針票裏面広告		1点		広報紙、検針票裏面広告		1点					
小学生向けパンフレット		1点		小学生向けパンフレット		1点							
平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)					

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度(%)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	64%	—	—	—	—	72%	113%	5点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
「新潟市水道局広報戦略」に基づく効果的な広報の実施	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算や体制については、計画的に実施され、目的は達成できました。			予算や体制については、計画的に実施され、目的は達成できました。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	施設見学者、イベント参加者が増加し、水道水の魅力をアピールできたと考えられるため、有効でありました。			広報紙の内容を見やすく、配布方法も検針票と同時配布にするなど工夫した結果、認知度も向上し水道の魅力をアピールできたと考えられるため、有効でありました。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	B	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-2	お客さまの意見・要望の把握	所管課	総務課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	本市水道事業における基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を実現するためには、お客さまが水道事業に求めるものを的確に把握して施策に反映させるなど、お客さまの視点に立った事業運営に努める必要があります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	27年度 水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。	28年度 お客さまアンケートの実施 ・お客さまアンケート調査を継続実施することにより、お客さまの水道事業に対する意見、要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。	29年度 お客さまアンケートの実施 ・事業者向けアンケート調査実施することにより、水道事業に対する意見、要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 水道モニター制度運用 ・水道モニター制度を継続実施し、お客さまの意見、要望等を直接、継続的に聴取します。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらいかけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	468,762			1,871,725			1,086,835		
	執行額(b)	288,363			1,381,469					
	執行率(%) (b) / (a)	62%			74%			0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)はどれくらいかけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	120時間	120時間		120時間	120時間		180時間		
	期間(d) (実働月数)	12カ月	12カ月	100%	12カ月	12カ月	100%	12カ月		
	単位あたりの作業量(c/d)	10時間	10時間		10時間	10時間		15時間		
	(1月あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・アンケート回収率の向上を図るため、締切の1週間前に回答への御礼と再度の案内を兼ねたハガキを発送しました。 ・水道モニターについては、天候により変更を余儀なくされたプログラムもありましたが、概ね計画通り実施することができました。	公募による22名の水道モニターで研修会や施設見学など計5回開催しました。予定していたメニューはすべて消化でき、内容もグループ討議手法も取り入れるなどの工夫をしながら実施しました。			・公募により24名の水道モニターでスタートしましたが、途中で辞退された方もおり最終的に23名となりました。研修会や施設見学など計4回開催しました。予定していたメニューはすべて消化でき、内容もグループ討議手法も取り入れるなどの工夫をしながら実施しました。 ・お客さまアンケートについては、2,966件送付(3,000件送付、未着が34件)し、1,503件回収することができました。(回収率50.7%)アンケート結果については、経営審議会で報告審査していただき、事業運営の参考とすることができました。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	水道モニター制度運用		1点		水道モニター制度運用 お客さまアンケートの実施		1点					
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
お客さまアンケート調査 の実施(件) H28:一般家庭対象 H29:事務所対象	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	—	実施	実施	—	—	—	実施	実施	3点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	3点	—	—	—
水道モニター活動回数 (回) (モニター会議、施設見 学会等開催数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	5回	5回	5回	5回	100%	3点	4回	80%	2点	—	—	—
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	3点	—	—	2点	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—	実績累計(E)	進捗度(E/C)	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算より少ない執行額で予定のメニューをこなせたことで、効率的に実施できました。			予算より少ない執行額でメニューをこなせたことで、効率的に実施できました。 ・お客さまアンケートについては、郵便未着があったもののほぼ予定通りの件数にアンケートを届けることができました。 ・水道モニターについては、従来下水道事業の説明を取りやめたことで4回の開催となりました。					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	3点	B	作業効率	点	点
	外的要因加点	0点		7点/10点	外的要因加点		0点	7点/10点	
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	予定通りにプログラムを遂行できたことで、水道事業について理解を得ることができました。			予定通りにプログラムを遂行できたことで、水道事業について水道モニターから理解を得ることができました。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	点
	外的要因加点	0点		6点/10点	外的要因加点		0点	6点/10点	

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-3	分かりやすい経営情報の開示	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	これからの水道事業に要する費用負担のあり方や経営の効率化に対する取組みなどについて、分かりやすくお客さまにお知らせし、水道事業経営の透明性の向上を図ります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供	28年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供	29年度 ・料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 ・経営効率化に関する取り組み情報の提供

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0					
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	128.8時間	128.8時間		128.8時間	114.0時間				
	人員(d) 作業従事職員数	6人	6人	100%	6人	6人	88%			
	単位あたり の作業量(c/d)	21.5時間	21.5時間		21.5時間	19.0時間				
	(1人あたりの作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	平成25年度分の事務事業評価を実施し、評価結果をホームページに掲載しました。 業務指標を局ホームページに公表したほか、供給単価と給水原価の政令市比較を行いました。また、決算概要などを分かりやすく広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業中長期経営計画の施策目標ごとに関連付けた業務指標の成果について、局ホームページに公表しほか、行革プラン2013の取組結果を市ホームページに掲載しました。	「水道料金について」、「他都市料金比較」及び「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成26年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成26年度水道事業会計決算の経営比較分析表を新たに、ホームページで公表しました。			「他都市料金比較」、「料金収入」及び「決算概要」を広報紙「水先案内」に掲載しました。 水道事業ガイドライン業務指標及び平成27年度事務事業評価の結果をホームページで公表しました。また、総務省通知「公営企業に係る「経営比較分析表」の策定及び公表について」に基づき、平成27年度水道事業会計決算の経営比較分析表を、ホームページで公表しました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供		1点		料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供		1点					
		経営効率化に関する取り組み情報の提供		1点		経営効率化に関する取り組み情報の提供		1点					
	平均(A)	1.0点			平均(A)	1.0点			平均(A)				

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)	100%	3点	1回/年以上(2回)	100%	3点	1回/年以上(2回)	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
経営効率化に関する取り組み情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上	1回/年以上(2回)	100%	3点	1回/年以上(2回)	100%	3点	1回/年以上(2回)	100%	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	料金設定の仕組みおよびコスト情報、経営効率化に関する取り組み情報の提供を予定どおり行いました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			料金設定の仕組みおよびコスト情報、経営効率化に関する取り組み情報の提供を予定どおり行い、水先案内作成に係る人員が1名削減となったことから、作業効率が向上しました。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	4点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供、経営効率化に関する取り組み情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」、ホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容となるよう努めていきます。			料金設定の仕組みおよびコスト情報の提供、経営効率化に関する取り組み情報の提供について、イラストや図表、分かりやすい内容で広報誌「水先案内」、ホームページで提供しました。引き続き分かりやすい内容となるよう努めていきます。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VI	積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	事業・取組名	VI-4	放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	所管課	経営管理課
----	----	---------------------	--------	------	-------------------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	放射性物質を含む浄水汚泥について、厳重な保管・管理を徹底するとともに、水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度の検査結果、浄水場等における放射線量などについて、お客さまに対し情報提供を行います。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続	保管管理、検査、有効利用、情報提供 ・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 ・水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ・ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について、国・県への積極的な要望の継続

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	449,949,308			404,181,000			667,400,000		
	執行額(b)	285,179,223			232,388,941					
	執行率(%) (b) / (a)	63%			57%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	753	753		753	558		558		
	時間(h)									
	人員(d)	55人	55人	100%	55人	51人	80%	51人		
	作業従事職員数									
単位あたりの 作業量(c/d)	13.7	13.7		13.7	10.9		10.9			
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	-	・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。			・放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理を行いました。 ・200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効活用及び水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量の検査を継続して行いました。また、調査した検査結果は、ホームページ等で情報提供を行いました。 ・200Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分については、環境省及び新潟県に日水協新潟県支部として要望書の提出を行いました。 ・今年度は、8,000Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の処理について、県外搬出処分も視野に入れた検討を行いました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		保管管理、検査、有効利用、情報提供		1点		保管管理、検査、有効利用、情報提供		1点					
		平均(A)		1.0点		平均(A)		1点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	開示	開示	開示	実施	実施	3点	実施	実施	3点	実施	実施	3点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行率は、放射能検査業務の予定検体数、予定検査数が減少したことに加え、汚泥処分量が減少したことにより、予定以下となりました。 ・事業取組は、予定通り行われました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・放射能検査業務の予定検体数、予定検査数が減少したことに加え、汚泥処分量が減少したことにより、予算効率・作業効率は予定枠内となり目標を達成しています。 ・事業取組は、予定通り行われました。 					
評価結果	予算効率	4点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	B	作業効率	4点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥保管施設における放射線量測定結果及び放射性物質濃度の分析調査結果については、適切に情報開示を行いました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥保管施設における放射線量測定結果及び放射性物質濃度の分析調査結果については、適切に情報開示を行いました。 					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-1	人材育成と専門性の強化	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	-------------	-----	-----

①事業概要

【事業の目的】	水道事業は専門性が高いために継承すべき技術が多く、施設整備計画の策定、設計施工管理、危機管理および現場対応力など、これらはいずれも高度な知識と経験が求められます。事業の持続のためには、専門知識と実務経験を併せ持つ職員の確保と育成が重要となります。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)	<p>27年度</p> <p>技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。</p> <p>各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実を図ります。</p> <p>水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。</p>	<p>28年度</p> <p>技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。</p> <p>各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実を図ります。</p> <p>水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。</p>	<p>29年度</p> <p>技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転 ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。</p> <p>各種研修の実施 ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実を図ります。</p> <p>水道研修センターの運用 ・水道研修センターの効果的運用を図ります。</p>

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらいかけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	3,660,160			3,403,800			3,741,880		
	執行額(b)	3,358,015			3,041,411					
	執行率(%) (b) / (a)	92%			89%			0.0%		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)はどれくらいかけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	1900時間	1900時間		1900時間	1900時間		1900時間		
	人員(d) 作業従事職員数	1人	1人	100%	1人	1人	100%	1人		
	単位あたりの作業量(c/d)	1900時間	1900時間		1900時間	1900時間		1900時間		
	(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。	・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。			・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続するとともに、民間企業等経験者を対象とした採用試験を実施し、人材の確保に努めました。							
	・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。	・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。			・新規採用職員(技術職)のジョブローテーションの指針に従った教育配転を行いました。							
	・「技術研修計画」に基づく研修を確実に実施するとともに、研修計画を見直し、研修の充実を図りました。	・水道研修センターの運用に関しては、会議での利用等、研修以外の目的でも促進を図ったことで効率的な運用が図れました。			・職員研修基本計画の見直しを行い、実態にあった計画としました。							
	・職員研修はもとより、「配水管工技能講習会」や「給水装置工事主任技術者試験受験準備講習会」等、外部の技術者育成の場として活用しました。				・水道研修センターについては、計画的に実施する局内部研修・講師招聘研修の会場として活用したほか、積極的な実施を推奨している職場内Off-JTの会場として活用したことにより、効果的な運用をすることができました。							
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下
	技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転		1点		技術系新規採用職員の独自採用, 教育配転		1点					
	各種研修の実施		1点		各種研修の実施		1点					
	水道研修センターの運用		1点		水道研修センターの運用		1点					
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
年間内部研修実施時間(時間) (延べ年間研修時間/ 年度末職員数)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	14.6時間	15.2時間	15.8時間	16.1時間	110%	4点	15.6時間	103%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	4点	—	—	4点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	予算より少ない執行額で予定の研修を実施できたことから、効率的に実施できました。			予算より少ない執行額で予定の研修を実施できたことから、効率的に実施できました。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	4点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	B	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	7点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	・民間経験者も含め、新規採用職員の独自採用を継続実施することにより、組織の年齢構成上、今後の技術継承に資する人員体制を確保することができました。 ・利用促進を図ったことで水道研修センターの稼働率も上がり有効でありました。(施設稼働率89.6%、うち研修での稼働率43.2%)			・研修基本計画を見直し、職場内Off-JTを積極的に行うよう各所属へことあるごとに呼びかけた結果、目標を上回る研修時間を確保できました。					
評価結果	達成度	4点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	4点	B	進捗度	4点	B	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、技術継承にあたっては、再任用職員の活用も有効である。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VII	技術・知識を有する人材の確保と育成	事業・取組名	VII-2	諸外国との水道技術研究交流	所管課	総務課
----	-----	-------------------	--------	-------	---------------	-----	-----

①事業概要							
【事業の目的】		我が国の水道事業は高度な技術のもと管理・運営されており、世界のトップランナーとして国際的にも高い評価を得ていることから、その技術・経験を国際貢献・国際協力に生かすことが期待されています。本市においても、水道技術の国際交流を通じた中で、国際的な視野と見識を持った人材の育成を図ります。					
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の内容と計画(予定)		27年度		28年度		29年度	
		・国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 ・日米台水道地震対策ワークショップへの参加 ・水道技術国際シンポジウム等への参加 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		・国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 (水道技術国際シンポジウム:3年に1回開催、次回は30年度) (日米台水道地震対策ワークショップ:2年に1回開催、次回は29年度)		・国際会議等へ積極的に職員を派遣します。 ・日米台水道地震対策ワークショップへの参加 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 (水道技術国際シンポジウム:3年に1回開催、次回は30年度)	

②過程										
【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度		28年度		29年度				
	予算額(a)	373,390		45,921		42,520				
	執行額(b)	633,150		46,780						
	執行率(%) (b) / (a)	170%		102%		0.0%				
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	9時間	9時間		3時間	3時間		6時間		
	人員(d)	1人	1人	100%	1人	1人	100%	1人		
	作業従事職員数									
	単位あたりの 作業量(c/d)	9時間	9時間		3時間	3時間		6時間		
(1人あたりの年間作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価													
■結果・効果													
【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績		27年度			28年度			29年度				
	・国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例等の情報収集を行いました。 ・東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第6回会議に2名参加(H27.1)		・国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例等の情報収集を行いました。 ・仙台市で開催された日米台水道地震対策ワークショップに2名参加(H27.10) ・神戸市で開催された水道技術国際シンポジウム等に3名参加(H27.7) ・東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第7回会議に2名参加(H28.1)			・国際会議等に積極的に職員を派遣し、先進都市の諸外国への貢献事例や課題、方向性等の情報収集を行いました。 ・東京都で開催された自治体水道国際展開プラットフォーム第8回会議に2名参加(H29.1)							
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	日米台水道地震対策ワークショップ参加			1点		自治体水道国際展開プラットフォームへの参加		1点					
	水道技術国際シンポジウム等への参加			1点									
	自治体水道国際展開プラットフォームへの参加			1点									
平均(A)		1.0点			平均(A)			1.0点			平均(A)		

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
国際研修等への 参加人数 (人)	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	2人	2人	2人	7人	350%	5点	2人	100%	3点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	2人	4人	6人	7人	350%	5点	9人	225%	5点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	・国際会議への参加を通じて、先進都市の諸外国への貢献事例等の最新情報を収集することができました。			・先進都市との情報交換の機会を得て、諸外国への貢献事例等の最新情報を収集することができました。					
評価結果	予算効率	2点	総合評価	予算効率	2点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	0点	5点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	海外へ事業展開する際の課題や方向性等について、派遣者は当然のこと、派遣者を通じて当該情報の共有化を図ることにより、国際的視野を持った人材の育成につなげていくことができました。			会議での報告内容や、参加者間での意見交換を通じて、先進都市における事例や課題や方向性等について、派遣者を通じて当該情報の共有化を図ることにより、国際的視野及び国際的知識を持った人材の育成につなげていくことができました。					
評価結果	達成度	5点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	5点	A	進捗度	5点	B	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	10点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

	維持		
【方向性】	経営審議会総評 大切な水環境は世界的な問題であることも認識し、情報収集に努めるとともに、新潟市水道局としての技術を生かすことを含め、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。	経営審議会総評	経営審議会総評

新・マスタープラン事業評価管理シート

施 策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-1	建設副産物の再利用促進	所管課	技術管理室
-----	------	-------------	--------	--------	-------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	建設副産物の再利用により、CO2排出量の削減や省エネルギー化を図り、環境保全への社会的責任を果たします。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。再生土を利用した工事の発注を継続して実施する。	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋げる。	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化することを継続します。 ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。再生土を利用した工事の発注を継続して実施すると共に、再利用箇所の精査を行い、率の向上に繋げる。

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b) / (a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c) (実働時間)	10時間	10時間		10時間	10時間		10時間		
	人員(d)	2人	2人	100%	2人	2人	100%	2人		
	作業従事職員数									
	単位あたりの 作業量(c/d)	5時間	5時間		5時間	5時間		5時間		
	(1人あたりの年間の作業時間)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度				
	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を行いました。再生土を利用した工事の発注を行いました。(再生率19.6%)	改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は改良し、再利用を行いました。その結果、昨年度より若干再生率は低下しましたが、予想どおり推移しました。(再生率16.9%)			改良土の利用促進 ・建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化しました。(再生率100%) ・建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土は再生プラントへの搬入が可能であれば改良し、再利用しました。その結果、昨年度より若干再生率は上昇し、予想どおり推移しました。(再生率17.4%) 今後も、この数値で推移していくものと思われます。							
		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
	改良土の利用促進		1点		改良土の利用促進		1点					
	平均(A)		1.0点		平均(A)		1.0点		平均(A)			

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
建設副産物の リサイクル率	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	39.2%	37.7%	37.9%	37.70%	96%	3点	37.90%	101%	4点			
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	—	—	—	—	—	3点	—	—	4点			
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	設計積算の改定において、条件によっては改良土使用単価が山砂使用単価より安価のケースが発生するため、今後も再生土使用を進めます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。			工事箇所によっては、改良土使用単価が山砂使用単価より安価のケースが発生するため、今後も再生土使用を進めます。また、事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでした。					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	昨年度と同じく幹線・支管更新工事エリアが、地質条件不良と地下埋設物が輻射している市内中心部にシフトしてきた事により、再生土利用する工事の発注件数が減少しています。また、再生プラントへの再生土搬入ができない夜間工事が増加傾向にあるため、再生土利用が難しい状況です。			近年、幹線・支管更新工事エリアが市内中心部にシフトしてきた事により、渋滞等の発生を抑制するため、道路管理者及び警察の指示により夜間工事が増加しています。そのため、再生プラントへの再生土搬入が出来ず、再生土を利用する工事の発注件数が減少して、再生土利用が難しい状況です。					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	4点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	4点	B	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	8点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持 経営審議会総評		経営審議会総評		経営審議会総評	
		引き続き、計画に沿って事業を推進すること。				

新・マスタープラン事業評価管理シート

施策	VIII	環境に配慮した事業運営	事業・取組名	VIII-2	水道局環境計画の策定と推進	所管課	経営管理課
----	------	-------------	--------	--------	---------------	-----	-------

①事業概要

【事業の目的】	水道局として環境負荷の少ない水作りを推進するため、「水道局環境計画」を策定するとともに、環境負荷低減に向けた取り組みを推進していきます。		
【取組内容と計画】 「事業・取組み」の 内容と計画(予定)	27年度	28年度	29年度
	・水道局環境計画の策定、運用 計画の策定 ・環境会計の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え	・水道局環境計画の運用 計画の運用 ・環境会計の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え	・水道局環境計画の運用 計画の運用 ・環境会計の作成・公表 作成および公表 ・省エネルギー対策の推進 浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え

②過程

【予算・決算額】 費用はどれくらい かけたか	年度	27年度			28年度			29年度		
	予算額(a)	0			0			0		
	執行額(b)	0			0					
	執行率(%) (b)/(a)	-			-			#DIV/0!		
【時間・体制(人員)】 時間(人員)は どれくらい かけたか	年度	目標	27年度	対目標	目標	28年度	対目標	目標	29年度	対目標
	総作業量(c)	118.4	118.4		29.6	29.6		74		
	時間(h)									
	人員(d)	2人	2人	100%	4人	4人	100%	2人		
	作業従事職員数									
単位あたりの作業量(c/d)	59.2	59.2		7.4	7.4		37			
h/人	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	(ア)	(イ)	(イ/ア)	

③所管課分析評価

■結果・効果

【実施結果・効果】 事業・取組の結果は	26年度実績	27年度			28年度			29年度					
	環境会計について、平成27年度は、26年度決算版を作成し、ホームページ等で公表した。	・省エネルギー対策の推進として、新潟市水道局環境計画の策定を行うとともに、満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業に着手しました。 ・環境会計を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。			・省エネルギー対策の推進として、新潟市水道局環境計画に基づき、戸頭浄水場へのLED照明の導入を行い、満願寺浄水場の天日乾燥床整備事業についても完了しました。 ・環境会計を作成し、ホームページ等に公表するなど、環境施策の情報提供を行いました。								
			予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~		予定を上回る 101%以上	予定どおり 90%~ 100%以下	予定を下回る 90%未満~
		・水道局環境計画の策定、運用		1点		・水道局環境計画の運用		1点					
		・環境会計の作成・公表		1点		・環境会計の作成・公表		1点					
	・省エネルギー対策の推進		1点		・省エネルギー対策の推進		1点						
	平均(A)	1点			平均(A)			平均(A)					

新・マスタープラン事業評価管理シート

目標設定項目 (評価指標)	目標			27年度			28年度			29年度		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
水道局環境計画の 策定・運用	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
環境会計の 作成・公表	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	0点	実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	
	目標(B)	目標(B)	目標(B)	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	実施	実施	実施	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点	実績(D)	達成度(D/B)	外的要因 加点
	目標累計(C)	目標累計(C)	目標累計(C)	実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)		実績累計(E)	進捗度(E/C)	

■評価結果

所管評価	27年度			28年度			29年度		
【効率性評価】 事業・取組の実施効率を評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は、予定通りとみなして評価しました。 ・事業取組としては、環境計画の策定や環境会計の作成・公表、省エネルギー対策を予定通り実施しました。 			<ul style="list-style-type: none"> ・事業の性質上、予算計上及び執行はありませんでしたので、予算の執行率は、予定通りとみなして評価しました。 ・事業取組としては、環境計画の運用や環境会計の作成・公表、省エネルギー対策を予定通り実施しました。 					
評価結果	予算効率	3点	総合評価	予算効率	3点	総合評価	予算効率	点	総合評価
評価の観点・結果	作業効率	3点	C	作業効率	3点	C	作業効率	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点
【有効性評価】 事業・取組が目標等を達成するために有効であったか評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を軽減するために、水道局環境計画を策定しました。今後、この計画に基づいて、環境配慮に関する取り組みを実施していきます。 ・環境会計の策定、公表を行い、環境施策と効果について、市民に情報提供を行いました。 また、進捗度は、事業の性質上評価ができませんでした。 			<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に水道局環境計画を策定し、平成28年度より運用を開始しています。 ・環境会計の策定、公表を行い、環境施策と効果について、市民に情報提供を行いました。 また、進捗度は、事業の性質上評価ができませんでした。 					
評価結果	達成度	3点	総合評価	達成度	3点	総合評価	達成度	点	総合評価
評価の観点・結果	進捗度	3点	C	進捗度	3点	C	進捗度	点	
	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	0点	6点/10点	外的要因加点	点	点/10点

④2次評価結果

【方向性】	維持		経営審議会総評
	経営審議会総評	経営審議会総評	
	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。		

新・マスタープラン 1次評価に関する事前意見、質問及び2次評価（案）

事業・取り組み	所管課	経営審議会総評（事前意見等）	局回答・考え方等	その他意見、質問等（評価以外）	局回答	方向性(案)	経営審議会総評（局案）
I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理 P7～8	水質管理課 (浄水課)	大貫委員： 予算の執行率52%で予定どりの管理ができていのであれば、効率性評価がもっと高くていいのではないか	予算効率の評価は3段階で構成され、最高ランクは「執行率90%未満」となっているため、事業の実施状況により最高でも5点となります。 この事業・取り組みについては、事業の実施状況が1点のため、これに当てはめると評価は4点となります。	大貫委員： 粉末活性炭の使用量減少及び契約単価の大幅な減の理由は何ですか？	・農薬やトリハロメタンを可能な限り取り除くために、粉末活性炭を用いた浄水処理を行っています。粉末活性炭注入率は、河川水や浄水中にごく微量含まれる農薬やトリハロメタンの濃度による指針値をもとに制御しています。平成28年度は、この指針値を見直したことにより、より適切な粉末活性炭注入を行うことができ、結果として粉末活性炭の使用量を抑えることができました。 ・契約単価については、競争入札の結果、大幅減となりました。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。 (付け加え無し)
I-5 分かりやすい水質情報の提供 P9～10	水質管理課	長谷川委員： 有効性評価において27年度同様“A”を得ている。今後、どれだけ市民の皆様の理解を得ることができたか、成果を期待したい。		小田委員： 実施回数により評価していることは理解できますが、実施施策のユーザーへの浸透度や理解度を評価する工夫は何かありませんか。	・現在、体験型広報の回数を増やすことで、多くのお客さまに直接、水道水の安全性やおいしさを、PRできるよう努めています。本施策については、アンケート結果から好評を多くいただいているため、その浸透度と理解度についても、期待以上であったと評価しています。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。今後、どれだけ市民の皆様の理解を得ることができたか、成果を期待したい。また、浸透度や理解度についての評価手法等を検討すること。
II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化 P11～12	管路課	大貫委員： 効率性・有効性ともに前年度と評価コメントが同じである。このシートからは全然進んでいないことがわかる、総合評価をどう考えたら良いのか 長谷川委員： 水道局自体の努力だけでは難しいことは理解できるが、学校施設の直結給水化は、新潟の水を市民に届け、当たり前に使ってもらうためにも努力してほしい。	自己評価のコメントについては、外部評価がこれを踏まえたものとなることを認識し、今後、各年度の実施状況を的確に記載することとし、28年度のコメントについても修正しホームページへ公表します。 施設改修等の事業主体が教育委員会であることから、水道局の対応には限界がありますが、積極的に担当部署との協議、調整を実施し、継続的に取り組むこととします。			維持	水道局自体の努力だけでは難しいことは理解できるが、学校施設の直結給水化は、新潟の水を市民に届け、当たり前に使ってもらうためにも、引き続き、計画に沿った事業推進のため努力してもらいたい。
II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上 P15～16	管路課	大貫委員： 表彰制度は業者の方々にとって励みになる良いことだと思う 石本委員： 講習会未受講業者へのペナルティーは？講習会未受講業者は、意識が低い業者と思われる。複数年未受講の業者は、業者名公表など、なんらかのペナルティーを課し、意識の向上を図ってはどうか。	現在、継続審議となっていますが水道法の改正案が国会に提出されており、改正案の中では、5年ごとの指定更新が義務付けられています。 この更新制度導入に合わせて、未受講業者に対する効果的な対策について検討していきます。			維持	表彰制度は業者の方々にとって励みになる良い制度であることから、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
III-2 管路施設の計画的更新 P19～20	計画整備課	大貫委員： 予算はほぼ予定通り、配水支管更新は計画通りに進まなかった。予算が優先か、更新が優先か？	配水支管の事業費の一部を基幹管路へ充当したことは、限られた財源の中で、事業の優先度を考慮したことによるものです。	小田委員： 配水支管更新に予算での制約などから進捗遅延が顕在化しはじめ、効率化評価ダウンとなっていますが、耐震化の同時進行している重要案件だと思われます。具体的な挽回策、計画見直しにより遅延していく場合の潜在リスクのコントロールなどについて、どのように考えているのでしょうか。	漏水時に影響が大きい基幹管路とφ100mm以上の配水支管および漏水が多い懸念路線の更新に優先して投資を行っています。この方針で水道システム全体としての耐震化を効果的に進めることにより、リスク低減を図ります。	改善見直し	管路の計画的更新は、耐震化や有収率向上対策につながる事業でもある。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水支管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。
IV-2 管路施設の計画的耐震化 P25～26	計画整備課	大貫委員： 効率性評価の内容はほぼ予定通り、耐震適合率は計画通り向上とあるが、総合評価はDとなっている。効率性評価の内容はもっと厳しい内容にすべきではないか	効率性評価の【実施結果・効果】についての、結果については記載が不足していました。今後、自己評価のコメントについては、各年度の実施状況、評価結果を踏まえ内容を記載することとします。また、28年度のコメントについても修正しホームページへ公表します。			改善見直し	大規模地震発生に備え、耐震化の推進に努めること。工事単価の上昇および市街地工事による事業費の増加により、管路事業全体の予算配分を見直し、配水支管更新の事業費の一部を、基幹管路更新へ充当したことは、限られた財源の中でやむを得ないと思われる。厳しい財政事情の中ではあるが、より効率性を追求し早期更新が可能となるよう努めること。
IV-3 重要施設向け配水管の耐震化 P27～28	計画整備課	大貫委員： 重要施設向け配水管の耐震化は、震災時のことを考えると重要なことであり、このまま計画通り進めるべき				維持	重要施設向け配水管の耐震化は、震災時のことを考えると重要な事業である。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン 1次評価に関する事前意見、質問及び2次評価（案）

事業・取り組み	所管課	経営審議会総評（事前意見等）	局回答・考え方等	その他意見、質問等（評価以外）	局回答	方向性(案)	経営審議会総評（局案）
IV-4 配水管網のブロック化の推進 P 29～30	管路課			小田委員： 評価指標について小ブロック構築率としていますが、構築数ベースで見た場合、大幅な未達成であり、29年度でキャッチアップするには18小ブロックの構築が必要です。この結果を踏まえ、計画の見直しを行いながらとありますが、達成のための具体策はどのように考えているのでしょうか。	工事単価高騰などの影響により、管路整備が遅れたことから、これまでの状況を踏まえ、コスト縮減による構築を踏まえたなかで、ブロック化を推進していきたいと考えています。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化 P 33～34	経営管理課	大貫委員： 事業者や民間企業との災害時応援協定を積極的に締結している。市民にとって災害に備えた水道局の姿勢が見え安心材料になるのではないかと。また、応援給水訓練を平成28年度も実施している、今後も定期的にも実施すべき。	-			維持	他事業者や民間企業との災害時応援協定を積極的に締結している。また、今年度も応急給水訓練を定期的にも実施している。市民にとって災害に備えた水道局の姿勢が見え安心材料となる。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-2 定員・給与の適正化 P 37～38	総務課	大貫委員： 委託に伴い職員数が減少しており、定数346人を大きく下回っている。今後も委託に伴い減少が見込まれるが、危機管理の面から必要人数に留意すべき	現行の職員定数は、あくまで平時の業務執行体制を前提としたものでありますが、有事の際には、300名を超える人的資源を背景に、必要な支援体制を構築し、運用できる環境づくりを整えています。 委員のご指摘も踏まえ、危機管理にも留意しつつ、総合的な人員管理を実施していきたいと考えています。	石本委員： 職員定数は、いつ、どのような経緯で策定されたのでしょうか？ 定数は、そもそも適正数なのでしょうか？ 職員定数の見直しは行っているのでしょうか？	現行の職員定数は、平成17年の広域合併により肥大化した組織及び業務について、平成23年度を目途として見直しを進めた結果、業務執行に必要な適正数として策定したものです。 なお、民間委託化の実施に合わせて職員数を削減する際には、その都度、定数の見直しを図ります。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。今後も委託に伴い職員数の減少が見込まれるが、危機管理の面から適正な定数にも留意すること。
V-4 遊休資産の有効活用 P 41～42	経営管理課	大貫委員： 市奨励であるが、太陽光発電用地としての活用は採算性から難しいのではないかと。他都市の事例等を調査し、その他の方法を検討し活用してはどうか	売却による収益確保も検討していますが、課題として既存施設の撤去費が土地評価額を上回ることから、実施には至っていません。 現在は、新潟市が平成24年3月にスマートエネルギー推進計画を策定し、新たなエネルギー創出とエネルギーの効率的な利用の推進による安心・安全なまちづくりを進めており、平成27年8月に市民エネルギー団体と公共施設における太陽光発電事業の実施と持続可能な低炭素まちづくりに資する地域貢献活動に関する協定を締結しました。この協定において市環境政策課より、再生可能エネルギーの普及推進に水道局として協力いただければとのことで、市が協定を締結している団体を活用し、遊休地を太陽光発電用地として利用していただく計画をすすめており、この太陽光発電での土地貸しは、以前中止に至った太陽光発電事業のような土地貸し付けによる収入は考えておりません。 また、その他の有効活用方法については、多くの遊休地が市街化調整区域にあることから、他都市における同様の事例等を調査し、検討していきたいと考えています。	小田委員： 太陽光発電用地として検討を進めているというのは、市独自で太陽光発電事業に参入するということでしょうか。太陽光発電事業に関連しての施策は事業中止との判断ではないのでしょうか。 なぜ、入札実施にまでいたらなかったのでしょうか。	新潟市は平成24年3月にスマートエネルギー推進計画を策定し、新たなエネルギー創出とエネルギーの効率的な利用の推進による安心・安全なまちづくりを進めており、平成27年8月に市民エネルギー団体と公共施設における太陽光発電事業の実施と持続可能な低炭素まちづくりに資する地域貢献活動に関する協定を締結しました。この協定において市環境政策課より、再生可能エネルギーの普及推進に水道局として協力いただければとのことで、市が協定を締結している団体を活用し、遊休地を太陽光発電用地として利用していただく計画をすすめています。この事業では、「市は発電事業場所として市の土地・施設屋根を貸付け又は使用許可により、当該団体に提供し」もので、売電収入はありません。 また、遊休地の入札については、既存施設の撤去費が土地評価額を上回ることから入札実施には至りませんでした。	改善 見直し	遊休資産の有効活用は、経営基盤の強化を図るために有効な事業である。今まで以上に売却も含めた施設の有効活用実施に向けた検討を進め、新たな収入源確保に努めること。
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施 P 43～44	経営管理課			小田委員： 新潟市の料金制度について現状と課題の整理を行ったということですが、どのような課題が顕在化してきたのでしょうか。 時代に即した料金制度等の検討のための基礎資料とはどのようなものなのでしょうか。 石本委員： 事業・取り組みの結果の内容が、3年間ほとんど同じです。3年かけて調査を行っているのでしょうか？ それとも、毎年調査内容を更新しているのでしょうか？ 調査・研究の結果は活かされているのでしょうか？	・毎年、政令市や新潟県内の事業者の料金改定状況を調査し、料金、供給単価等の比較を行っています。28年度は水道料金制度の現状分析及び、適正な料金水準・料金体系の見直しの検討に向けた課題整理を行いました。また、その他に家計調査の統計や、料金制度に関する資料収集などを行い、時代に即した料金制度等検討のための基礎資料となります。 ・現状の課題は、「基本料金・従量料金の課題」として、費用の大半が固定費であり、必要な費用は基本料金で回収したいところですが、基本料金値上げは少量使用者への負担が重くなります。逆に従量料金に依存した場合、有収水量が減少することにより値上げ検討をしなくてはいけなく、節水したにも拘らず料金の値上げに理解を得づらい状況にあります。以上のことから水量区分や現行の使用実態、過去の経緯を踏まえ、基本料金と従量料金の適正な割合を検討する必要があります。次に、「逓増型料金制度の課題」として、大口使用者への過度な負担を求めることは、使用者間の負担の公平性の観点から見直しが必要であると考えます。また、多量使用者抑制を目的として、逓増型料金制度を採用しているケースがありますが、高単価で多量に使用する大口使用者は減少傾向にあり、低単価で使用する小口使用者が増加傾向にあるため、安定した料金収入を確保するためにも逓増度の緩和または、水需要の構造変化に対応できる料金制度を検討する必要があります。また、「負担の公平化の課題」として、水需要は減少減少傾向にあり、それに伴う給水収益の減少が見込まれる中、企業債の安易な借り入れは、世代間の公平性を欠くこととなるため、企業債残高の抑制を図るための最適な企業債の管理方法を検討する必要があります。	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン 1次評価に関する事前意見、質問及び2次評価（案）

事業・取り組み	所管課	経営審議会総評（事前意見等）	局回答・考え方等	その他意見、質問等（評価以外）	局回答	方向性(案)	経営審議会総評（局案）
VI-1 戦略的な広報の実施 P 47～48	総務課	<p>大貫委員：認知度向上、水道の魅力をアピールとあるが、その判断材料は何か、市民からの意見、モニターの意見等判断の根拠を評価の中に入れるべき</p> <p>長谷川委員：簡単なテレビCMは考えられないか？</p>	<p>市内の各種イベントに水道水と市販のミネラルウォーターの飲み比べ（ウォーターバー）ブースを出展しています。28年度はこの飲み比べの体験者数が8,000人を超えたことやお客さまアンケートでの広報紙の認知度が前回調査（26年度）よりも向上していたことから水道の魅力をアピールできたと評価しています。ご指摘のとおり、これらの判断の根拠を有効性評価欄に記述することとします。また、28年度のコメントについても修正しホームページへ公表します。</p> <p>テレビCMについてですが、29年度は従来からの紙媒体に加え、インターネットを活用した動画による広報を実施しています。これらの効果を見極めながら、テレビCMについても選択肢の1つとして、引き続き費用対効果などを検討していきたいと考えます。</p>			維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。また、有効性評価欄へ市民からの意見、モニターの意見等判断の根拠を記載すること。
VI-2 お客さまの意見・要望の把握 P 49～50	総務課	<p>長谷川委員：水道モニターの中で、下水道事業の説明を取りやめたとのこと、上水道事業と下水道事業についての区分の説明は必要と思うが。</p>	<p>上水道事業と下水道事業が各々別の事業であることについては、従来通り水道の事業説明をする中で説明しています。</p>			維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供 P 53～54	経営管理課	<p>大貫委員：市民の関心も高いと思われる。引き続き適切な管理と情報提供を</p>	-			維持	放射性物質を含む浄水汚泥の情報は、市民の関心も高いと思われる。引き続き、適正な管理と情報提供を実施すること。
VII-1 人材育成と専門性の強化 P 55～56	総務課	<p>大貫委員：水道技術の継承が問題化する中、技術職の独自採用や民間企業経験者の採用と人材確保への努力は素晴らしい</p>				維持	水道技術の継承が問題化する中、技術職の独自採用や民間企業経験者の採用と人材確保への努力は有効である。引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・マスタープラン 1次評価に関する事前意見、質問及び2次評価（案）

事業・取り組み	所管課	経営審議会総評（事前意見等）	局回答・考え方等	その他意見、質問等（評価以外）	局回答	方向性(案)	経営審議会総評（局案）
I-1 水源水質の監視	水質管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
I-3 水質管理体制の強化	水質管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
III-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
III-3 鉛給水管の計画的更新	管路課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	営業課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	経営管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課					維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

新・新潟市水道事業中長期経営計画

～新・マスタープラン～

中期実施計画

3か年

(平成30年度～平成32年度)

2017/09/15現在 素案

平成30年3月

新潟市水道局

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

(1) 策定趣旨

本市では、将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とした、今後10年間の事業運営の指針となる「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」(以下「新・マスタープラン」)を策定しました。

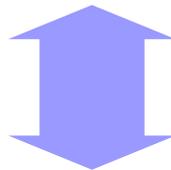
この新・マスタープランで掲げた目指す方向性を実現するために、具体的な事業・取り組みと評価指標、財政収支計画などを定めた「新・マスタープラン実施計画」を策定し、計画的かつ効率的に事業を推進していきます。

(2) 位置づけ

「新・マスタープラン実施計画」は、毎年度行う進捗管理の結果を踏まえ、計画と実績との隔たりとその原因を分析し、目標達成に向けた事業・取り組みを適宜見直すため、計画期間10年を前期・中期・後期の3期に分けて策定します。平成30年度から平成32年度の3年間に於ける「新・マスタープラン中期実施計画」では、目指す方向性である「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの「施策」を設け、32の「事業・取り組み」を行います。



【基本理念】「すべてのお客さまに信頼される水道」



安全でおいしい
水道水の供給

強靱な施設・体制
による給水の確保

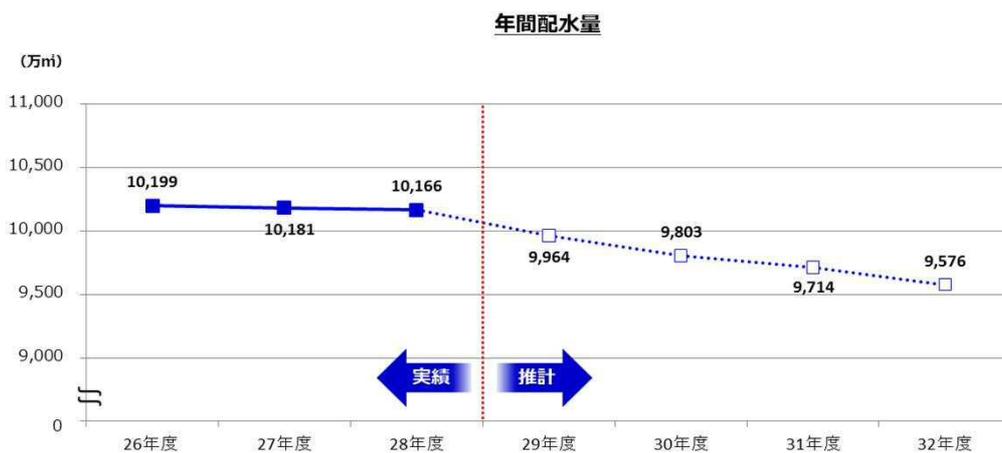
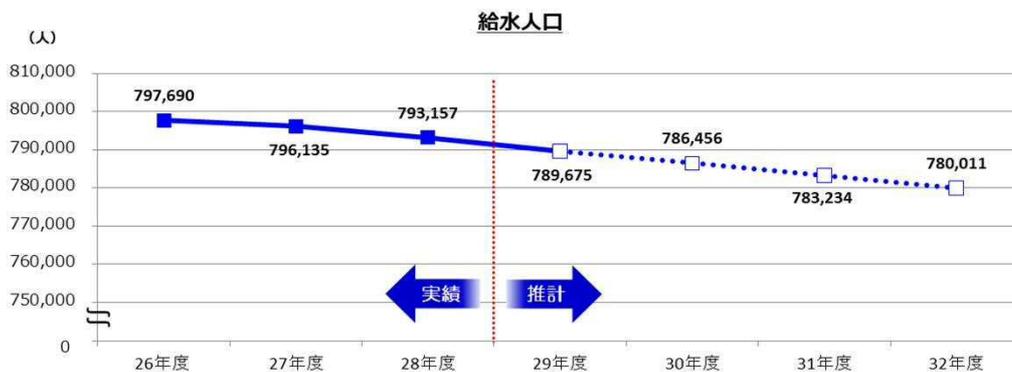
環境の変化に柔軟に対応した
健全な事業運営の持続

新・マスタープラン中期実施計画
8つの施策、32の事業・取り組み

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

(3) 給水量等の見通し

給水人口及び給水量の減少傾向は継続しており、中期においてもほぼ計画値に沿って減少する見通しです。
給水量の減少要因は、給水人口の減少に加えて節水器具の普及や節水意識の浸透などにあると考えられます。



(4) 施策体系の維持・継続

施策体系は維持継続します。それぞれの事業・取り組みについては、前期における実施状況などに応じて内容の充実・強化や見直しを図ります。

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

(5) 前期計画の進捗概況と中期計画の実施概要

安全でおいしい水道水の供給《安全》

【施策Ⅰ】 水質管理の充実・強化

【施策Ⅱ】 給水装置における水質保持

(詳細計画 PO～PO)

【前期進捗概況（平成27年度～29年度）】

各事業・取り組みをほぼ計画どおり着実に進めています。これにより重点目標の達成度は概ね100以上となる見込みです。

前期実施計画 《安全》における達成度



指標項目	前期目標 (平成29年度)	前期見込み (平成29年度)	中期目標 (平成32年度)	後期目標 (平成36年度)
農薬濃度管理目標達成率 (%)	100	100	100	100
総トリハロメタン濃度管理目標達成率 (%)	100	100	100	100
残留塩素管理目標達成率 (%)	91以上	91	91以上	92以上
臭気強度管理目標達成率 (%)	100	100	100	100
学校施設水飲み水栓の直結給水化率 (%)	65.0以上	64.8	70.0以上	75.0以上
貯水槽清掃実施率 (%)	76.8以上	78.4	77.3以上	78.0以上

【中期実施概要（平成30年度～32年度）】

「独自の管理目標による水質管理」では、平成28年度に一時的に目標を下回った残留塩素濃度の管理に関し、抜本的対策に向けて調査・検討を進めます。このほか各事業・取り組みを計画に従って着実に実施し、目標の達成を目指します。

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

強靱な施設・体制による給水の確保《強靱》

【施策Ⅲ】 水道施設の計画的更新

【施策Ⅳ】 震災対策・体制の強化

(詳細計画 PO~PO)

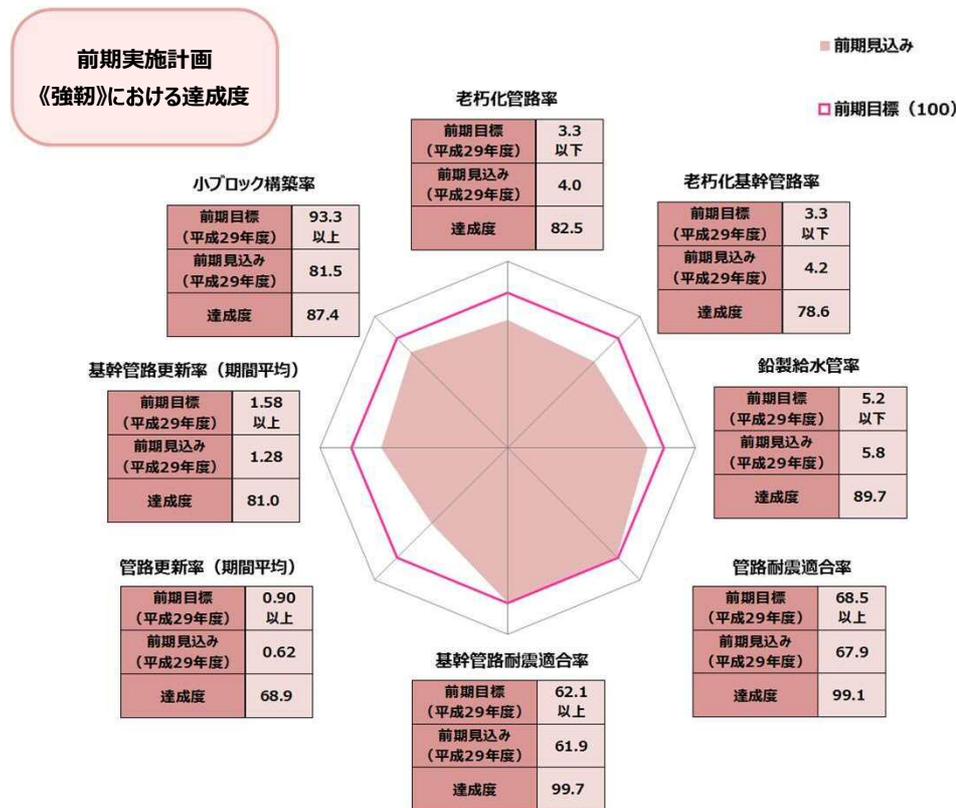
【前期進捗概況（平成27年度～29年度）】

「浄配水施設の計画的更新」では、阿賀野川浄水場及び配水場施設整備事業を計画に従って着実に進めています。

「管路施設の計画的更新」では、基幹管路の更新を重点的に進めています。しかし、更新箇所が多くが市街地であり、交通規制などにより夜間工事が主となることや工事経費率の想定以上の上昇等により、工事費が著しく増高しています。また市街地工事における調整事項は多岐にわたり、これに一定期間を要するとともに、工事自体も推進工法を必要とされる場合があるなど困難化し、各工事期間が長期化しています。

施設の耐震化は施設更新に併せて行っていますが、その他の震災対策として、水道事業体や複数の民間企業と災害時応援協定を締結し、対策の強化を図るなどしました。

これらにより施設の整備に係る重点目標の達成度は、浄配水施設についてはほぼ100となるものの、管路の整備に係る達成度については、管路更新率が目標を大きく下回り、これに関連した老朽化管路率及び耐震適合率等とともに100を下回る見通しです。



指標項目	前期目標 (平成29年度)	前期見込み (平成29年度)	中期目標 (平成32年度)	後期目標 (平成36年度)
老朽化管路率 (%) ※	3.3以下	4.0	2.2以下	0.9以下
老朽化基幹管路率 (%) ※	3.3以下	4.2	1.9以下	0.0
鉛製給水管率 (%)	5.2以下	5.8	3.6以下	2.0以下
管路耐震適合率 (%) ※	68.5以上	67.9	70.8以上	73.7以上
基幹管路耐震適合率 (%) ※	62.1以上	61.9	65.9以上	72.7以上
管路更新率 (期間平均) (%) ※	0.90以上	0.62	0.89以上	0.87以上
基幹管路更新率 (期間平均) (%) ※	1.58以上	1.28	1.69以上	1.86以上
小ブロック構築率 (%)	93.3以上	81.5	95.6以上	100.0

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

前期実施計画 《強靱》における達成度 浄配水施設

老朽化浄水施設率

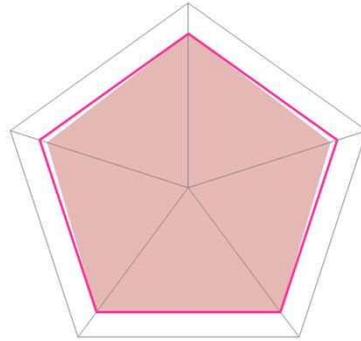
前期目標 (平成29年度)	0.0
前期見込み (平成29年度)	0.0
達成度	100.0

■ 前期見込み

□ 前期目標 (100)

配水池耐震施設率

前期目標 (平成29年度)	75.6 以上
前期見込み (平成29年度)	72.0
達成度	95.2



老朽化設備率

前期目標 (平成29年度)	20.0 以下
前期見込み (平成29年度)	20.9
達成度	95.7

ポンプ所耐震施設率

前期目標 (平成29年度)	95.9 以上
前期見込み (平成29年度)	95.9
達成度	100.0

浄水施設耐震率

前期目標 (平成29年度)	19.9 以上
前期見込み (平成29年度)	19.9
達成度	100.0

指標項目	前期目標 (平成29年度)	前期見込み (平成29年度)	中期目標 (平成32年度)	後期目標 (平成36年度)
老朽化浄水施設率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0
老朽化設備率 (%)	20.0以下	20.9	15.0以下	10.0以下
浄水施設耐震率 (%)	19.9以上	19.9	47.8以上	100.0
ポンプ所耐震施設率 (%)	95.9以上	95.9	95.9以上	100.0
配水池耐震施設率 (%)	75.6以上	72.0	78.5以上	100.0

※ 更新済、整備済の管路延長は、発注を基準とし竣工予定延長を含め算出するため、「水道事業ガイドライン」(公社)日本水道協会)及び「経営比較分析表」(総務省)において公表している値とは異なります。

【中期実施概要(平成30年度～32年度)】

浄配水施設については、計画に従って阿賀野川浄水場及び配水場の施設整備事業を実施し、阿賀野川浄水場は平成31年度に、配水場は平成32年度に計画どおり完了する見込みです。

戸頭浄水場及び巻取水場・浄水場の施設整備事業は効率性の観点から工程を見直し、開始年度を、戸頭浄水場については、次期中長期経営計画(平成37年度～)の期間中、巻浄水場については、後期初年度の平成33年度に変更しました。

管路施設については、前期期間での課題を踏まえて整備内容の見直しを図りながら、引き続き基幹管路の更新を重点的に進めます。

震災対策では、「大ブロック間の相互連絡管の整備」において、南山配水場施設整備の検討を踏まえ新たに青山浄水場高区系幹線整備に着手し、「重要施設向け配水管の耐震化」において管路の耐震適合性、老朽度の再評価及び施設の移築計画等を踏まえて対象施設を見直しました。

他の事業・取り組みの一部についても、内容の充実・強化や現況に合わせた見直しを行い、目標の達成を目指します。

I 実施計画の策定趣旨と位置づけ

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続《持続》

【施策Ⅴ】 経営基盤の強化

【施策Ⅶ】 技術・知識を有する人材の確保と育成

【施策Ⅵ】 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

【施策Ⅷ】 環境に配慮した事業運営

(詳細計画 PO～PO)

【前期進捗概況（平成27年度～29年度）】

「業務効率化に向けた民間委託の検討・実施」では平成29年度から料金収納業務を委託化し、これに伴う「定員の適正化」を図りました。また、一部の基幹業務を除くほぼ全ての業務を対象に、委託可能性について点検を進めています。

「遊休資産の有効活用」では、太陽光発電事業者への土地の有償貸付について、国の電力買取制度の見直しによる予定事業者の辞退により既存計画が頓挫しましたが、改めて本市が締結するパートナーシップ協定に基づき、小規模太陽光発電事業者への土地貸付を開始します。

このほかの各事業・取り組みはほぼ計画どおり着実に進めています。

重点目標の達成度について、有収率、施設利用率及び施設最大稼働率は平成29年度の配水量実績が気候条件等により影響を受けるため、現時点で有効な見通しが示せませんが、このほかの目標についてはほぼ100以上となる見込みです。

前期実施計画 《持続》における達成度



指標項目	前期目標 (平成29年度)	前期見込み (平成29年度)	中期目標 (平成32年度)	後期目標 (平成36年度)
有収率 (%)	94.6以上	94.6	94.8以上	95.0以上
施設利用率 (%)	64.8以上	62.0	63.4以上	73.5以上
施設最大稼働率 (%)	76.6以上	69.8	75.2以上	87.0以上
エネルギー原単位 (kl/m)	0.8421以下	0.8421	0.8294以下	0.8251以下
再生可能エネルギー利用率 (%)	0.35以上	0.38	0.91以上	1.36以上
浄水発生土の有効利用率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
内部研修実施時間 (時間/人)	15.8以上	15.8	17.8以上	21.0以上

【中期実施概要（平成30年度～32年度）】

「アセットマネジメントによる適正な資産管理」では、実績を踏まえた今後の施設更新需要を継続的に把握しながら、現行マスタープラン後の長期的な施設整備計画における更新見直しを検討し、これを踏まえて後期実施計画を策定します。

このほか、「諸外国との水道技術研究交流」では、新たに大学との連携により外国人留学生のインターンシップの受け入れを開始するなど、一部の事業・取り組みについて内容の充実・強化や現況に合わせた見直しを行い、目標の達成を目指します。

Ⅱ 事業計画

(1) 施策体系～事業・取り組み

方向性	施策	事業・取り組み
安全	I 水質管理の充実・強化	<ol style="list-style-type: none"> 1 水源水質の監視 2 水安全計画の充実・適切な運用 3 水質管理体制の強化 4 新潟市独自の管理目標による水質管理 5 分かりやすい水質情報の提供
	II 給水装置における水質保持	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化 2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施 3 指定給水装置工事事業者の技術力向上
強靱	III 水道施設の計画的更新	<ol style="list-style-type: none"> 1 浄配水施設の計画的更新 2 管路施設の計画的更新 3 鉛給水管の計画的更新
	IV 災害対策・体制の強化	<ol style="list-style-type: none"> 1 浄配水施設の計画的耐震化 2 管路施設の計画的耐震化 3 重要施設向け配水管の耐震化 4 配水管網のブロック化の推進 5 大ブロック間の相互連絡管の整備 6 事故・災害時における復旧体制の強化
持続	V 経営基盤の強化	<ol style="list-style-type: none"> 1 アセットマネジメントによる適正な資産管理 2 定員・給与の適正化 3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施 4 遊休資産の有効活用 5 時代に即した料金制度等の検討・実施 6 水道事業経営審議会の効果的運用
	VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	<ol style="list-style-type: none"> 1 戦略的な広報の実施 2 お客さまの意見・要望の把握 3 分かりやすい経営情報の開示 4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供
	VII 技術・知識を有する人材の確保と育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 人材育成と専門性の強化 2 諸外国との水道技術研究交流
	VIII 環境に配慮した事業運営	<ol style="list-style-type: none"> 1 建設副産物の再利用促進 2 水道局環境計画の策定と推進

Ⅱ 事業計画

(2)中期実施計画（事業・取組内容と目標設定）

安全でおいしい水道水の供給《安全》

すべてのお客さまが、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を飲める水道を目指します。

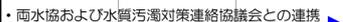
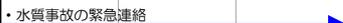
【施策Ⅰ】

水質管理の充実・強化

※前期実施計画矢印の意味

実施等  新規, 継続実施 

中止 

事業・取組名		I-1 水源水質の監視					
目指す方向性	安全	◎	強靱	○	持続		
事業の目的	同一の水源を利用する水道事業者や関係機関と連携し、情報共有体制の構築や河川の水質調査を行うことにより、浄水処理への影響を未然に防ぎます。						
取組内容	○水源の監視・調査 <ul style="list-style-type: none"> 信濃川・阿賀野川両水系水質協議会（両水協）および水質汚濁対策連絡協議会と連携し水源監視を実施します。 灯油流出など水質事故時の緊急連絡について、関係機関と情報共有を確実に実施します（365日24時間）。 水道原水の共同調査を実施します（信濃川及び阿賀野川から取水する県内事業者の取水地点のうちで代表的な地点の河川水質を調査）。 浄水施設での対応が困難な物質を監視します。特に、水道水質基準以外であっても人体に影響を及ぼすおそれがある項目を調査します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水源の監視および調査	・両水協および水質汚濁対策連絡協議会との連携  ・水質事故の緊急連絡  ・水道原水の共同調査 			・両水協および水質汚濁対策連絡協議会との連携  ・水質事故の緊急連絡  ・水道原水の共同調査 		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
河川水質事故による水道水への影響 （水道水への影響回数/河川水質事故の緊急連絡回数）		0%	0%	0%	0%	0%	0%
水道原水の水質調査 （共同調査の回数）		2回	2回	2回	定期的な調査	定期的な調査	定期的な調査
浄水施設での対応が困難な物質の監視 （対象項目の検査回数）		4回	4回	4回	適宜調査	適宜調査	適宜調査

事業・取組名		I-2 水安全計画の充実・適切な運用					
目指す方向性	安全	◎	強靱	○	持続		
事業の目的	安全で良質な水道水を継続的に供給するために、水源からじゃ口までのすべての過程における一元的な水質管理を行う「水安全計画」を評価し、必要に応じて見直すことで計画の充実を図っていきます。						
取組内容	○水安全計画の運用・評価 <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルによる水安全計画の評価を毎年実施し、必要に応じて適宜見直しを行います。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水安全計画の評価・見直し	・評価および見直し 			・評価および見直し 		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
浄水場「水安全計画」の評価実施率 （評価実施浄水場数/全浄水場数）		100%	100%	100%	100%	100%	100%

Ⅱ 事業計画

事業・取組名		I-3 水質管理体制の強化					
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続	○	
事業の目的	・水道GLP（水道水質検査優良試験所規範）を維持し、水質検査結果の精度と信頼性を確保します。						
取組内容	<p>○水道GLPの維持・更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査機器更新と更新計画の見直しを行います。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 水質管理における人材育成と技術の継承を行います。 水質検査計画を策定し、検査計画及び検査結果を公表します。 試験方法等の調査研究を実施します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水道GLPの維持・更新	・水道GLPの維持			・水道GLPの維持		
		・水道GLPの更新、サーベイランス (サーベイランス)			・水道GLPの更新、サーベイランス (サーベイランス)		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
検査機器の保守点検実施率 (点検実施数/必要機器数)		100%	100%	100%	100%	100%	100%
教育訓練実施率 (訓練実施回数/必要訓練回数)		100%	100%	100%	100%	100%	100%
水質検査結果の公表回数		12回	12回	12回	定期的（月1回）な 公表	定期的（月1回）な 公表	定期的（月1回）な 公表

事業・取組名		I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理					
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続		
事業の目的	国が定める水質基準値等より厳しい、本市独自の「安全性とおいしさの基準」である管理目標値を設定し、より安全でおいしい水道水の供給に取り組んでいきます。						
取組内容	<p>○独自管理目標による水質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> 農薬類と総トリハロメタン、残留塩素と臭気強度に関しては、独自の管理目標値により管理を行います。 必要に応じて独自管理目標値の見直しを行います。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・独自管理目標による水質 管理・見直し	・独自管理目標による水質管理、適宜見直し			・適宜見直し		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
農薬濃度管理目標達成率 (比の総和0.1以下の件数/年間検査件数)		100%	100%	100%	100%	100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率 (0.05mg/L以下の件数/年間検査件数)		100%	100%	100%	100%	100%	100%
残留塩素目標達成率 (0.5mg/L以下の件数/年間検査件数)		93%	90%	91%	91%	91%	91%
臭気強度目標達成率 (2以下の件数/基準全項目検査数)		96%	100%	100%	100%	100%	100%

Ⅱ 事業計画

事業・取組名		I-5 分かりやすい水質情報の提供					
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続		
事業の目的	安全でおいしい水や災害時での水の安定供給など、多様化するお客さまのニーズに対し、水道水をおいしく飲める啓発活動やニーズにあった情報提供などを行い、水道水に対する信頼性を高めます。						
取組内容	<p>○啓発活動の継続・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さわやかトーク宅配便やパンフレット配布などの啓発活動を継続して実施します。 ・小学生向けプレゼンテーションのスキルアップを図ります。 <p>○分かりやすい情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の情報やデータを盛り込んだパンフレット等を作成します。 ・水質管理に関する情報提供のツールとしてインターネットを活用します。 ・小学生向け説明補助資料を充実させます。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・啓発活動の継続	・さわやかトーク宅配便、パンフレットの配布、プレゼンテーションスキルアップ			・さわやかトーク宅配便、パンフレットの配布、プレゼンテーションスキルアップ		
・分かりやすい情報提供	・パンフレットおよび説明補助資料作成			・パンフレットおよび説明補助資料作成			
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
さわやかトーク宅配便等年間実施数		18回	14回	12回	12回	12回	12回

新潟市独自の管理目標値

区分	項目	国が定めた 水質基準値	本市が独自に 設定する管理目標値
安全性	農薬	1以下	0.1以下
	総トリハロメタン	0.1mg/L以下	0.05mg/L以下
おいしさ	残留塩素	1mg/L以下	0.5mg/L以下
	臭気濃度	3以下	2以下

II 事業計画

【施策II】 給水装置における水質保持

事業・取組名	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化						
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続		
事業の目的	じゃ口から水を飲むという水道の文化を引き継ぎ、次世代を担う子供たちが水道水のおいしさをより実感できるよう、小中学校の水飲み水栓の直結給水化に取り組みます。						
取組内容	○教育委員会と連携 <ul style="list-style-type: none"> 新潟市学校施設整備指針に基づき、小中学校における大規模改修計画に併せ、教育委員会と連携し、水飲み水栓の直結給水化を促進していきます。 市立学校施設179校のうち、直結給水化した学校は、114校（平成28年度末現在） 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・教育委員会との協議	大規模改修計画に基づき協議			大規模改修計画に基づき協議		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率 （対象：市立の学校施設）		63.7%	63.7%	64.8%	前年度以上	前年度以上	70%以上

事業・取組名	II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施						
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続		
事業の目的	貯水槽水道利用者へ安全でおいしい水道水が供給されるよう、訪問指導等の強化により、貯水槽の清掃率向上に向けた積極的な啓発活動を行います。						
取組内容	○民間清掃業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> 民間清掃業者との連携による啓発活動を行います。 ○衛生管理訪問指導の実施 <ul style="list-style-type: none"> 貯水槽施設衛生管理訪問指導（過去1年以上清掃報告の無い施設を対象に、訪問・電話指導）を実施します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・民間清掃業者との連携による啓発活動	協働体制構築に向けた関係機関との協議			継続実施		
	・衛生管理訪問指導の実施	委託化の検討			委託の実施		
	・貯水槽清掃月間の設定	協議			有効的な訪問指導の拡充と継続		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
貯水槽清掃実施率 （貯水槽清掃実施件数/貯水槽水道総件数）	簡易専用水道	95.1%	96.9%	94.8%	93.3%	93.5%	93.7%
	小規模貯水槽水道	65.4%	72.1%	67.1%	65.9%	66.0%	66.1%
	全体清掃率	77.4%	82.3%	78.4%	77.0%	77.2%	77.3%

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	Ⅱ-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上						
目指す方向性	安全	◎	強靱		持続		
事業の目的	指定給水装置工事事業者の技術力向上により、工事の品質確保やお客さまとのトラブルの未然防止を図ります。						
取組内容	<p>○(公社)日本水道協会新潟県支部が主催する講習会への積極的な参加要請、講習内容の適宜見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催する指定給水装置工事事業者講習会への参加を積極的に働きかけます。 講習会事務局として、適切な施工確保に向けた講習内容の見直しを適宜行います。 <p>○給水装置工事の適切な評価と表彰制度の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定給水装置工事事業者の意欲の向上を図るため、表彰制度を継続します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	<ul style="list-style-type: none"> 講習会への積極的な参加要請 講習内容の適宜見直し 	継続の実施			継続の実施		
<ul style="list-style-type: none"> 給水装置工事の適切な評価と表彰制度の継続 	表彰制度と併せた継続の実施			表彰制度と併せた継続の実施			
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
給水装置に係る事故件数 (クロスコネクション、水質汚染事故等)		0件	0件	0件	0件	0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率 (講習会参加事業者数/指定給水装置工事事業者数)		74.2%	80.1%	78.0%	前年度以上	前年度以上	79.0%

Ⅱ 事業計画

強靱な施設・体制による給水の確保《強靱》

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

【施策Ⅲ】 水道施設の計画的更新

事業・取組名	Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新						
目指す方向性	安全	○	強靱	◎	持続	○	
事業の目的	浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を計画的に更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図ります。また、更新に併せて、環境負荷の低減や維持管理性の向上に配慮した整備を進めます。						
取組内容	<p>浄水場毎に実施する大規模な整備事業を中心に、各施設の老朽化した設備を更新します。</p> <p>○阿賀野川浄水場整備事業 平成27～31年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ポンプ棟築造 ・ 受変電、自家発電設備更新 ・ ポンプ設備更新 ・ 電気設備更新 監視制御設備更新 ・ 粉末活性炭注入設備更新 ・ 太陽光発電設備設置 <p>○配水場整備事業 平成28～32年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 【内野配水場】 配水ポンプ電気設備更新 ・ 監視制御設備更新 【竹尾配水場】 配水ポンプ電気設備更新 ・ 監視制御設備更新 【南浜配水場】 受変電、電気設備更新 ・ 配水ポンプ設備更新 ・ 監視制御設備更新 【内島見配水場】 配水ポンプ設備更新 ・ 監視制御設備更新 <p>○巻取水場・浄水場整備事業 平成33～36年度</p> <p>※より効率的に事業を進めるため全体工程を見直し、事業着手時期を32年→33年へ変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【巻取水場】 受変電設備更新 ・ 自家発電設備更新 ・ 取水ポンプ設備更新 【巻浄水場】 受変電設備更新 ・ 送水ポンプ設備更新 ・ 薬品注入設備更新 粉末活性炭注入設備設置 ・ 自家発電設備設置 ・ 監視制御設備更新 <p>○青山浄水場整備事業（第二期） 平成33～36年度</p> <p>※より効率的に事業を進めるため全体工程を見直し、事業着手時期を32年→33年へ変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受変電設備更新 ・ 配水ポンプ設備更新 ・ 薬品注入、消毒設備更新 ・ 粉末活性炭注入設備更新 <p>○個別整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 各施設の経年劣化した個別の設備状況に合わせ、計画的な更新および施設整備を実施 <p>○戸頭浄水場整備事業</p> <p>※より効率的に事業を進めるため全体工程を見直し、今後の長期施設整備において取り組むものとして、次期中長期経営計画へ先送ります。</p> <p>ただし、整備事業で予定していた配水ポンプ設備更新、水質計器更新は個別整備で実施します。</p>						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・阿賀野川浄水場整備	→			→		
	・配水場整備事業 (内野、竹尾、南浜、内島見)	→			→		
・個別整備	→			→			
計画期間の目標設定(評価指標)	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
整備する設備 (阿賀野川浄水場整備事業)	<ul style="list-style-type: none"> 自家発電設備更新工事の実施 ポンプ設備更新工事の実施 (平成30年度完了) 粉末活性炭注入設備更新 (平成30年度完了) 電気設備更新工事の実施 監視制御設備更新工事の実施 (平成31年度完了予定) 太陽光発電設備設置 (平成31年度完了) ポンプ棟築造工事の実施 (平成29年度完了予定) 			<ul style="list-style-type: none"> 自家発電設備更新 ポンプ設備更新 粉末活性炭注入設備更新 平成30年度完了 電気設備更新 監視制御設備更新 太陽光発電設備設置 平成31年度完了 			
整備する設備 (配水場整備事業)	<ul style="list-style-type: none"> (竹尾配水場) 配水ポンプ電気設備更新 平成30年度完了予定 (内野配水場) 配水ポンプ電気設備更新 平成29年度完了予定 			<ul style="list-style-type: none"> (竹尾配水場) 配水ポンプ電気設備更新 平成30年度完了 (竹尾配水場) 監視制御設備更新 平成32年度完了 (内野配水場) 監視制御設備更新 平成32年度完了 (南浜配水場) 受変電、電気設備更新 配水ポンプ設備更新 監視制御設備更新 平成32年度完了 (内島見配水場) 配水ポンプ設備更新 監視制御設備更新 平成32年度完了 			

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	Ⅲ-2 管路施設の計画的更新						
目指す方向性	安全	○	強靱	◎	持続	○	
事業の目的	漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れ、更新周期を設定し、老朽化した管路施設（基幹管路・配水支管）を中心に計画的に更新します。						
取組内容	<p>○基幹管路の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度～平成36年度 59.7km <p>○配水支管の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度～平成36年度 239.7km 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・基幹管路整備更新事業	基幹管路更新計画に基づき実施			基幹管路更新計画に基づき実施		
	・配水支管更新事業	年度別に更新路線を選定し実施			年度別に更新路線を選定し実施		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
基幹管路更新延長（発注延長により評価）		4,870m	4,190m	2,840m	2,200m	2,200m	2,200m
配水支管更新延長（発注延長により評価）		18,042m	16,941m	14,079m	13,900m	13,600m	13,600m

事業・取組名	Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新						
目指す方向性	安全	○	強靱	◎	持続	○	
事業の目的	鉛給水管を更新し給水管の耐震化および漏水の未然防止を図ります。						
取組内容	<p>○鉛給水管の更新</p> <p>鉛給水管が分岐している配水支管（小口径老朽管：主に口径50mmのビニル管、鋼管）の更新により効果的に鉛給水管の解消を図ります。また、戸別の鉛給水管の更新は鉛管使用密度の高い地域から解消していきます。</p>						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・小口径老朽管更新（ガス工事競合）	平成31年度完了			平成31年度完了		
	・小口径老朽管更新（局単独工事）	平成36年度完了			平成36年度完了		
	・他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事等）	平成36年度以降継続			平成36年度以降、継続		
	・鉛給水管更新（戸別）	平成36年度以降継続			平成36年度以降、継続		
	・連合鉛給水管更新	工期延長により平成29年度完了			29年度完了		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
鉛製給水管率 （道路上での鉛製給水管使用件数/給水件数）		7.0%	6.3%	5.8%	前年度以下	前年度以下	3.6%以下

Ⅱ 事業計画

【施策Ⅳ】

震災対策・体制の強化

事業・取組名	Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	大規模地震が発生した場合でも、影響を最小限にとどめ、水道システムとして機能を損なうことのないよう、浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。						
取組内容	<p>○耐震補強実施予定施設</p> <p>【建築物】 2施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 戸頭浄水場 脱水機棟、沈澱池・ろ過池上屋 ※平成29年度予定の1系配水ポンプ場は、耐震診断の結果により耐震補強は不要となり、脱水機棟は粉末活性炭注入設備更新に併せ改修および耐震補強を実施するため後期に先送りしたことから、平成29年度補強実施施設はありません。 また、沈澱池・ろ過池上屋を対象施設に追加し、後期に補強を実施します。 <p>【土木構造物】 13施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 青山浄水場 配水池、洗浄水槽 2施設 阿賀野川浄水場 配水池、洗浄水槽、沈砂池 3施設 満願寺浄水場 沈砂池 1施設 戸頭浄水場 配水池 1施設 巻浄水場 ろ過池 1施設 取水場（信濃川、巻）沈砂池、配水場（秋葉、長峰、内島見）配水池等 5施設 <p>【構内水管】</p> <ul style="list-style-type: none"> 取水場、浄水場、配水場 						
計画期間の 年次計画	」	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		<p>・耐震補強実施施設【建築物】</p> <p>戸頭1系ポンプ場、戸頭浄水場脱水機棟後期へ先送り</p>					
<p>・耐震補強実施施設【土木構造物】</p> <p>青山浄水場洗浄水槽</p> <p>阿賀野川浄水場洗浄水</p> <p>阿賀野川浄水場配水池</p> <p>阿賀野川浄水場沈砂池</p> <p>平成31年度完了</p>			阿賀野川浄水場配水池 <p>平成31年度完了</p>	長峰配水場配水池 <p>平成31年度完了</p>	平成33年度完了		
計画期間の目標設定（評価指標）	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
【建築物】耐震化施設数の計画実績対比 (完了数/全計画数)	-	-	0/2	0/2	0/2	0/2	
【土木構造物】耐震化施設数の計画実績対比 (完了数/全計画数)	2/13	2/13	3/13	3/13	4/13	4/13	

事業・取組名	Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、老朽化管路を地震に強い耐震管へ入れ替え、管路施設の耐震化を進めます。						
取組内容	<p>○基幹管路の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度～平成36年度 59.7km <p>○配水支管の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度～平成36年度 239.7km <p>Ⅲ-2管路施設の計画的更新（基幹管路更新事業・配水支管更新事業）に併せ実施します。</p>						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せ実施			基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せ実施		
計画期間の目標設定（評価指標）	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
管路耐震適合率（発注延長により評価）	67.0%	67.6%	67.9% (予算)	69.3%	70.0%	70.8%	
基幹管路耐震適合率（発注延長により評価）	59.3%	61.2%	61.9% (予算)	63.5%	64.7%	65.9%	

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	IV-3 重要施設向け配水管の耐震化						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	災害時に早急な対策・復旧計画の策定が求められる行政機関や、被災した市民の生命に係る救急医療施設などの重要施設向け配水管の耐震化を優先的に進め、被災対応の充実を図ります。						
取組内容	<p>○重要施設向け配水管の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要施設に位置つけた市内の行政機関および救急医療機関への供給ルートである配水管を優先的に耐震管に入れ替えます。 耐震化予定の重要施設数 行政機関6施設、医療機関19施設（平成27年度～平成36年度） 行政機関12施設、医療機関35施設（平成36年度までの完了予定施設数） 行政機関2施設、医療機関7施設（次期中長期経営計画での予定施設数） <p>※布設年度や耐震適合性の再評価により着手時期を見直し、行政機関2施設、医療機関7施設を次期中長期経営計画へ先送りします。</p>						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・重要施設向け配水管耐震化	計画に基づき実施			計画に基づき実施		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
耐震化完了重要施設数 （マスタープラン前に耐震化が完了した1施設、 計画以外で耐震化が完了した1施設含む）		行政機関 6施設 医療機関 18施設	行政機関 8施設 医療機関 18施設	行政機関 8施設 医療機関 24施設	行政機関 8施設 医療機関26施設	行政機関 8施設 医療機関28施設	行政機関 9施設 医療機関 29施設
事業・取組名	IV-4 配水管網のブロック化の推進						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	事故・災害時の被害範囲の極小化や復旧の迅速化を図るため、配水幹線の更新や関連事業との整合を図りながら、小ブロック（135ブロック）の構築を行います。						
取組内容	<p>○小ブロック構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度末（81.5% 110/135） 平成34年度末（100% 135/135） 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・小ブロックの構築	基幹管路の整備に併せて構築（平成34年度完了）			基幹管路の整備に併せて構築		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
小ブロック構築率 （小ブロック構築完了数/小ブロック構築予定数）		80.7% (109/135)	81.5% (110/135)	81.5% (110/135)	81.5% (110/135)	82.2% (111/135)	95.6% (129/135) %
事業・取組名	IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	事故・災害時のバックアップを目的とし、大ブロック（各浄水場給水区域）間に相互連絡管を整備し、安定給水の向上を図ります。						
取組内容	<p>○巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 国道460号線 φ500mm L=6,880m 整備期間 平成27年度～平成36年度 ※他工事の進捗に合わせて施行することに伴う工期延長 平成32年度～平成36年度 <p>○南浜配水場系～内島見配水場系連絡管整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊栄～太夫浜線 φ400mm L=630m 整備期間 平成33年度～平成34年度 <p>○青山高区系幹線整備 <新規></p> <ul style="list-style-type: none"> φ500mm L=1,881m 整備期間 平成30年度～平成32年度 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・相互連絡管整備 （巻浄水場系～戸頭浄水場系）	平成36年度まで			平成36年度まで		
	・青山高区系幹線整備				平成32年度完了		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
相互連絡管整備延長 （巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備） ※整備延長は竣工延長とする		1,075m	530m	1,055m	687m	787m	687m
相互連絡管整備延長（青山高区系幹線整備） ※整備延長は竣工延長とする		—	—	—	627m	627m	627m

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化						
目指す方向性	安全	強靱	◎	持続			
事業の目的	事故・災害時などの非常時において、迅速かつ確に応急給水する体制や、水道施設を早期に復旧する体制の強化を図るとともに、応急給水設備の整備や、給水や復旧に係る各種災害協定や関係団体・地域住民との連携の強化などを図ります。						
取組内容	<p>○事故・災害時に備えた各種災害時マニュアルの作成・更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルの見直し拡充（事業継続計画（BCP）、危機事象対応マニュアル、水道局震災対策計画、応援要請・受入マニュアル） <p>○マニュアルに基づく訓練の実施（局内・関連他事業体との連携）</p> <p>○応急給水設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 浄水場における給水車専用常設注水設備の整備 拠点給水所における住民用応急給水設備の整備 <p>○災害時の協力体制および連携体制の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間企業との協力体制構築に向けた調整 地域住民との協働体制構築に向けた調整 避難所等への非常用給水用具の整備に向けた調整 <p>○拠点給水所の周知方法の検討 <新規></p>						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
計画期間の 年次計画	各種災害時マニュアルの作成・更新	マニュアル・計画等の継続的見直し・拡充			マニュアル・計画等の継続的見直し・拡充		
	マニュアルに基づく訓練の実施	マニュアルに基づく訓練の実施			マニュアルに基づく訓練の実施		
	応急給水設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> 給水車専用常設注水設備の整備 満願寺浄水場			<ul style="list-style-type: none"> 給水車専用常設注水設備の整備 阿賀野川浄水場		
		<ul style="list-style-type: none"> 住民用応急給水設備の整備 満願寺浄水場 戸頭浄水場 巻浄水場 既存設備を活用			<ul style="list-style-type: none"> 住民用応急給水設備の整備 信濃川浄水場 整備完了		
	災害時の協力体制および連携体制の拡充	お密さまコールセンターとの協力体制の検討・構築 協力体制構築に向けた市長部局への協議 災害時支援協力員や地域住民との応急給水訓練の実施			災害時の協力体制および連携体制の拡充 <ul style="list-style-type: none"> 民間企業との協力体制構築に向けた調整 地域住民との協働体制構築に向けた調整 避難所等への非常用給水用具の整備に向けた調整 		
拠点給水所の周知方法の検討・実施				拠点給水所の周知方法の検討・実施			
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施	実施	実施	実施	実施
マニュアルに基づく訓練の実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施
給水車専用常設注水設備の整備		満願寺 浄水場	—	—		阿賀野川 浄水場	—
住民用応急給水設備の整備		満願寺 浄水場	戸頭 浄水場	—	信濃川 浄水場	—	—
拠点給水所の周知方法の検討・実施		—	—	—	実施	実施	実施

Ⅱ 事業計画

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続《持続》

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

【施策Ⅴ】 経営基盤の強化

事業・取組名	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	人口減少に伴い給水収益の大幅な減少が見込まれる中、水道事業を安定して持続していくために、中長期的な視点に立って、施設更新需要の見直しについて検討し、着実な更新投資を行う必要があります。						
取組内容	<p>○中長期的な更新需要の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期水需要予測を踏まえ適正な施設規模を決定したうえで、浄配水施設および管路施設の更新需要の算出結果を基に、財政収支見直しとの調整を図りながら、効率的かつ効果的な施設更新計画となるよう適宜見直しを図ります。 <p>○必要情報の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の基本情報、維持管理情報など、必要情報の蓄積方法や活用方法を検討するとともに、それらを踏まえた適切な施設管理、更新需要算出を継続的に進めていきます。 						
計画期間の年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・中長期的な更新需要の見直し		一部見直しの実施	見直し			見直し
・必要情報の整備・活用	継続実施			継続実施			
計画期間の目標設定(評価指標)	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
更新計画の見直し	—	一部実施	実施	—	—	見直し実施	

事業・取組名	V-2 定員・給与の適正化						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	独立採算で運営する水道事業は、最小のコストで最大の効果を得るよう努める必要があります。健全な運営のために求められる人的資源の最適化を常に追求しつつ、事業運営の効率化を推進します。						
取組内容	<p>○定員の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員数については、再任用職員を含めた定員管理を実施するとともに、引き続き業務の見直しなどを図り、定員の適正化を進めます。 <p>○給与の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員給与については、市長事務部局および他政令市の状況に準じた見直しを図ります。 						
計画期間の年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・定員の適正化	見直し継続			見直し継続		
・給与の適正化	見直し継続			見直し継続			
計画期間の目標設定(評価指標)	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
職員数(再任用短時間職員等を含む)	371人	369人	351人	351人以下	351人以下	351人以下	

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	V-3	業務効率化に向けた民間委託の検討・実施					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	事業の経営責任を確保しながら、経済的かつ効率的にお客さまサービスの維持向上を図るため、新たな民間委託の導入に向けた検討を進め、効果が見込める業務について積極的に委託化に取り組みます。						
取組内容	○新たな業務委託の実施に向けた調査・検討 ・経済性と効率化の観点や他都市の状況も含めた調査・検討を行います。						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・新たな業務委託の実施に向けた調査・検討			調査・検討の実施	調査・検討の実施		
	・業務委託の実施に向けた検討や準備	・基本方針の決定 ・準備計画の策定					
	・業務委託実施		・業者選定・契約 ・業者引継ぎ準備				
・委託後の評価と改善			・実施				
計画期間の目標設定（評価指標）	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
新たな業務委託の実施に向けた調査・検討	水道料金等 収納委託 基本方針の 決定・準備	水道料金等 収納委託 準備 業者選定	水道料金等 収納委託 実 施	調査・検討の実施			

事業・取組名	V-4	遊休資産の有効活用					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	施設統合計画により廃止となった浄配水場等の遊休資産を有効活用することにより、財政基盤の強化を図ります。						
取組内容	○施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究・施設有効活用の実施 ・それぞれの立地状況などに応じて有償貸付や売却処分などの方法により、遊休資産の有効活用を進めていきます。						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究・施設有効活用の実施	情報収集・調査・研究			情報収集・調査・研究・施設有効活用の実施		
太陽光発電用地としての有償貸付(20年間) [長戸浄水場跡地、亀田配水場跡地、西川浄水場跡地] (平成26年12月現在)	事業中止		本市が締結するパートナーシップ協定に基づき、小規模太陽光発電事業者への有償貸付検討・実施				
計画期間の目標設定（評価指標）	平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標	
有効活用の調査・研究・施設有効活用の実施	情報収集 調査・研究	情報収集 調査・研究	小規模太陽光発電用地としての有償貸付(4施設)	情報収集・調査・研究・施設有効活用の実施			

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	V-5	時代に即した料金制度等の検討・実施					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	水需要や財政収支の状況を踏まえ、将来にわたり安全な水の安定供給の持続が可能となるよう、維持管理・更新の時代に即した料金制度の検討を行います。						
取組内容	<p>○料金体系の調査・研究、見直し案の検討、料金改定の必要性、時期、水準の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の水需要見込や老朽施設の更新時期等に基づく事業の中長期的な収支見通しを立て、料金改定の必要性や時期、水準等について検討するとともに、適正な料金制度による見直し案の検討を行います。 (公社)日本水道協会の「水道料金算定要領」に基づく料金シミュレーションの実施 新たな料金制度の見直し案の検討 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・料金体系の調査・研究、 見直し案の検討	他の事業体の料金体系の調査・研究			他の事業体の料金体系の調査・研究、見直し案の検討		
・料金改定の必要性、時期、 水準の検討	調査・研究			調査・研究			
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
料金制度の見直し案の調査・研究		調査・研究	調査・研究	調査・研究	料金制度の見直し案の調査・研究、見直し案の検討		

事業・取組名	V-6	水道事業経営審議会の効果的運用					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	水道事業経営審議会を継続し、有識者や水道利用者などの第三者の意見や助言を事業運営に効果的に反映させます。						
取組内容	<p>○水道事業経営審議会の継続運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道事業決算および次年度予算、事業の進捗状況や評価などについての意見、提言、助言の事業運営への反映 新たな水道料金制度等の検討・審議 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水道事業経営審議会の継続 運営	継続運用、委員の選考			継続運用、委員の選考		
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
予算・決算・新・マスタープラン事業実施状況 に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施	実施	<ul style="list-style-type: none"> 新・マスタープランの事業・取組みに対する2次評価の実施 予算・決算に対する意見・提言 		
					後期実施計画への反映		

Ⅱ 事業計画

【施策Ⅵ】 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

事業・取組名	Ⅵ-1 戦略的な広報の実施						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	「新潟市水道局広報戦略」～広報活動の考え方～に基づき、継続的に広報計画を策定し、効果的な広報活動を展開します。						
取組内容	○広報計画に沿った広報活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・独自イベントによる広報（水道週間行事、施設見学） ・お客さまに直接働きかける広報（災害パネル展示、出張授業、各種イベントへの出店） ・デジタルメディアを活用する広報（インターネット） ・紙媒体による広報（広報紙、検針票裏面、パンフレット） ・漫画を活用する広報（小学生向けパンフレット、工事看板） 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水道週間行事、施設見学	継続			継続		
	・災害パネル展示、出張授業、 各種イベントへの出店	継続			継続		
	・インターネット	継続			継続		
	・広報紙、検針票裏面 広告、パンフレット	継続			継続		
	・小学生向けパンフレット、 工事看板	継続			継続		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
お客さまアンケートにおける 広報紙「水先案内」の認知度		—	72%	—	72%以上	—	72%以上

事業・取組名	Ⅵ-2 お客さまの意見・要望の把握						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	本市水道事業における基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を実現するためには、お客さまが水道事業に求めるものを的確に把握して施策に反映させるなど、お客さまの視点に立った事業運営に努める必要があります。						
取組内容	○お客さまアンケートの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・お客さまアンケートを継続的に実施することにより、お客さまの水道事業に対する意見・要望を的確にとらえ、事業運営の基礎資料とします。 ○水道モニター制度運用 <ul style="list-style-type: none"> ・水道モニター制度を継続実施します。 ・モニターの皆さんから水道事業への提言をいただき、事業運営の参考とします。 ・いただいた提言は、ホームページで公表します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・お客さまアンケートの実施	—	実施（一般家庭）	実施（事業所）	実施（一般家庭）	—	実施（一般家庭）
	・水道モニター制度運用	継続運用			継続運用		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
お客さまアンケートの実施		—	実施（一般家庭）	実施（事業所）	実施（一般家庭）	—	実施（一般家庭）
水道モニター活動回数 （モニター会議、施設見学会、提言発表会等開催数）		5回	4回	4回	4回	4回	4回

Ⅱ 事業計画

事業・取組名	VI-3	分かりやすい経営情報の開示					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	これからの水道事業に要する費用負担のあり方や経営の効率化に対する取組みなどについて、分かりやすくお客さまにお知らせし、水道事業経営の透明性の向上を図ります。						
取組内容	○料金の仕組みやコスト情報の提供、水道事業の経営効率化に関する取組み情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> お客さまの関心の高い、水道事業の経営情報や水道料金などに関する情報を、広報紙やホームページなどを通じて積極的に提供していきます。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	<ul style="list-style-type: none"> 料金の仕組みおよびコスト情報の提供 	継続			継続		
<ul style="list-style-type: none"> 経営効率化に関する取組み情報の提供 	継続			継続			
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
料金の仕組みやコスト情報の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)		2回	2回	2回	1回/年 以上	1回/年 以上	1回/年 以上
経営効率化に関する取組みの実績・計画等の提供 (ホームページおよび水先案内に掲載)		2回	2回	2回	1回/年 以上	1回/年 以上	1回/年 以上

事業・取組名	VI-4	放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供					
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	放射性物質を含む浄水汚泥について、厳重な保管・管理を徹底するとともに、水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度の検査結果、浄水場等における放射線量などについて、お客さまに対し情報提供を行います。						
取組内容	○厳重な保管・管理・処分、有効利用、検査、情報提供等の実施 <ul style="list-style-type: none"> 放射性物質を含む浄水汚泥の厳重な保管・管理・処分 200Bq/kg以下の放射性物質を含む浄水汚泥の有効利用の継続 水道水・河川水・浄水汚泥の放射性物質濃度、浄水場周辺の放射線量などの検査の継続 ホームページ等による検査結果、情報提供の継続 8,000Bq/kgを超える放射性物質を含む浄水汚泥の処分について国・県への積極的な要望の継続 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	<ul style="list-style-type: none"> 保管管理、検査、有効利用、情報提供 	継続			継続		
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
汚泥保管施設における放射線量測定結果の 情報開示の継続		開示	開示	開示	開示	開示	開示
放射性物質濃度の分析調査結果の 情報開示の継続		開示	開示	開示	開示	開示	開示

II 事業計画

【施策Ⅶ】 技術・知識を有する人材の確保と育成

事業・取組名	Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	水道事業は専門性が高いために継承すべき技術が多く、施設整備計画の策定、設計施工管理、危機管理および現場対応力など、これらはいずれも高度な知識と経験が求められます。事業の持続のためには、専門知識と実務経験を併せ持つ職員の確保と育成が重要となります。						
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・技術系新規採用職員の独自採用方式を継続します。 ・新規採用職員のジョブローテーションの指針に従って教育配転を行います。 ○各種研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市水道局職員研修基本計画に基づく研修を確実に実施し、研修計画を適宜、見直ししながら充実を図ります。 ○水道研修センターの効果的運用 <ul style="list-style-type: none"> ・水道研修センターの効果的運用を図ります。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・技術系新規採用職員の独自採用、教育配転	継続			継続		
	・各種研修の実施	研修計画に基づく継続的な実施および計画の見直し			研修計画に基づく継続的な実施および計画の見直し		
・水道研修センターの運用	運用			運用			
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度未職員数)		16.1時間/人	15.6時間/人	15.8時間/人	16.5時間/人	17.1時間/人	17.8時間/人

事業・取組名	Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	我が国の水道事業は高度な技術のもと管理・運営されており、世界のトップランナーとして国際的にも高い評価を得ていることから、その技術・経験を国際貢献・国際協力に生かすことが期待されています。本市においても、水道技術の国際交流を通じた中で、国際的な視野と見識を持った人材の育成を図ります。						
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○国際会議等への積極的な参加 <ul style="list-style-type: none"> ・日米台水道地震対策ワークショップへの参加 ・水道技術国際シンポジウムへの参加 ・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加 ・国際水協会世界会議への参加 ○インターンシップの受入 <新規> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生のインターンシップ受入(新潟大学との共同事業) 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・日米台水道地震対策ワークショップ参加(2年に1回)	参加	—	参加	—	参加	—
	・水道技術国際シンポジウム等への参加(3年に1回)	参加	—	—	参加	—	—
	・自治体水道国際展開プラットフォームへの参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加
・国際水協会世界会議への参加	—	—	—	参加	—	—	
・外国人留学生のインターンシップ等受入	—	—	—	受入	受入	受入	
計画期間の目標設定(評価指標)		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
国際研修等への参加人数		7人	2人	3人	4人	3人	2人

Ⅱ 事業計画

【施策Ⅷ】 環境に配慮した事業運営

事業・取組名	Ⅷ-1 建設副産物の再利用促進						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	建設副産物の再利用により、CO ₂ 排出量の削減や省エネルギー化を図り、環境保全への社会的責任を果たします。						
取組内容	<p>○改良土の利用促進、リサイクル率向上方策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化します。また、建設発生土については引き続き、リサイクル率向上のための方策を検討し、現場内で掘削土を改良する機械の開発や高pH対策などのフィールド提供を行い、新技術の開発を促進します。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・改良土の利用促進	・実施の継続およびリサイクル率向上方策の検討			・実施の継続およびリサイクル率向上方策の検討		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
建設副産物のリサイクル率		37.7%	37.9%	38.0%	40%	40%	40%

事業・取組名	Ⅷ-2 水道局環境計画の策定と推進						
目指す方向性	安全		強靱		持続	◎	
事業の目的	水道局として環境負荷の少ない水作りを推進するため、環境負荷低減に向けた取り組みを推進していきます。						
取組内容	<p>○再生可能エネルギー等の有効利用</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備等に併せ、浄水場への太陽光発電設備の導入を進めます。 <p>○環境報告書の作成・公表 ※環境会計→環境報告書（平成29年度の作成（平成28年度分）から実施予定）へ変更します。</p> <p>○省エネルギー対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備に併せ、省エネルギー型の施設・設備に切り替えます。 						
計画期間の 年次計画	事業・取組み項目	前期計画期間(3年)			中期計画期間(3年)		
		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	・水道局環境計画の運用、見直し	・計画の策定			・計画の継続的な見直し		
	・環境報告書の作成・公表	・作成及び公表の継続（平成28年度までは環境会計として作成公表）			・作成及び公表の継続		
	・省エネルギー対策の推進	・浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え			・浄水場施設整備に併せた省エネ設備への切り替え		
計画期間の目標設定（評価指標）		平成27年度 実績	平成28年度 実績	平成29年度 見込み	平成30年度目標	平成31年度目標	平成32年度目標
環境報告書の作成・公表		実施	実施	実施	実施	実施	実施

1 実施計画の策定趣旨と位置づけ

(1) 策定趣旨

- 基本理念「**すべてのお客さまに信頼される水道**」
- 目指す方向性「**安全**」・「**強靱**」・「**持続**」
- 計画的かつ効率的に事業を推進

(2) 位置づけ

- 進捗管理の結果を踏まえた分析，事業・取り組みの見直し
- 目指す方向性の実現
- 施策体系は前期より維持・継続し、8つの施策、31の「事業・取り組み」

(3) 計画期間

○中期実施計画期間：平成30年～平成32年



(4) 給水人口、給水量の見通し

- 給水人口は、微減ながら**減少傾向**
- 給水量は、給水人口の減少に加え、節水機器の普及、節水意識の浸透により**減少傾向**



2 前期計画の進捗概況と中期計画の実施概要

(1) 前期実施計画進捗状況（平成27年度～平成29年度）

安全でおいしい 水道水の供給 《安全》

各事業ほぼ計画通りに進捗し、全項目で目標達成見込み

強靱な施設・ 体制による 給水の確保 《強靱》

- ・ 浄配水施設の整備は計画に従って着実に推進し、重点目標を達成見込み
- ・ 管路施設の整備は工事費の増高及び市街地工事に伴う困難化により目標下回り

環境の変化に 柔軟に対応した健全 な事業運営の持続 《持続》

- ・ 当初計画の遊休資産の有効活用（太陽光発電事業者への土地の貸付）については、国の制度変更により中止したが、29年度から新たな貸付先と協議開始
- ・ この他の事業・取り組みは、平成29年度からの料金等収納業務の委託化をはじめ、計画どおりに進捗
- ・ 有収率など一部の目標を除き、目標達成見込み

(2) 中期実施計画概要（平成30年度～平成32年度）

安全でおいしい 水道水の供給 《安全》

- ・ 残留塩素の管理の抜本的対策に向けて調査・検討を進めるほか、事業取り組みを着実に実施

強靱な施設・ 体制による 給水の確保 《強靱》

- 浄配水施設整備
 - ・ 阿賀野川浄水場整備等の継続事業については、計画どおり完了見込み
 - ・ 戸頭浄水場及び巻浄水場の施設整備は、効率的事業推進のため全体工程の見直し 《見直し》
 - ・ 戸頭浄水場施設の耐震化は、耐震診断結果及び他の設備の更新計画を踏まえ、対象施設又は着手時期を見直し 《見直し》
- 管路施設整備
 - ・ 「大ブロック間の相互連絡管の整備」として青山浄水場高区系基幹管路整備に着手 《新規》
 - ・ 「重要施設向け配水管の耐震化」では、対象管路の布設年度や耐震適合性の再評価により、着手時期を見直し 《見直し》

環境の変化に 柔軟に対応した健全 な事業運営の持続 《持続》

- ・ 施設の統廃合計画も視野に入れ、現行マスタープラン後の長期的更新の見通しを検討し、後期実施計画を策定
- ・ 新たに大学と連携し外国人留学生のインターンシップの受入れを開始 《新規》

参考 前期実施計画重点目標の達成状況（平成27年度～平成29年度）

方向性		指標項目	前期目標 (平成29年度)	前期見込み (平成29年度)	達成度 (前期見込み)
安全	水質	農薬濃度管理目標達成率	100	100	100.0
		総トリハロメタン濃度管理目標達成率	100	100	100.0
		残留塩素管理目標達成率	91以上	91	100.0
		臭気強度管理目標達成率	100	100	100.0
		学校施設水飲み水栓の直結給水化率	65.0以上	64.8	99.7
		貯水槽清掃実施率	76.8以上	78.4	102.1
強靱	浄水施設	老朽化浄水施設率	0.0	0.0	100.0
		老朽化設備率	20.0以下	20.9	95.7
		浄水施設耐震率	19.9以上	19.9	100.0
		ポンプ所耐震施設率	95.9以上	95.9	100.0
		配水池耐震施設率	75.6以上	72.0	95.2
	管路施設	老朽化管路率	3.3以下	4.0	82.5
		老朽化基幹管路率	3.3以下	4.2	78.6
		鉛製給水管率	5.2以下	5.8	89.7
		管路耐震適合率	68.5以上	67.9	99.1
		基幹管路耐震適合率	62.1以上	61.9	99.7
		管路更新率（期間平均）	0.90以上	0.62	68.9
		基幹管路更新率（期間平均）	1.58以上	1.28	81.0
		小ブロック構築率	93.3以上	81.5	87.4
		有収率	94.6以上	94.6	100.0
持続	効率	施設利用率	64.8以上	62.0	95.7
		施設最大稼働率	76.6以上	69.8	91.1
	環境	エネルギー原単位	0.8421以下	0.8421	100.0
		再生可能エネルギー利用率	0.35以上	0.38	108.6
		浄水発生土の有効利用率	100.0	100.0	100.0
	人材	内部研修実施時間	15.8以上	15.8	100.0

新・マスタープラン中期実施計画（管路施設整備）概要

1 前期実施計画

I 進捗状況

▶ 工事費の高騰による計画への影響

- ・平成27年度に諸経費変更と人件費、材料費の上昇で管路工事費が高騰し、老朽管管路率、管路耐震適合率、管路更新率で目標達成が困難な状況である。
- ・事故災害時の漏水による影響が大きい基幹管路更新と重要施設向け配水管整備の目標達成を優先し、配水支管更新費を削減して基幹管路更新費と重要施設向け配水支管整備費を増額した。



- ▶ 南山低区系の配水幹線更新は目標達成見込み
- ▶ 重要施設向け配水支管整備更新は目標達成見込み
- ▶ 老朽配水支管更新は目標達成が困難な状況

II 老朽管状況と管路整備の今後の課題

▶ 老朽管の状況（市街地に集中する更新対象管路）

- ・新・マスタープラン期間内の老朽管更新事業量の95%は、旧新潟市地域に集中している。
- ・次期マスタープラン前半(平成41年度)までに、新たに更新周期を迎える配水支管はほとんどない。
- ・旧新潟市以外の地域ではφ50mm鋼管等の小口径管が多い。(漏水時の影響が小さい管路)

▶ 難易度の高い工事による工事費上昇

- ・配水幹線と配水支管の更新は、旧新潟市地域の市街地に集中している。
- ・市街地では、他埋設管、交通量、給水戸数が多いことから、夜間工事や推進工法等特殊工事が多くなる。



工事の難易度と工事費が増加

2 中期実施計画の管路整備方針

I 管路施設の計画的耐震化

▶ 水道システムを考えた耐震化

- ・基幹管路の更新による耐震化に重点を置きながら、老朽管更新に併せて耐震化率を向上させる計画を進め、水道システム全体としての耐震化を効果的に行うためのバックアップ管路の整備により強靱化を図る。

▶ 重要施設向け配水管の耐震化

- ・災害対応拠点となる行政機関や救急医療機関等への供給ルートを優先的に耐震化する。

▶ 配水管網のブロック化

- ・工事単価高騰などの影響により遅れた小ブロック構築計画は、これまでの状況を踏まえ、コスト縮減による構築を検討しブロック化を進める。

II 管路施設の計画的更新

▶ 管路更新の優先順位

- ・漏水時に影響が大きい基幹管路とφ100mm以上の配水支管更新に効果的な投資を行う。
- ・漏水が多い懸念路線について維持管理情報を評価し更新を行う。
- ・J R軌道下、水管橋等の更新の優先順位を高める。

3 中期実施計画以降の管路整備の取組み

▶ 優先度を考慮した基幹管路更新事業費の拡充

- ・前期実施計画での実施状況を踏まえて整備内容の見直しを図り事業費を拡充して、引き続き基幹管路の更新を重点的に進める。

▶ 配水支管更新の積極的な推進

- ・老朽管更新の進捗向上のため、老朽配水支管や漏水懸念路線の更新を効果的に進めます。

▶ 相互連絡管の整備

- ・老朽管更新の工事難易度と工事費の上昇により、更新工事の進捗が遅れていることから、青山高区系と南山高区間の配水幹線整備を先行して水道システム全体として早期に効果的な耐震化を図る。(浜浦橋ルートφ500)

4 中期実施計画

I 管路施設の計画的更新

安全	○	目的：漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメント手法を取り入れ、更新周期を設定し、老朽化した管路施設（基幹管路・配水支管）を計画的に更新します。
強靱	◎	
持続	○	

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
基幹管路更新延長	2,200m	2,200m	2,200m
配水支管更新延長	13,900m	13,600m	13,600m

- ・漏水時に影響の大きい基幹管路を優先して更新を行う。
- ・市街地に集中した老朽配水支管（CIP）の更新を優先的に行う。
- ・漏水時に影響の大きいφ100mm以上の配水支管更新に効果的な投資を行う。
- ・漏水が多い懸念路線の更新を行う。

II 管路施設の計画的耐震化

安全		目的：大規模地震が発生した場合でも、生活や都市活動に必要な水道水をできる限りお客さまに届けられるよう、老朽化管路を地震に強い耐震管へ入れ替え、管路施設の耐震化を進めます。
強靱	◎	
持続		

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
管路耐震適合率	69.3%	70.0%	70.8%
基幹管路耐震適合率	63.5%	64.7%	65.9%

- ・基幹管路の更新による耐震化に重点を置きながら、老朽管更新に併せて耐震化率を向上させる計画を進め、浄配水施設を含めた水道システム全体として耐震化を効果的に行うためのバックアップ管路の整備により強靱化を図る。

III 重要施設向け配水管の耐震化

安全		目的：災害時に早急な対策・復旧計画の策定が求められる行政機関や、被災した市民の生命に係る救急医療施設などの重要施設向け配水管の耐震化を優先的に進め、被災対応の充実を図ります。
強靱	◎	
持続		

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
耐震化完了重要施設数	行政機関 8施設（0）	行政機関 8施設（0）	行政機関 9施設（1）
	医療機関 26施設（2）	医療機関 28施設（2）	医療機関 29施設（1）

※旧・マスタープラン前に耐震化が完了した1施設含む、医療機関の移転による再整備1施設を除く

耐震化完了重要施設数は累計、（ ）は完了した数

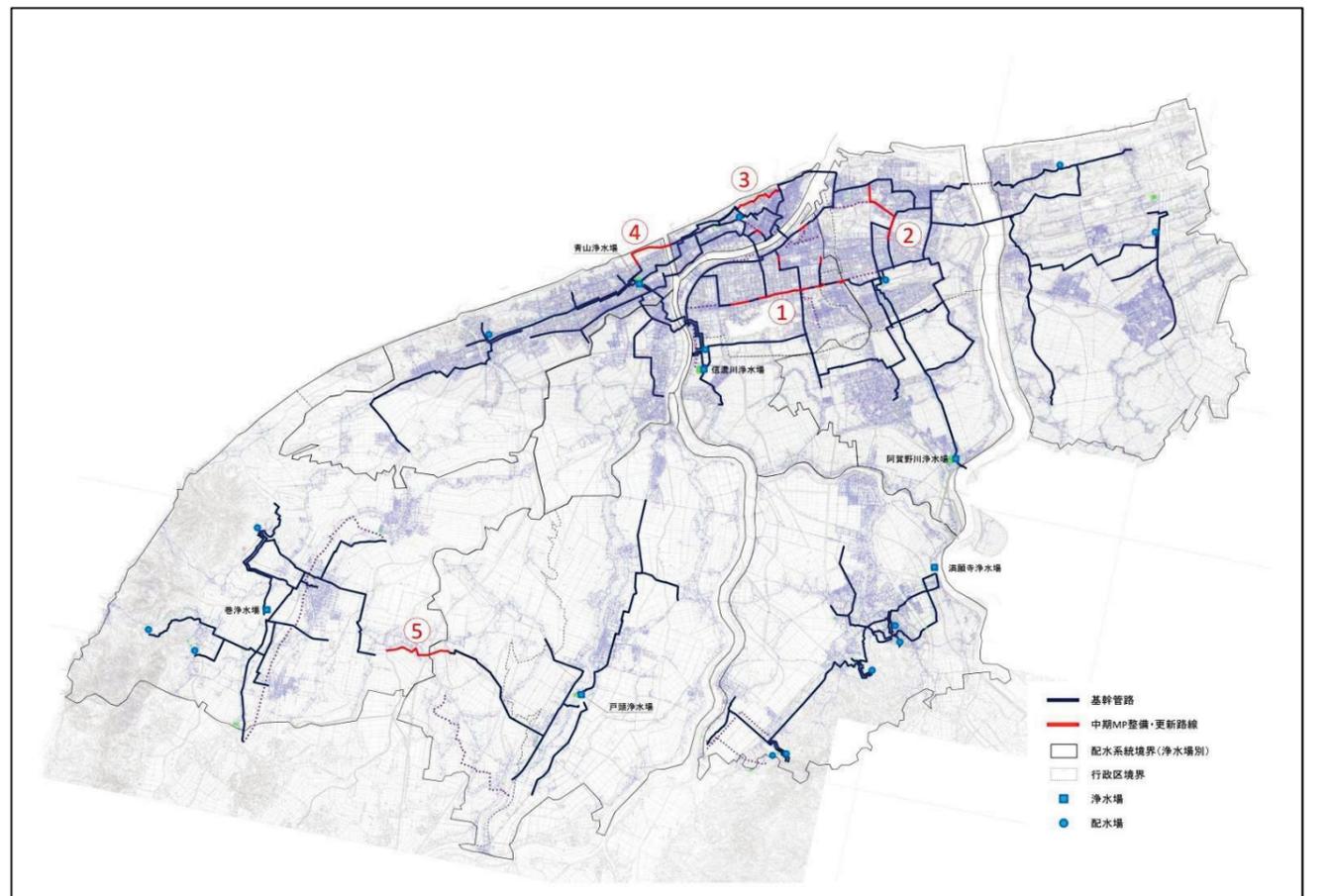
IV 大ブロック間の相互連絡管の整備

安全		目的：事故・災害時のバックアップを目的とし、大ブロック（各浄配水場給水区域）間に相互連絡管を整備し、安定給水の向上を図ります。
強靱	◎	
持続		

	平成30年度	平成31年度	平成32年度
巻浄水場系～戸頭浄水場系	H27～H36		
青山高区系～南山高区系	H30～H32		

V マスタープラン中期の基幹管路更新・整備路線図

路線	口径・施工期間
① 紫鳥線配水幹線更新（継続）	φ700：平成27～32年度
② 竹尾系配水幹線更新（継続）	φ500～700：平成27～32年度
③ 南山高区系配水幹線更新（新規）	φ500：平成30～32年度
④ 青山～南山相互連絡管整備（新規）	φ600：平成30～32年度
⑤ 巻～戸頭相互連絡管整備（継続）	φ500：平成20～36年度



新・マスタープラン中期実施計画（浄水配水施設整備）概要

1 前期実施計画

整備事業は計画どおりに進捗

▶ 阿賀野川浄水場施設整備事業（H27～31年度）

- ・ポンプ場築造工事は今年度内に竣工予定であり、他の土木工事や主要な機械・電気設備工事などの工事が本格化しており、今年度末での事業進捗率は50%を超える予定である。
- ・事業費は、当初事業費（65億円）内となる見込みである。

▶ 配水場施設整備事業（H28～32年度）

- ・主要工事の発注はH30年度からであり、現在2件の工事が契約済みである。

2 中期実施計画以降の浄配水場整備方針

より効率的な施設整備に向けて

▶ 長期施設整備を見据えた現計画の一部先送り

- ・より効率的に事業を進めるため、水道施設全体の長期的な施設整備を踏まえて、全体工程を見直した後に、実施することが効率的と判断される事業を次期M P以降に先送りする。

（老朽化設備の更新は計画通りとし、新たに施設の機能強化する工事等を対象に先送りする）

▶ 新・マスタープラン着手後の課題に対応するための施設整備を追加

- ・平成29年4月から水質管理目標設定項目に追加された、農薬に対する除去効果の向上が必要となった。
- ・維持管理として試掘による点検の結果、構内水管の不等沈下が発見されその対策が必要となった。

3 中期実施計画以降の計画の見直し

I 長期施設整備を見据えた現計画の一部先送り

▶ 現計画の一部先送り

① 戸頭浄水場整備事業の先送り（H33～36年度）

河川放流システム新設、排水処理設備更新、粉炭注入設備更新※、太陽光発電設備設置など

※信濃川取水場への微粉炭設備導入に伴い、H29年度信濃川浄水場に設置する粉炭設備の移設を検討する。

② 巻浄水場施設整備事業の一部先送り

太陽光発電設備設置（H35～36年度）

II 新・マスタープラン着手後の課題に対応するための施設整備

▶ 施設整備の追加

① 信濃川取水場への微粉炭設備導入（H34～36年度）

- ・新・マスタープラン策定時に課題として顕在化していなかった新たな農薬類や油臭などの除去が求められる。
- ・信濃川と青山浄水場の浄水方法を見直し、信濃川粒状活性炭更新を止めるとともに、青山の粉末活性炭設備の更新時期に合わせ、信濃川取水場に微粉炭設備を導入する。

② 竹尾構内水管の沈下対策工事を追加（H33～36年度）

- ・竹尾配水場の構内水管試掘結果から、不等沈下によりポンプ場流入側及び流出側配管の可とう管がそれぞれ許容偏心量を超過していることが判明した。
- ・ポンプ場流入及び流出配管の不等沈下対策として、構内配管を更新する。

③ 信濃川浄水場への太陽光発電設備新設（H35～36年度）

- ・戸頭浄水場、巻浄水場の太陽光発電設備設置の先送りに対し、再生可能エネルギー利用率の目標達成のため、信濃川浄水場へ太陽光発電設備（250kW）を設置する。

III 施設整備スケジュールの見直し

▶ 施設整備スケジュール

事業		前期実施計画 (H27～H29)	中期実施計画 (H30～H32)	後期実施計画 (H33～H36)
阿賀野川浄水場整備継続事業	当初	H27～H31		
	変更	H27～H31		
内野配水場等整備継続事業	当初	H28～H32		
	変更	H28～H32		
戸頭浄水場整備継続事業	当初		H32～H35	
	変更	（配水ポンプ設備・水質計器更新はその他施設整備で実施。）		
巻取水場・浄水場整備継続事業	当初		H32～H36	
	変更		H33～H36	
青山浄水場整備継続事業	当初		H34～H36	
	変更		H33～H36	
その他施設整備費 ※	当初	H27～H36		
	変更	H27～H36		

※ 継続事業以外の各施設整備。

4 中期実施計画

I 浄配水施設の計画的更新

安全	○
強靱	◎
持続	○

目的：浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図ります。また、更新に併せて、環境負荷の低減や維持管理性の向上に配慮した整備を進めます。

① 阿賀野川浄水場整備事業（平成27～31年度）

内容	平成30年度	平成31年度	平成32年度
自家発電設備更新	H28～H30		
ポンプ設備更新	H28～H30		
粉末活性炭注入設備更新	H29～H30		
電気設備更新	H28～H31		
監視制御設備更新	H28～H31		
太陽光発電設備設置	H30～H31		

② 配水場整備事業（平成28～32年度）

配水場	内容	平成30年度	平成31年度	平成32年度
竹尾	配水ポンプ電気設備更新	H28～H30		
	監視制御設備更新	H30～H32		
内野	監視制御設備更新		H31～H32	
南浜	受変電、電気設備更新	H30～H32		
	配水ポンプ設備更新	H30～H32		
	監視制御設備更新	H30～H32		
内島見	配水ポンプ設備更新	H30～H32		
	監視制御設備更新	H30～H32		

③ 個別整備

各施設の経年劣化した個別の整備状況に合わせ、計画的な更新および施設整備を実施します。

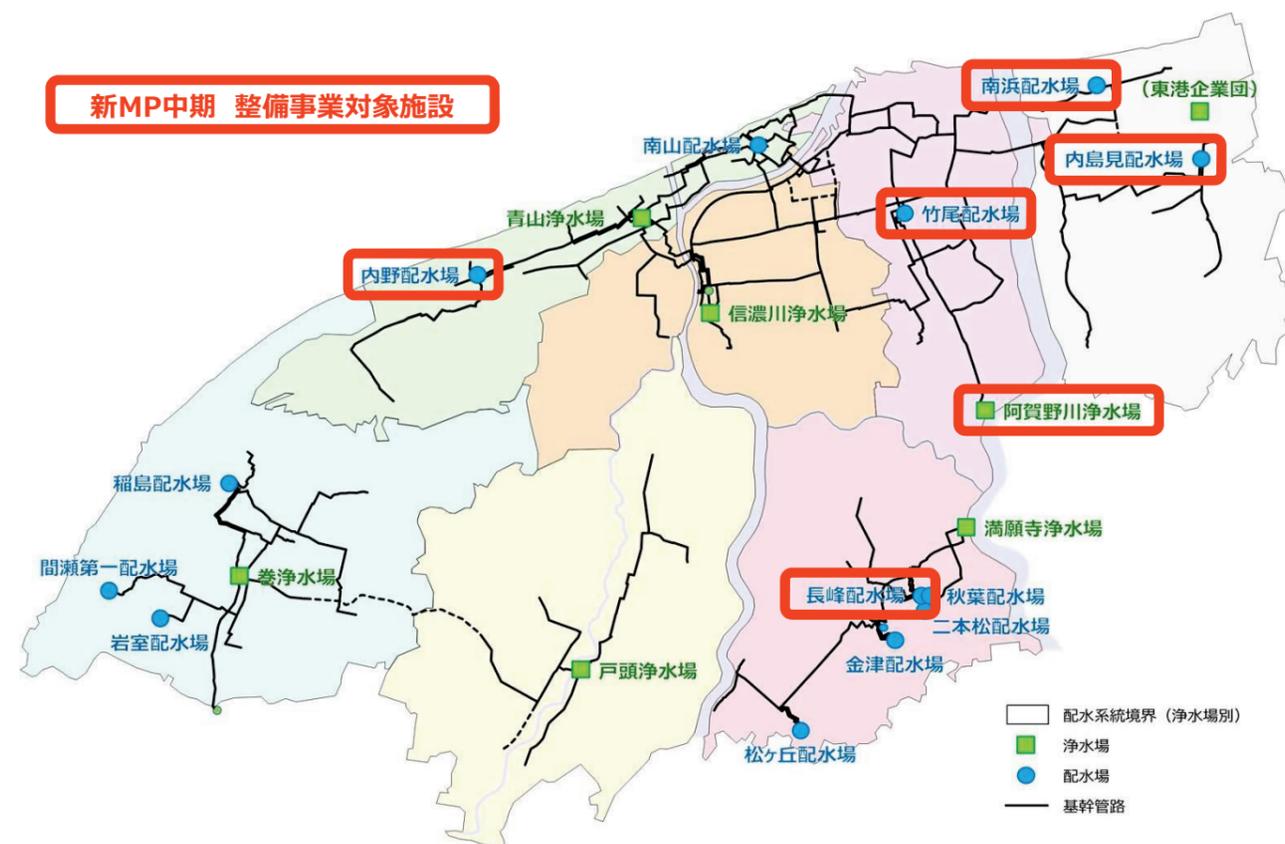
II 浄配水施設の計画的耐震化

安全	
強靱	◎
持続	

目的：大規模地震が発生した場合でも、影響を最小限にとどめ、水道システムとして機能を損なうことのないよう、浄配水施設整備に併せ、効率的に浄配水施設等の耐震化を進めます。

内容	平成30年度	平成31年度	平成32年度
阿賀野川浄水場配水池耐震化	H28～H31		
長峰配水場配水池耐震化			H32～H33

III 中期実施計画の施設整備事業位置図



1. 概 況

(1) 総括事項

本市水道事業の中長期的な事業運営の方針を示した「新・新潟市水道事業中長期経営計画（新・マスタープラン）」の2年目にあたる本年度も、諸施策の実現に向け、関係する事務事業を進めました。

新・マスタープランにおける三つの方向性の一つである「安全でおいしい水道水の供給」では、これまで同様、国の水質基準よりも厳しい独自の管理目標値を設定して管理するとともに、水質検査機器の整備を進めるなど、水道水の水質管理の充実・強化に努めました。

「強靱な施設・体制による給水の確保」では、引き続き、老朽化設備の更新や耐震化を図る、阿賀野川浄水場の施設整備を進めるとともに、同じく、老朽化したポンプ・電気設備等の更新等を行うため、各配水場の施設整備（5か年継続事業）に着手しました。

管路施設では、基幹管路及び配水支管の計画的更新に取り組み、事故・災害対策の観点から、巻浄水場系一戸頭浄水場系間の相互連絡管の整備を継続したほか、重要施設として位置付けている行政機関と医療機関向けの配水管の耐震化を進めました。

また、新たに名古屋市上下水道局や民間事業者との間で、事故、災害時における相互応援及び復旧支援の協定を締結し、災害対応力の連携強化を図りました。

「環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続」では、より多くのお客さまに水道事業について理解していただけるよう広報紙による情報提供や、イベントの開催など効果的な広報活動に取り組む一方、「水道に関するアンケート」及び「水道モニター制度」の活用により、お客さまニーズの把握に努め、「水道事業経営審議会」では、有識者等から事務事業の方向性などについて意見、提言をいただきました。人材育成では、現場対応力の強化などに向けて、水道局職員研修基本計画に基づく研修を着実に実施しました。

配水量及び有収水量の状況

引き続き、水需要は減少傾向となっており、配水量は、101,664,482 m³（前年度比 148,445 m³, 0.15%減）、有収水量は95,982,888 m³（前年度比 147,342 m³, 0.15%減）となり、有収率は、ほぼ前年並みの水準となる 94.41% となりました。

主な建設改良事業の執行状況

主な建設改良事業の執行状況は、以下のとおりです。

1. 基幹管路更新事業	更新延長	4,717m	1,882,249,075 円
2. 基幹管路整備事業	布設延長	550m	135,932,040 円
3. 配水支管更新事業	更新延長	18,776m	2,549,550,885 円
4. 阿賀野川浄水場施設整備事業			747,486,400 円
5. 配水場施設整備事業			41,490,000 円

決算の状況

事業収益 162 億 9,703 万 4 千円余（消費税込み 174 億 7,413 万 4 千円余）に対し、事業費は 139 億 1,189 万 7 千円余（消費税込み 145 億 8,705 万 3 千円余）となり、当年度純利益 23 億 8,513 万 7 千円余を計上しました。

また、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、68 億 1,609 万 1 千円余となり、これを積立金などの内部留保資金で補てんしました。

以上が平成 28 年度決算の概況ですが、引き続き、健全経営の維持に努め、新・マスタープランの基本理念である「すべてのお客さまに信頼される水道」を念頭に置き、諸施策を積極的に推進していきます。

平成28年度

水道事業会計決算説明資料

新潟市水道局

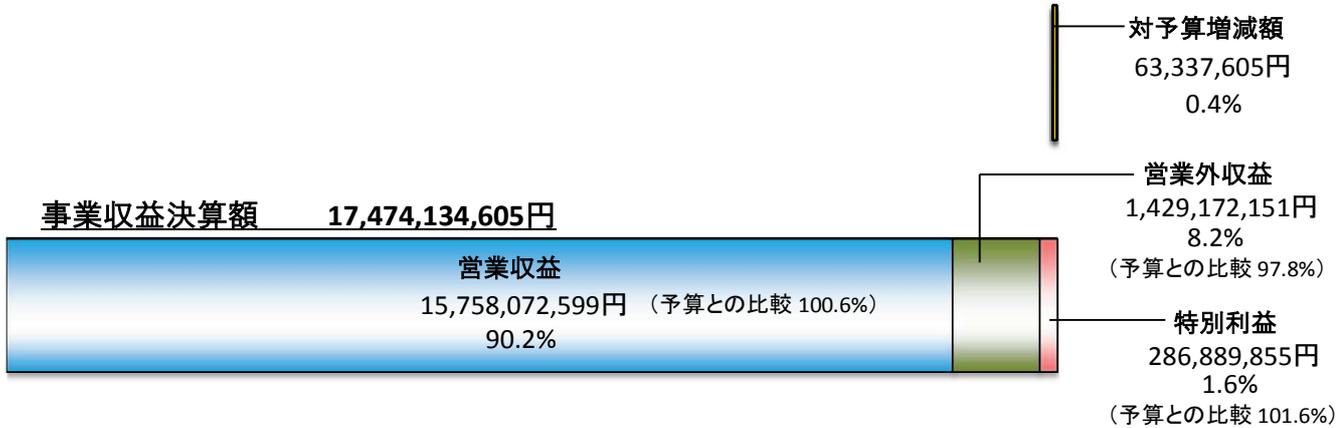
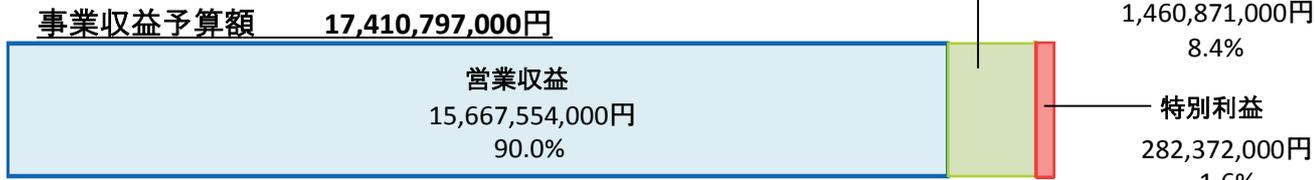
目 次

1 決算報告書の説明	
(1) 収益的収入	1
(2) 収益的支出	2
(3) 資本的収入	3
(4) 資本的支出	4
2 財務諸表の説明	
(1) 損益計算書	5
(2) 剰余金計算書及び剰余金処分計算書	6
(3) 貸借対照表	7
3 附属書類の説明	
(1) キャッシュ・フロー計算書	8
(2) 企業債現有高の状況	9
4 事業報告書の説明	
(1) 業務	10
5 その他	
(1) 経営分析指標	11

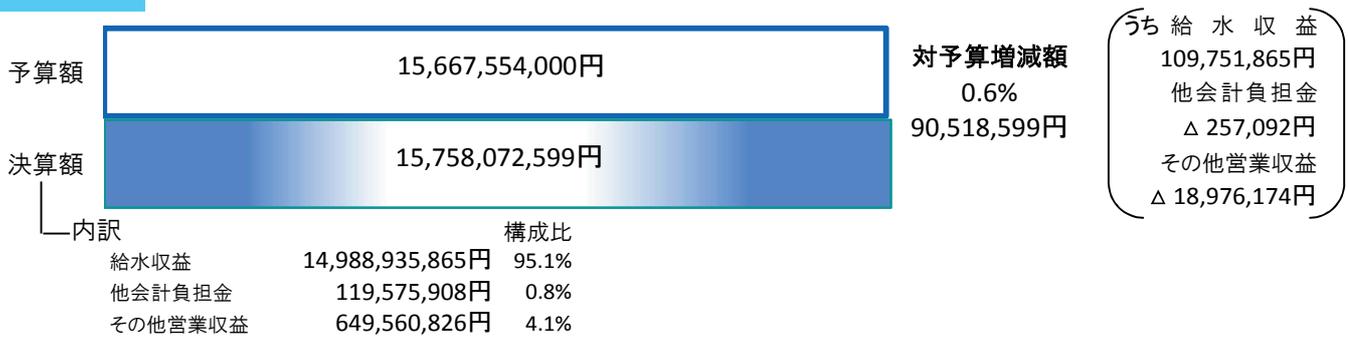
1. 決算報告書

(決算書P2・3参照)

(1) 収益的収入



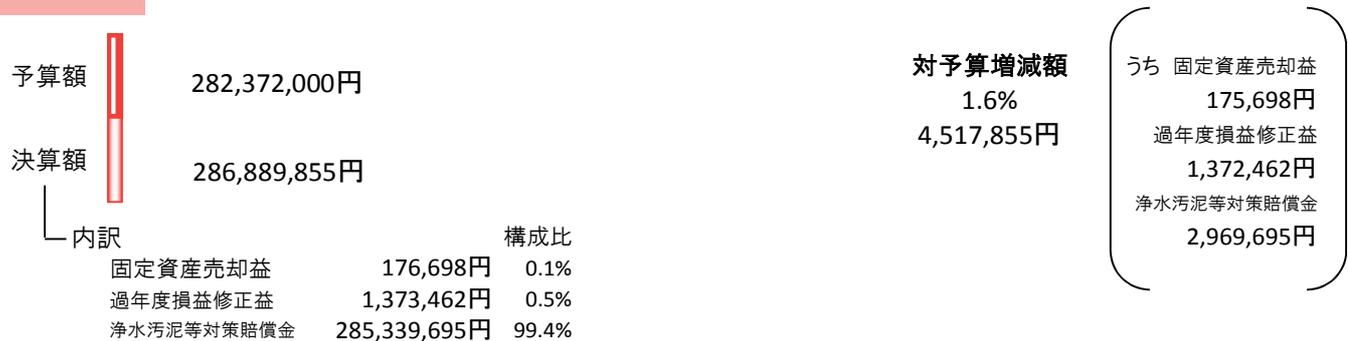
営業収益



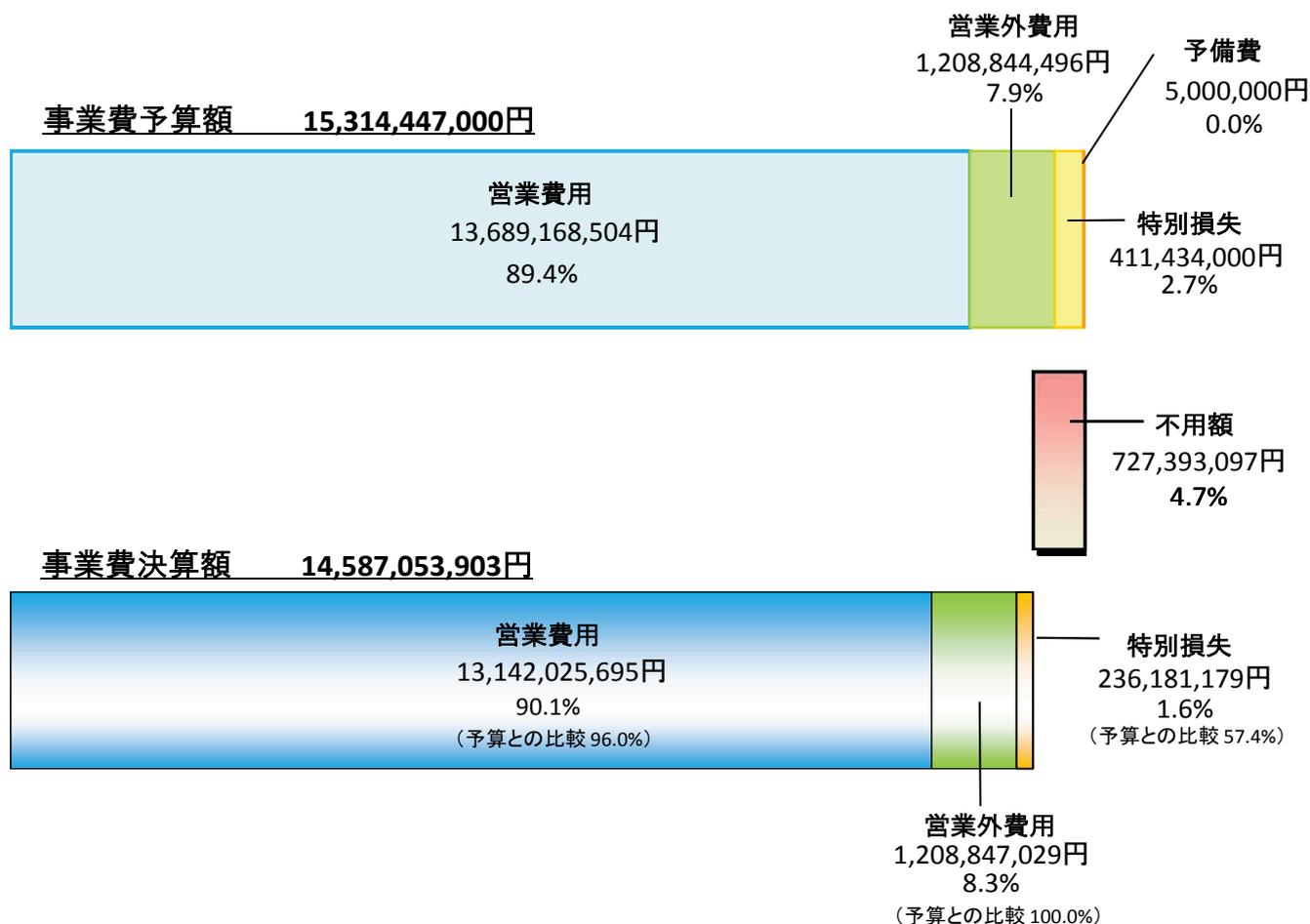
営業外収益



特別利益



(2) 収益的支出

**営業費用 13,142,025,695円**

	金額(円)	構成比
1. 職員給与費	2,527,049,754円	19.2%
2. 委託料	1,884,901,064円	14.3%
3. 修繕費	1,435,982,050円	10.9%
4. 動力費	593,696,923円	4.5%
5. 受水費	460,286,590円	3.5%
6. 減価償却費	5,121,015,692円	39.0%
7. 資産減耗費	296,577,694円	2.3%
8. その他	822,515,928円	6.3%

営業外費用 1,208,847,029円

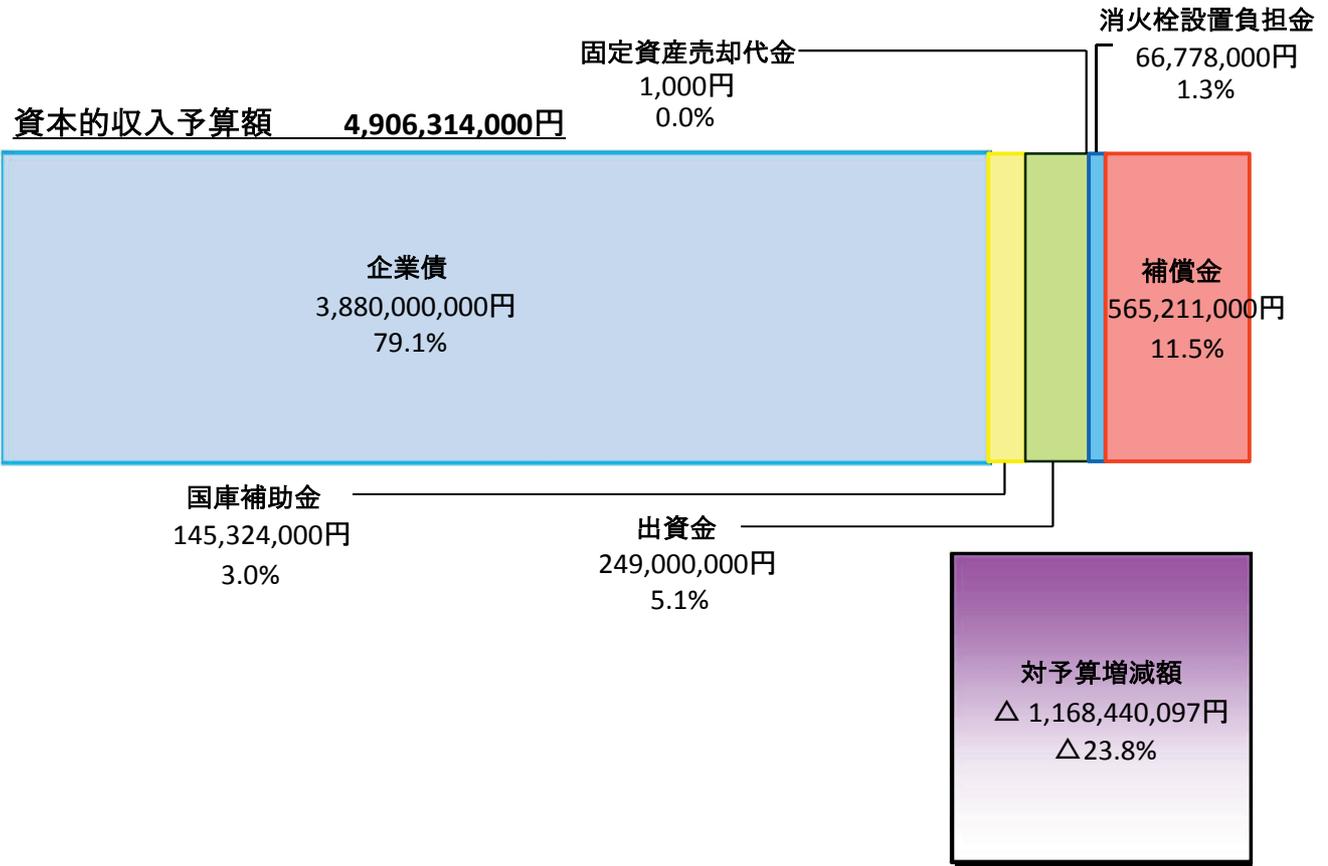
	金額(円)	構成比
1. 支払利息	884,881,918円	73.2%
2. 消費税及び地方消費税	306,093,000円	25.3%
3. その他	17,872,111円	1.5%

特別損失 236,181,179円

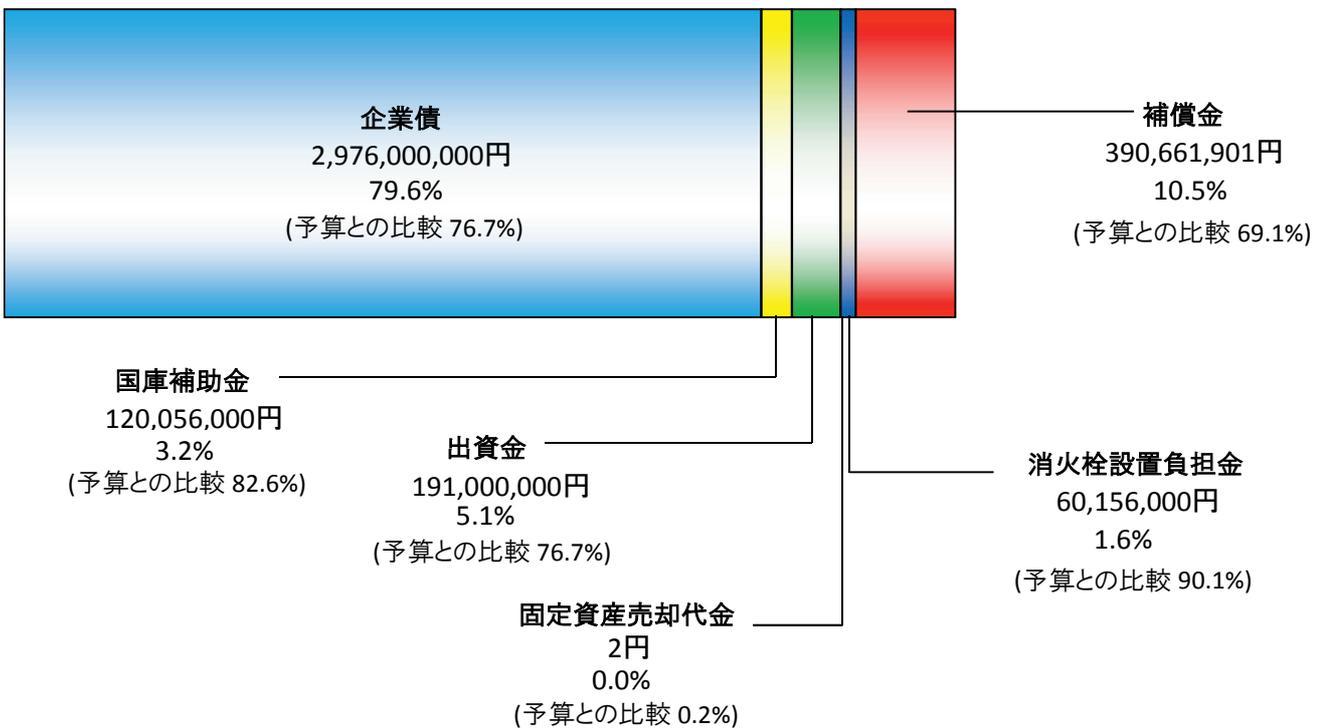
	金額(円)	構成比
1. 過年度損益修正損	3,792,238円	1.6%
2. 浄水汚泥等対策費	232,388,941円	98.4%

(決算書P4・5参照)

(3) 資本的収入

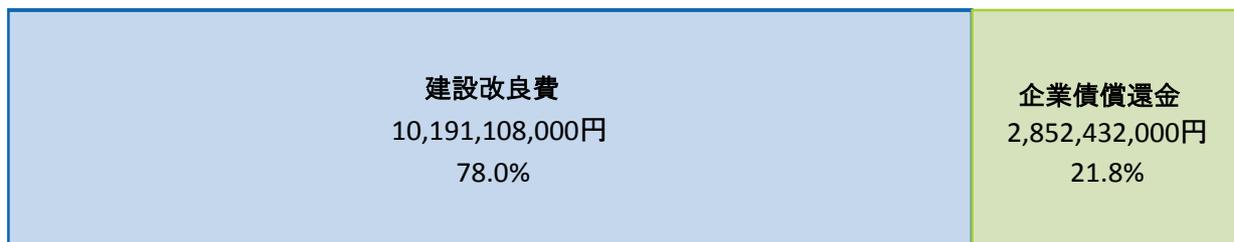


資本的収入決算額 3,737,873,903円

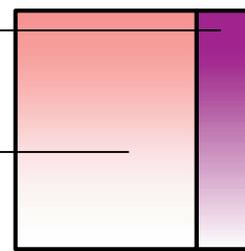


(4) 資本的支出

資本的支出予算額 13,073,540,000円

投資
30,000,000円
0.2%

資本的支出決算額 10,553,965,647円

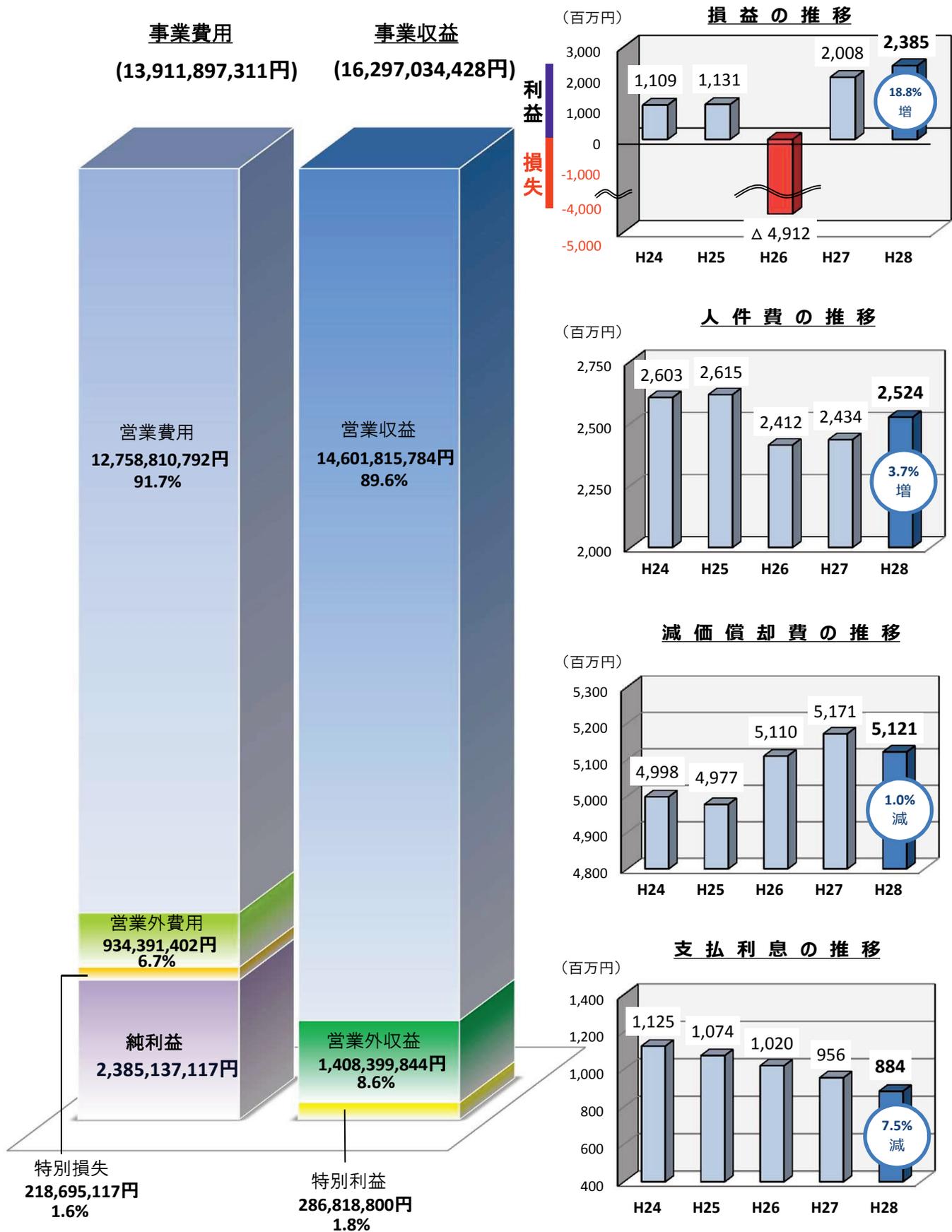
不用額
603,968,753円
4.6%繰越額
1,915,605,600円
14.7%投資
30,000,000円
0.3%
(予算との比較 100.0%)

建設改良費の内訳 7,671,534,401円

項目	金額(円)	構成比(%)
1 原水施設費	10,490,000	0.1%
2 浄水施設費	874,500,508	11.4%
3 配水施設費	108,931,500	1.4%
4 営業設備費	200,910,586	2.6%
5 基幹管路更新費	1,743,535,085	22.7%
6 基幹管路整備費	125,863,000	1.7%
7 配水支管更新費	2,360,695,271	30.8%
8 配水支管整備費	993,640,667	13.0%
9 阿賀野川浄水場施設整備費	692,117,038	9.0%
10 配水場施設整備費	38,416,667	0.5%
11 仮払消費税及び地方消費税	522,434,079	6.8%

2. 財務諸表

(1) 損益計算書

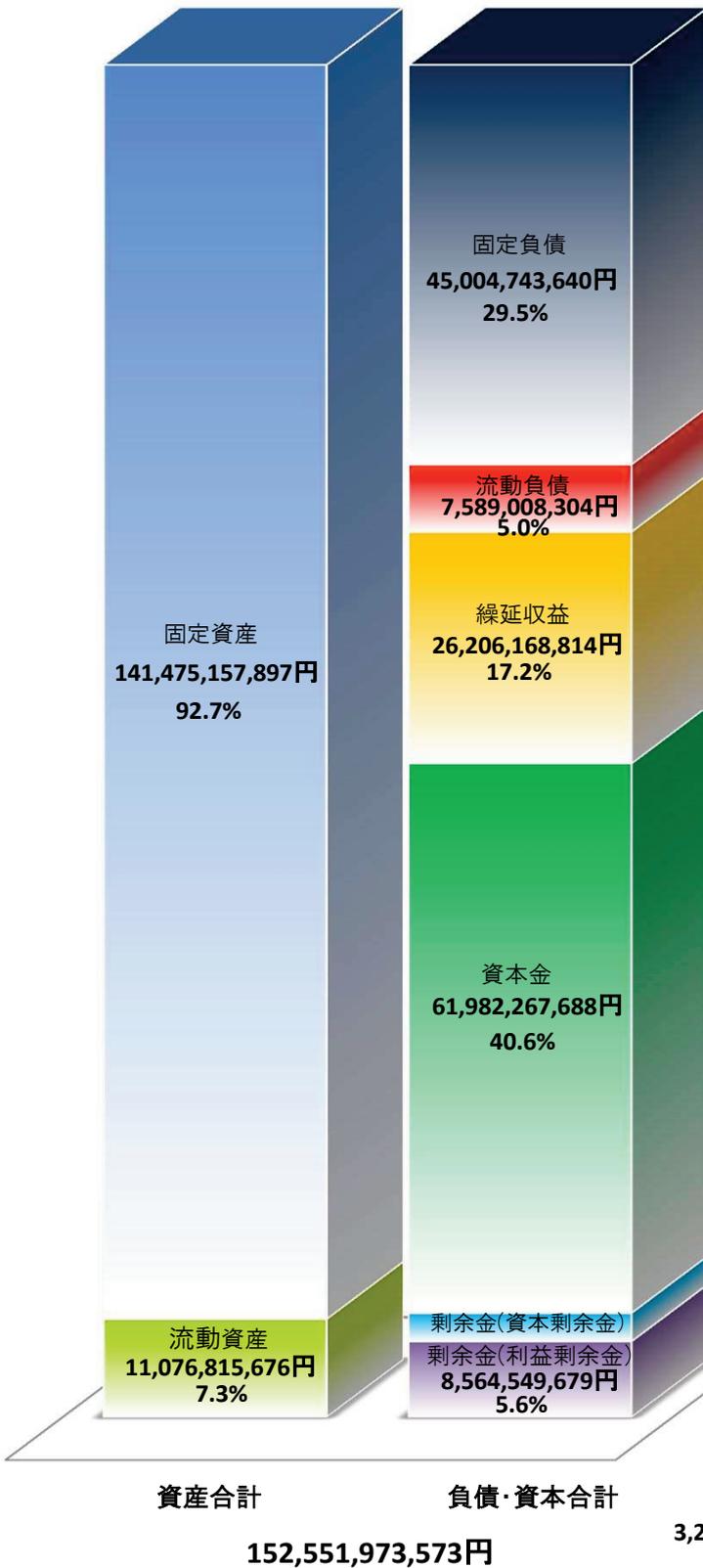


(2) 剰余金計算書及び剰余金処分計算書

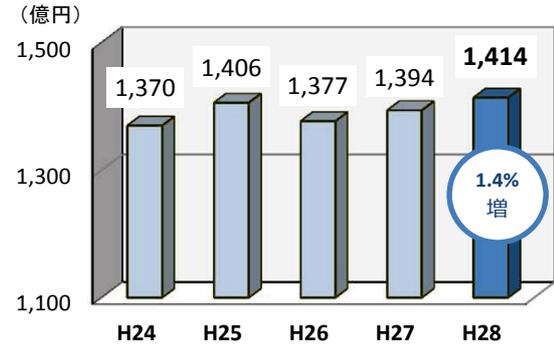
(単位 円)

年度		平成27年度	平成28年度
項目			
A 年度末残高	建設改良積立金	6,584,346,710	6,179,412,562
	未処分利益剰余金(繰越分)	0	0
	純利益(未処分)	2,008,374,988	2,385,137,117
	計	8,592,721,698	8,564,549,679
B 当年度充当(処分)額	建設改良積立金	2,413,309,136	2,108,594,670
	繰越利益剰余金	0	0
	純利益	0	0
	計	2,413,309,136	2,108,594,670
年度末利益剰余金残高	建設改良積立金	4,171,037,574	4,070,817,892
	未処分利益剰余金		
	1)繰越分	0	0
	2)その他未処分利益剰余金変動額 <建設改良積立金充当振替額>	2,413,309,136	2,108,594,670
	3)純利益(未処分)	2,008,374,988	2,385,137,117
計	8,592,721,698	8,564,549,679	
◎ 利益剰余金年度末残高		8,592,721,698円	8,564,549,679円
◎ うち未処分利益剰余金年度末残高 (ア+イ)		4,421,684,124円	4,493,731,787円
		議決処分	議決処分
		建設改良積立金へ積立 (2,008,374,988円)	建設改良積立金へ積立 (2,385,137,117円)
		資本金へ組入 (2,413,309,136円)	資本金へ組入 (2,108,594,670円)

(3) 貸借対照表

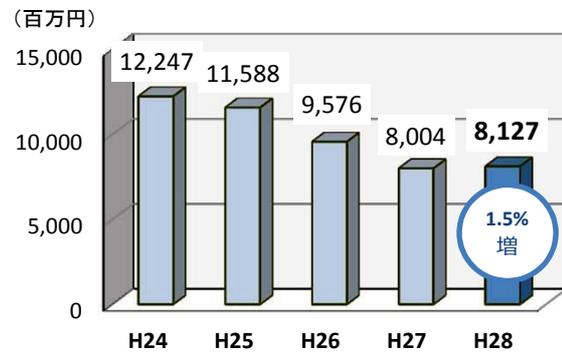


1. 固定資産

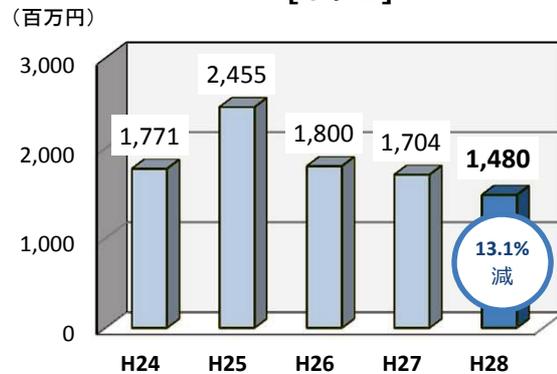


2. 流動資産

[現金・預金]

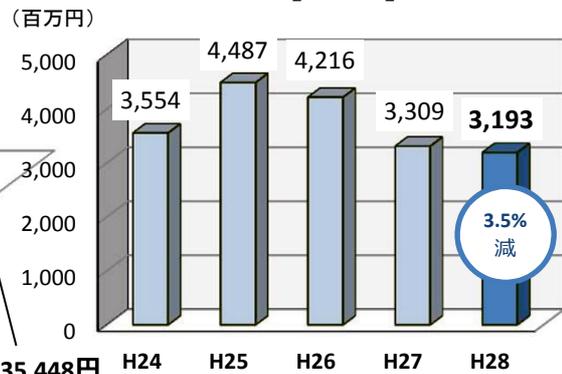


[未収金]



3. 流動負債

[未払金]



3,205,235,448円
2.1%

3. 附属書類

(決算書P16参照)

(1) キャッシュ・フロー計算書 [間接法による]

(単位 千円)

項目	平成28年度	平成27年度	平成26年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	6,402,300	5,798,008	6,471,106
1 当年度純利益	2,385,137	2,008,375	▲ 4,912,238
2 減価償却費(+)	5,121,016	5,171,385	5,110,906
3 資産減耗費(+)	226,054	234,432	472,525
4 減損損失(+)	0	0	3,848,062
5 引当金の増加(+), 減少(▲)	▲ 109,287	▲ 217,148	2,719,432
6 長期前受金戻入額(▲)	▲ 1,038,480	▲ 1,101,825	▲ 1,173,805
7 受取利息及び受取配当金	▲ 1,542	▲ 2,716	▲ 3,164
8 支払利息及び企業債取扱諸費	884,882	956,250	1,020,488
9 固定資産売却益(▲), 損(+)	▲ 166	0	0
10 未収金の増加(▲), 減少(+)	▲ 19,184	▲ 35,662	479,223
11 未払金の増加(+), 減少(▲)	▲ 114,283	86,897	▲ 117,077
12 貯蔵品の増加(▲), 減少(+)	▲ 17,933	1,029	▲ 34,623
13 その他流動資産の増加(▲), 減少(+)	▲ 21	▲ 380,351	54,614
14 その他流動負債の増加(+), 減少(▲)	3,302	30,876	24,427
15 その他	▲ 33,855	0	▲ 340
小計	7,285,640	6,751,542	7,488,430
16 利息及び配当金の受取額	1,542	2,716	3,164
17 利息の支払額	▲ 884,882	▲ 956,250	▲ 1,020,488
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 6,604,613	▲ 6,806,319	▲ 8,143,481
1 有形及び無形固定資産の取得による支出(▲)	▲ 7,326,658	▲ 7,682,257	▲ 8,907,079
2 有形及び無形固定資産の売却による収入(+)	166	0	0
3 国庫補助金等による収入(+)	751,879	875,938	742,167
4 投資の返還による収入(+)	0	0	21,431
5 他会計からの短期貸付金償還金収入(+)	300,000	1,500,000	2,500,000
6 他会計への短期貸付金支出(▲)	▲ 300,000	▲ 1,500,000	▲ 2,500,000
7 他団体への長期貸付金支出(▲)	▲ 30,000	0	0
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	325,430	▲ 564,207	▲ 339,629
1 建設改良等の財源に充てるための企業債による収入(+)	2,976,000	2,099,000	2,153,000
2 建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出(▲)	▲ 2,852,431	▲ 2,979,601	▲ 3,056,784
3 他会計からの出資による収入(+)	254,000	360,000	580,000
4 リース債務の返済による支出(▲)	▲ 52,139	▲ 43,606	▲ 15,845
IV 資金増加額 (又は減少額)	123,117	▲ 1,572,518	▲ 2,012,004
V 資金期首残高	8,004,232	9,576,750	11,588,754
VI 資金期末残高	8,127,349	8,004,232	9,576,750

(2) 企業債現有高の状況

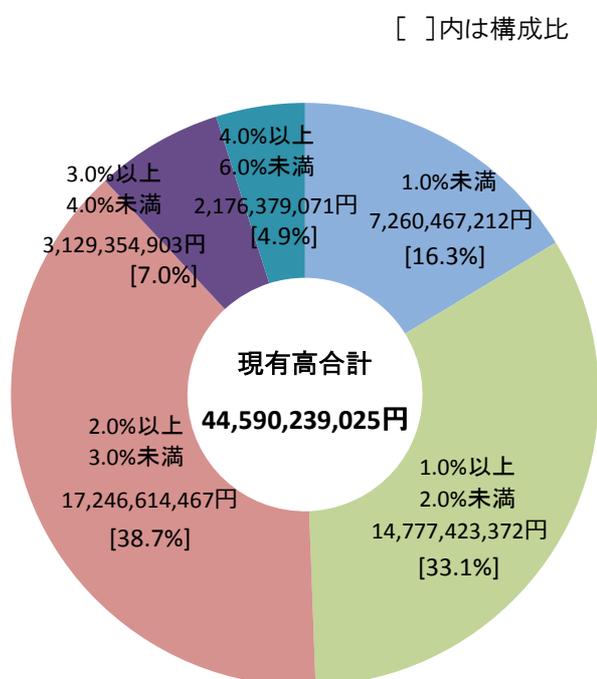
(ア)借入事業別一覧

事業名	(単位 円)	
	現有高	構成比
第5回拡張事業	407,966,003	0.92%
浄水場用地取得事業	1,274,344,388	2.86%
配水管整備事業	2,224,656,304	4.99%
青山浄水場施設改良事業	21,838,275	0.05%
配水管幹線整備事業	3,674,485,907	8.24%
信濃川浄水場建設事業	11,233,577,395	25.19%
広域系統連絡管整備事業	4,813,164,765	10.79%
老朽管改良事業	3,595,636,623	8.06%
基幹管路更新事業	1,965,000,000	4.41%
配水支管更新事業	2,187,000,000	4.90%
浄水施設改良事業	324,002,695	0.73%
安全対策事業	799,000,000	1.79%
青山浄水場施設整備事業	2,957,000,000	6.63%
阿賀野川浄水場施設整備事業	558,000,000	1.25%
配水場施設整備事業	38,000,000	0.09%
黒埼地区上水道事業	10,493,684	0.02%
新津地区上水道事業	1,625,646,789	3.65%
白根地区上水道事業	2,413,215,089	5.41%
豊栄地区上水道事業	654,985,405	1.47%
小須戸地区上水道事業	914,657,511	2.05%
横越地区上水道事業	14,721,673	0.03%
亀田地区上水道事業	78,117,382	0.18%
岩室地区上水道事業	94,847,765	0.21%
西川地区上水道事業	364,642,086	0.82%
中之口・渦東地区上水道事業	94,470,748	0.21%
月渦地区簡易水道事業	402,738,036	0.90%
巻地区上水道事業	760,657,502	1.71%
高金利対策借換債	1,087,373,000	2.44%
合計	44,590,239,025	100.00%

(イ)借入先別一覧

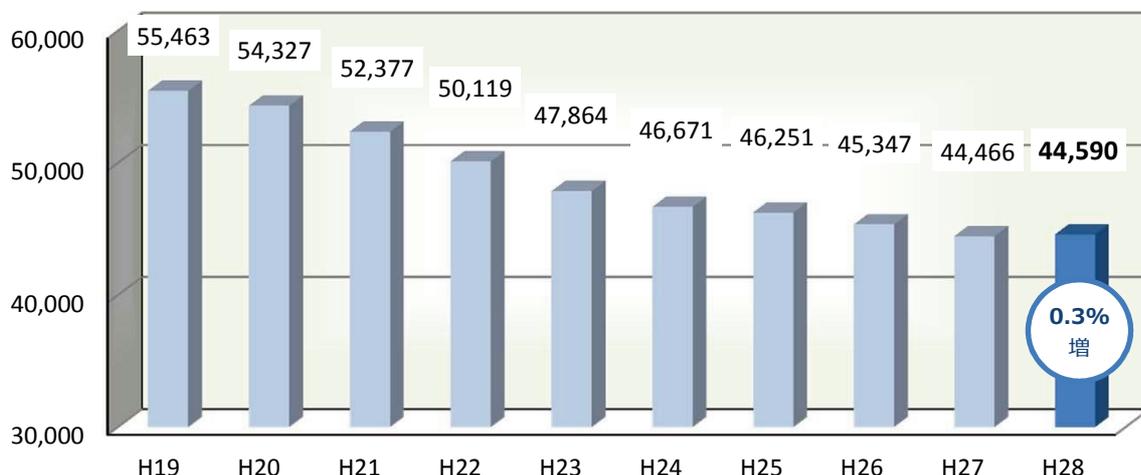
借入先	(単位 円)	
	現有高	構成比
財務省	31,358,125,742	70.32%
地方公共団体金融機構	12,144,740,283	27.24%
(株)かんぽ生命保険	192,936,000	0.43%
(株)大光銀行	11,289,000	0.03%
信金中央金庫	883,148,000	1.98%
合計	44,590,239,025	100.00%

(ウ)利率別一覧



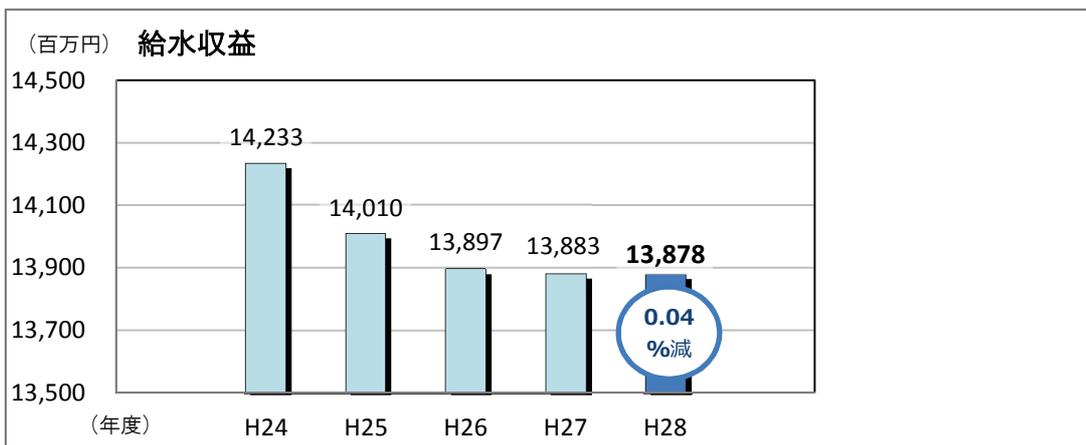
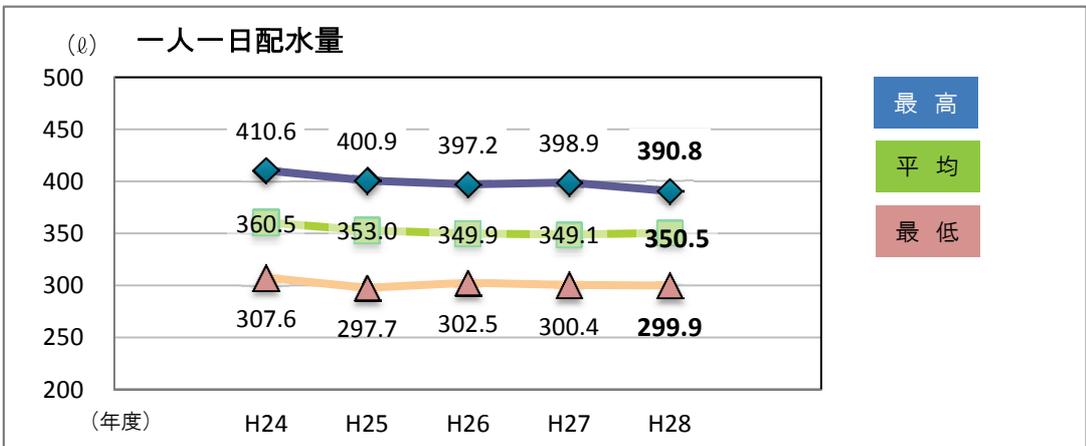
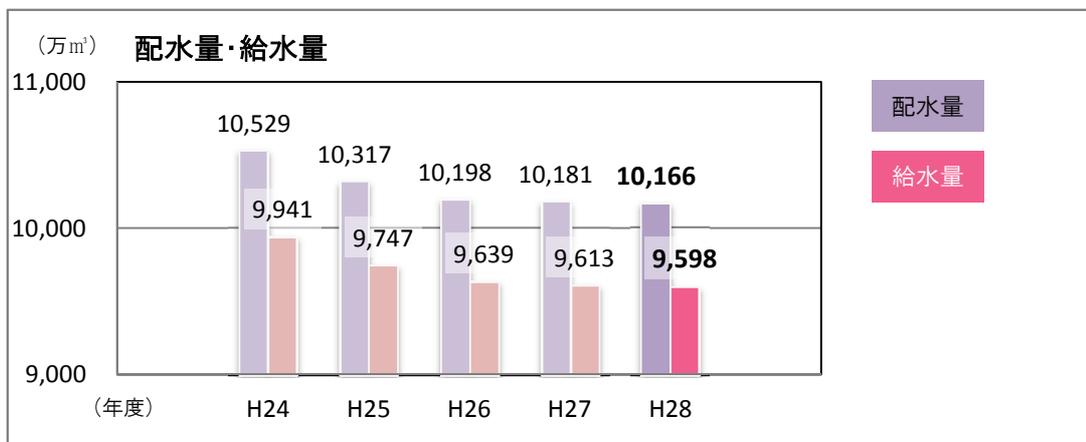
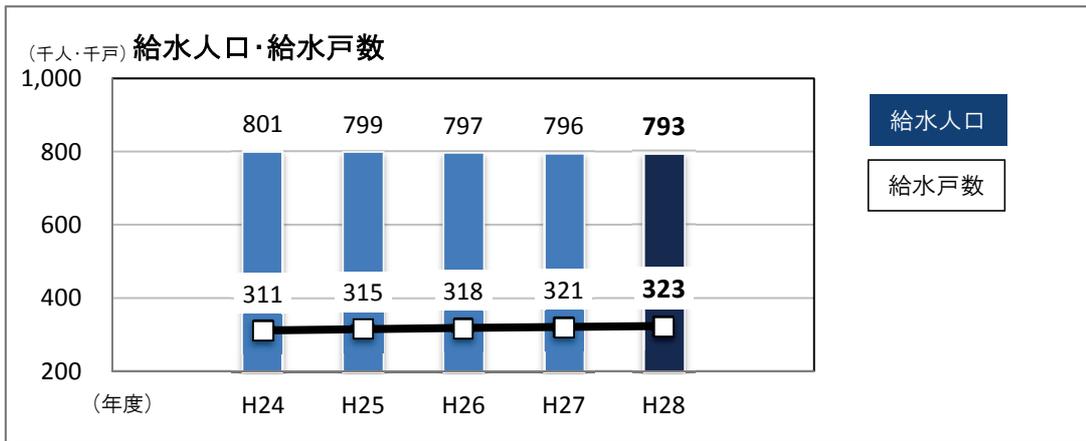
(百万円)

(エ)現有高の年度別推移



4. 事業報告書

(1) 業務



5. その他

(1) 経営分析指標

項目		年度		24	25	26	27	28	政令指定都市 の事業平均 (平成27年度) ※	
施設 及び 業務 概要	1	施設利用率	%	64.29 (63.78)	63.00	63.50 (62.27)	63.22	63.30	60.74	
	2	最大稼働率	%	73.55 (72.96)	71.72	72.30 (70.90)	72.51	70.84	69.08	
	3	負荷率	%	87.42	87.83	87.83	87.19	89.36	87.79	
	4	供給単価	円/m ³	143.17	143.74	144.18	144.43	144.60	167.07	
	5	給水原価	円/m ³	132.92	137.80	129.31 《140.56》	131.24 《142.14》	125.65 《136.47》	154.69 《166.05》	
	費用 構成 内訳		職員給与費	円/m ³	24.43	24.97	23.09	23.38	24.44	26.03
			企業債利息	円/m ³	11.32	11.03	10.60	9.95	9.22	10.47
			減価償却費	円/m ³	50.28	51.07	53.02	53.70	53.22	56.21
			動力費	円/m ³	5.23	5.92	6.76	6.31	5.73	4.80
			修繕費	円/m ³	11.97	13.60	14.35	14.92	13.85	10.16
			材料費	円/m ³	0.03	0.04	0.04	0.06	0.04	0.71
			薬品費	円/m ³	2.22	2.10	2.11	2.20	1.62	0.99
			委託料	円/m ³	12.06	14.23	14.21	14.33	14.70	14.95
			受水費	円/m ³	4.32	4.38	4.42	4.45	4.44	25.93
		その他	円/m ³	11.06	10.46	11.96	12.84	9.21	15.80	
	長期前受金戻入	円/m ³	-	-	△ 11.25	△ 10.90	△ 10.82	△ 11.36		
6	料金回収率	%	107.71	104.31	111.49	110.05	115.08	108.56		
7	有収率	%	94.41	94.48	94.51	94.42	94.41	92.09		
8	職員一人 あたり	給水人口	人	2,853 [2,655]	2,806 [2,596]	2,760 [2,565]	2,774 [2,465]	2,813 [2,479]	3,334	
9		給水量	m ³	353,787 [329,186]	342,014 [316,474]	333,534 [309,940]	334,949 [297,617]	340,365 [299,947]	352,011	
10		営業収益	千円	52,914 [49,235]	51,669 [47,811]	50,458 [46,889]	50,874 [45,204]	51,779 [45,631]	61,443	
損益 収支 ・ 資本 収支	11	総収支比率	%	107.83	107.82	77.76	113.83	117.14	115.89	
	12	経常収支比率	%	107.16	104.63	110.86	112.92	116.92	115.78	
	13	流動比率	%	323.76	263.57	141.69	143.02	145.96	192.41	
	14	料金収入に 対する比率	企業債残高	%	327.91	330.12	326.30	320.28	321.29	296.91
	15		企業債償還元金	%	23.06	22.72	22.00	21.46	20.55	19.59
	16		企業債利息	%	7.91	7.67	7.34	6.89	6.38	6.31
	17		職員給与費	%	17.07	17.37	16.02	16.19	16.90	15.84

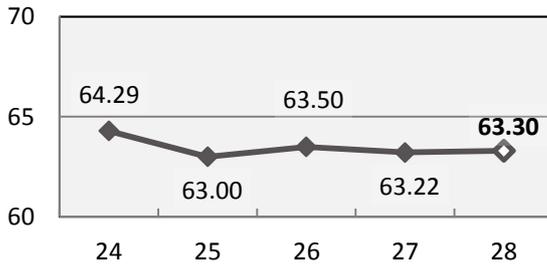
※「政令指定都市の事業平均」の数値は、大半が県営水道の千葉市・相模原市を除いて算出

- ・ ()内は年度途中で廃止した浄水場を含んだ数値
- ・ 局長及び再任用職員を含まない損益勘定支弁職員数により算出, []内は再任用職員数を含む
- ・ 26年度以降、減価償却見合いの長期前受金戻入額を控除し給水原価を算出、《 》内は未控除での数値

主な指標について

1. 施設利用率

(%)



算出方法

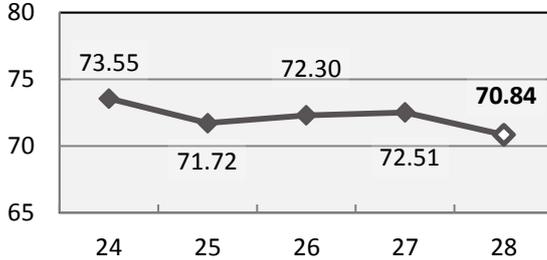
$$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$$

説明

一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適性規模を判断する指標です。当該指標については、明確な数値基準はありませんが、一般的には高い数値であることが望まれます。

2. 最大稼働率

(%)



算出方法

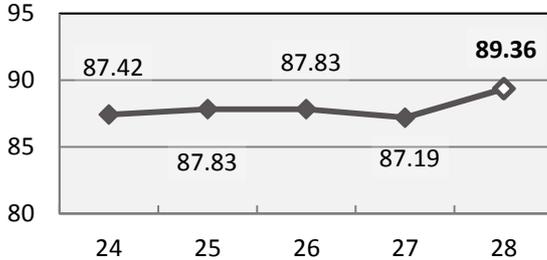
$$\frac{\text{一日最大配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$$

説明

将来の水需要に対応すべき先行投資の適正を示します。100%に近づくほど良いが、100%を超えると能力不足を意味し、大きく下回ると過大施設を有していることとなります。

3. 負荷率

(%)



算出方法

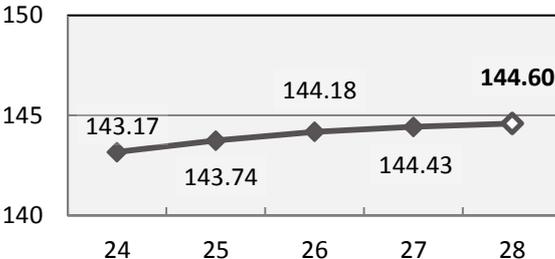
$$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日最大配水量}} \times 100$$

説明

比率が高いほど施設効率が低いことを表しています。施設の効率性については、施設利用率、最大稼働率と併せて判断することとなります。

4. 供給単価

(円)



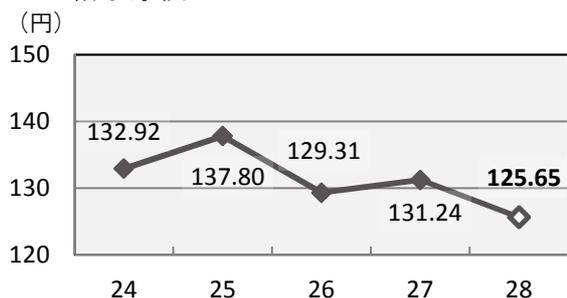
算出方法

$$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$$

説明

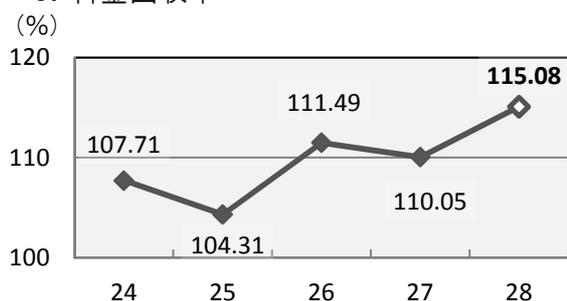
有収水量1m³あたりの販売価格を表す指標です。

5. 給水原価



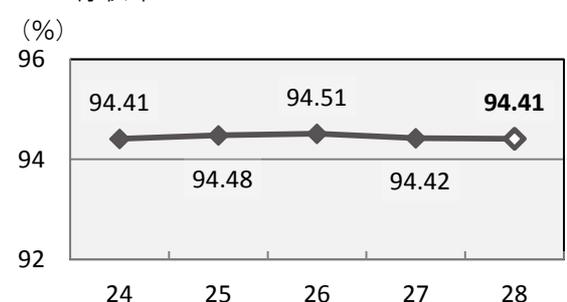
算出方法	$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料} \cdot \text{不用品売却原価等}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$
説明	有収水量1m ³ あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。当該指標については、明確な数値基準はありませんが、必要に応じて、投資の効率化や維持管理費の削減といった経営改善が必要となります。

6. 料金回収率



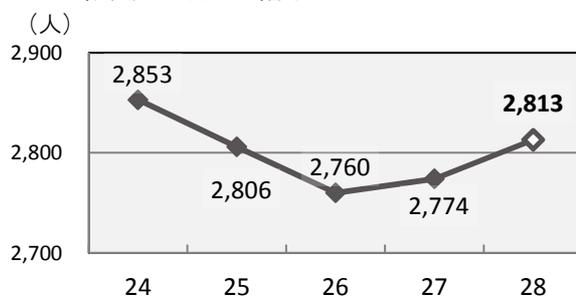
算出方法	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100$
説明	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金回収率が100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを意味しています。

7. 有収率



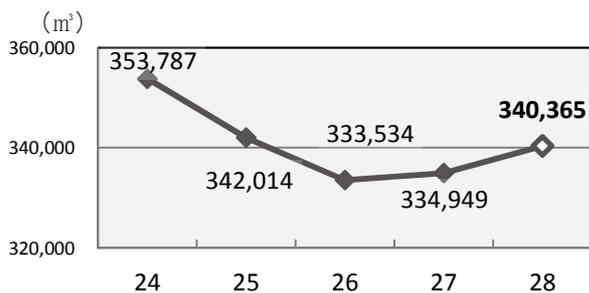
算出方法	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$
説明	施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標であり、100%に近ければ近いほど施設の稼働状況が収益に反映されていると言えます。

8. 職員1人あたり給水人口



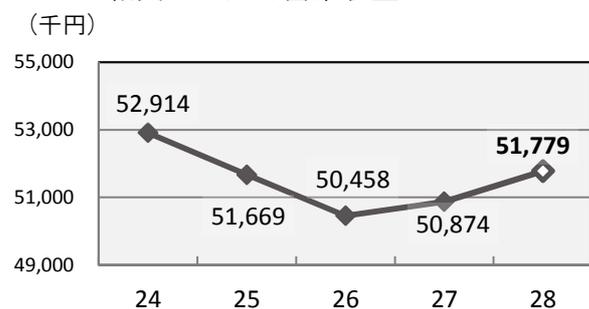
算出方法	$\frac{\text{現在給水人口}}{\text{損益勘定職員数}}$
説明	損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、給水人口を基準として把握するための指標です。

9. 職員1人あたり給水量



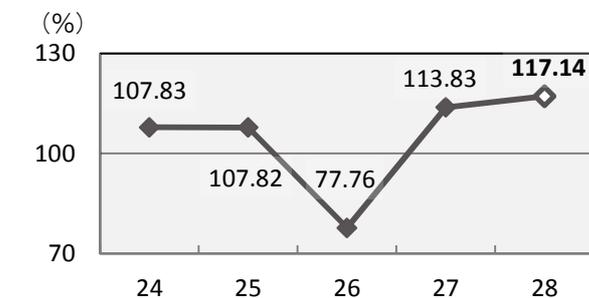
算出方法	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定職員数}}$
説明	損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、有収水量を基準として把握するための指標です。

10. 職員1人あたり営業収益



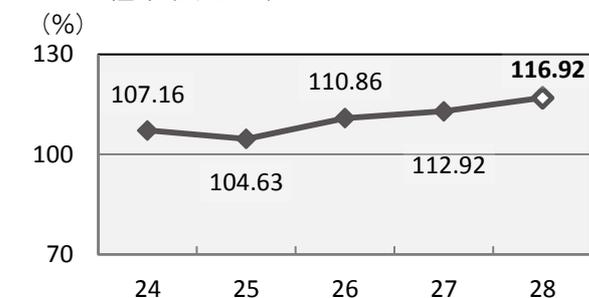
算出方法	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{損益勘定職員数}}$
説明	損益勘定所属職員1人当たりの生産性について、営業収益を基準として把握するための指標です。

11. 総収支比率



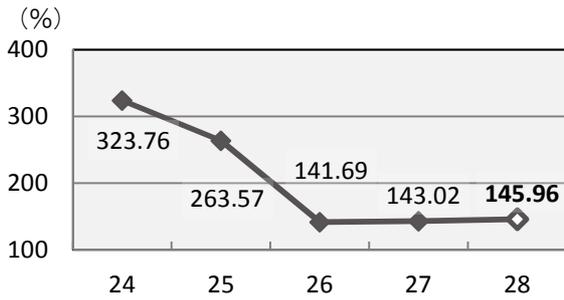
算出方法	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
説明	事業活動を伴う全ての収支のバランスから支払能力と安定性を分析する指標です。100%以上の場合は、純利益が発生します。

12. 経常収支比率



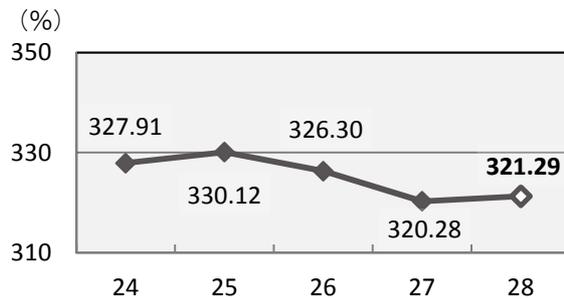
算出方法	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
説明	当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賅えているかを表す指標で、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっていることが必要となります。

13. 流動比率



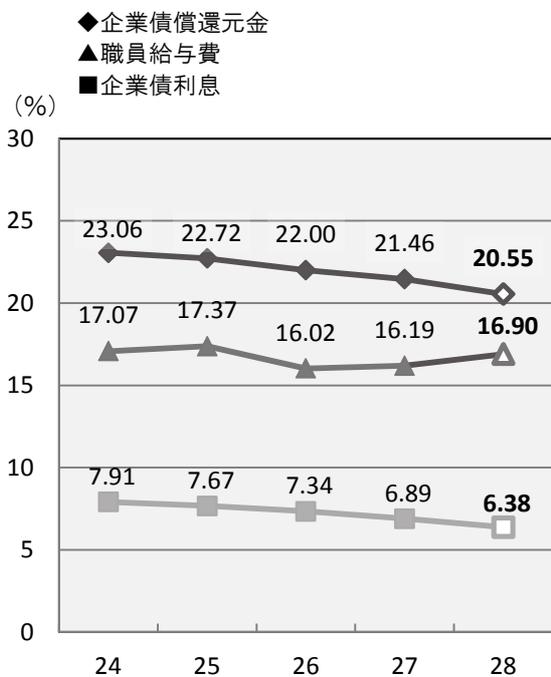
算出方法	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
説明	1年以内に支払うべき債務に対して支払うことのできる現金等がある状況を示し、100%以上が望まれます。100%未満であっても、流動負債には将来的な給水収益等の原資となる企業債も含まれるため、多角的な分析も必要となります。

14. 企業債残高 対 給水収益比率



算出方法	$\frac{\text{企業債現在高合計}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。

15～17. 企業債償還元金, 企業債利息, 職員給与費 対 給水収益比率



算出方法	◆企業債償還元金 対 給水収益比率 $\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{給水収益}} \times 100$
算出方法	■企業債利息 対 給水収益比率 $\frac{\text{企業債利息}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準で、比率は低いほど望ましいと言えます。

算出方法	▲職員給与費 対 給水収益比率 $\frac{\text{職員給与費}}{\text{給水収益}} \times 100$
説明	料金収入に対する職員給与費の割合を示す指標です。

平成28年度水道事業会計決算概要

1. 収支状況

[1] 収益的収支

()税抜額 単位:千円

区分	予 算	決 算	差 引
収入	17,410,797 (16,241,364)	17,474,135 (16,297,034)	63,338 (55,670)
支出	15,314,447 (14,702,046)	14,587,054 (13,911,897)	△ 727,393 △ (790,149)
差引	2,096,350 (1,539,318)	2,887,081 (2,385,137)	790,731 (845,819)
		純利益	好転額

○ 収支増減の内訳

[収入]

執行率

① 給水収益		109,752 千円	100.7 %
② 他会計負担金	△	257 千円	99.8 %
③ その他営業収益	△	18,976 千円	97.2 %
④ 加入金	△	1,560 千円	99.4 %
⑤ 雑収益		28,730 千円	157.9 %
⑥ 長期前受金戻入	△	58,710 千円	94.6 %
⑦ その他		4,359 千円	101.3 %
		63,338 千円	100.4 %

[支出]

執行率

① 委託料	△	263,672 千円	88.9 %
② 固定資産除却費	△	161,960 千円	58.3 %
③ 動力費	△	115,599 千円	83.7 %
④ 修繕費	△	41,515 千円	97.2 %
⑤ 薬品費	△	36,852 千円	82.0 %
⑥ 減価償却費	△	21,773 千円	99.6 %
⑦ その他	△	86,022 千円	98.3 %
	△	727,393 千円	95.3 %

[2] 資本的収支

単位:千円

区分	予 算	決 算	差 引
収入	4,906,314	3,737,874	△ 1,168,440
支出	13,073,540	10,553,966	△ 2,519,574
差引	△ 8,167,226	△ 6,816,092	1,351,134

— 内繰越額 1,915,606

∴ 不用額 603,968

(収入予算額に繰越額 976,711千円含む)

補てん必要額

圧縮額

(支出予算額に繰越額 1,849,708千円含む)

↓決算差引不足額は、減価償却費等の内部留保資金で補てんする。

※繰越額の内訳

単位:千円

事業名	翌年度繰越額	財 源 内 訳				
		企業債	国庫補助金	出資金	他事業負担金	内部留保資金
基幹管路更新事業	1,182,897	714,000	190,210			278,687
基幹管路整備事業	107,352			50,000		57,352
配水支管更新事業	176,040					176,040
配水支管整備工事	142,479				124,929	17,550
浄水場施設整備工事	46,764					46,764
阿賀野川浄水場施設整備事業(継続費)	238,384	182,000				56,384
配水場施設整備事業(継続費)	21,690	8,000				13,690
計	1,915,606	904,000	190,210	50,000	124,929	646,467

○ 収支増減の内訳

[収入]

① 借入企業債	△	904,000 千円
② 補償金	△	174,549 千円
③ 国庫補助金	△	25,268 千円
④ その他	△	64,623 千円
	△	1,168,440 千円

[支出]

① 建設改良費	△	2,519,574 千円
	△	2,519,574 千円
内繰越額	—	1,915,606 千円
(不用額)→	△	603,968 千円

平成28年度 決算審査意見（抜粋）
（地方公営企業法第30条第2項の規定に基づく監査委員の意見）

(1) 事業の概況

当年度の水道事業は、「新・新潟市水道事業中長期経営計画（新・マスタープラン）」の前期実施計画に基づき、老朽化した浄配水施設の更新と耐震化を図るため、阿賀野川浄水場施設整備事業を進めるとともに、新たに、配水場施設整備事業に着手し、当年度は内野配水場の整備を行った。

また、管路施設においては、老朽化した基幹管路や配水支管の更新を行うとともに、巻浄水場系一戸頭浄水場系間の相互連絡管の整備を継続したほか、医療機関などの重要施設を対象とした配水管の耐震化を進めた。

なお、水需要の減少に伴い給水量は年々減少しているが、当年度も前年度に比べ 14 万 7,342 m³減少し、9,598 万 2,888 m³となり、新・マスタープランの見込みを下回っている。

(2) 経営状況

当年度の経営状況について、営業利益は 18 億 4,300 万円を計上し、前年度に比べ 4 億 3,576 万円増加した。これは、近年の水需要の低下に伴い、給水収益が 6 期連続の減少となったものの、資産減耗費において前年度に計上した臨時的経費である小須戸・長戸呂浄水場取水施設撤去費（約 3 億円）の影響がなくなったことや、当年度の河川の水質が良好だったことによる薬品費の減、電気料金における燃料費調整単価が下がったことによる動力費の減といった外的要因などにより、営業費用が 4 億 3,483 万円減少したことが主な要因である。

(3) 財政状態

当年度の企業債の発行額は 29 億 7,600 万円、元金償還額は 28 億 5,243 万円となり、発行額が償還額を上回ったことから、未償還残高は、前年度に比べ 1 億 2,356 万円増の 445 億 9,023 万円となり、11 期ぶりに増加に転じた。これは、主に 2 年目を迎えた阿賀野川浄水場施設整備事業に伴う企業債の発行が大幅に増えたことによるものであるが、今後も、昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて集中的に建設された浄配水施設や、昭和 39 年に発生した新潟地震後に布設された多くの管路施設の老朽化に伴う更新だけでなく、施設の耐震化の必要性も高まっていることから、施設の更新需要の拡大が見込まれている。

これまで、将来世代へ過度な負担を残さないよう企業債の発行を抑制してきたが、今後は給水収益が年々減少することが見込まれる中で、施設の更新需要に対応するための財源を確保する必要もあることから、必要な資金の確保と将来世代への過度な負担の抑制との両面を考慮したうえで、適正な資金管理を行っていくことが望まれる。

(4) 今後の課題

本市の給水人口及び給水収益の推移をみると、近年はともに減少傾向にあり、新・マスタープランにおいても、今後も人口減少による給水収益の減少が見込まれている。

その一方で、更新時期を迎えた施設の更新需要も見込まれている。水道施設の老朽化や経年劣化などは全国的にも重要な問題となっており、老朽化に伴う漏水事故は給水に支障を与えるばかりでなく、周辺に甚大な被害を及ぼす危険もあることから、継続的な施設の更新は必要不可欠な事業である。

給水収益の減少と施設の更新という2つの大きな課題に直面している中で、将来にわたって安全でおいしい水道水を安定的に供給していくためには、これまで以上に事業の効率化を図ることなどにより、施設の更新に必要な資金を確保していかなければならない。こうした状況から、当年度は増益となっているものの、水道事業を取り巻く環境は引き続き厳しい状況にあるものといえる。

本市の水道事業は、これまで平成17年の広域市町村合併後に引き継いだ浄配水施設の統廃合を行い、施設規模の適正化を図ったほか、平成29年度からは水道料金等の収納業務について新たに民間へ委託するなど、常に事業の効率化、経費削減に向けた取組を行っている。今後ともさらなる事業の効率化を図るとともに、新・マスタープラン中期実施計画（平成30～32年度）を策定するにあたっては、将来的な水需要減少を見据えた管路、浄配水施設の計画的更新や事業費の平準化など、社会情勢の変化を踏まえつつ十分検討されたい。

第7図 給水人口・給水収益の推移

